

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し	1
	(1) 入学定員設定の考え方	1
	(2) 定員充足の見込み	1
	(3) 定員充足の根拠となる客観的データの概要	3
	(4) 学生納付金の設定の考え方	5
	(5) 学生確保に向けた具体的な取組み	6
2	人材需要の動向等社会の要請	7
	(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	7
	(2) 育成する人材像	7
	(3) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠	9

1 学生の確保の見通し

(1) 入学定員設定の考え方

国際観光芸術専門職大学芸術文化観光学部芸術文化観光学科は、入学定員を80人と設定している。

ア 本学の特徴から見た検証

本学は、地域活性化における芸術文化と観光の果たす役割を理解し、両分野の視点を生かし、芸術文化と観光に関する事業活動を推進することで地域の新たな活力を創出する専門職業人を養成する。

本学が育成する専門職業人においては、「対話的コミュニケーション能力」「芸術文化マネジメント能力」「観光マネジメント能力」「価値創造の能力」「地域においてユニバーサルな社会づくりを推進する能力」が求められる。これらの能力を養成するためには、芸術文化及び観光の両分野を架橋して学修を進める必要があることから1学部1学科の構成としている。

専門職大学では、1回の授業当たりの上限人数が原則40人とされていること、本学への入学意向調査に基づく入学希望者数、求人意向調査に基づく求人募集者数を前提として、職業専門科目の選択において芸術文化分野を中心に履修する学生と観光分野を中心に履修する学生がそれぞれ40人と想定し、定員を設定している。芸術文化分野、観光分野が各1クラス相当とする教学運営により、各々を主体とする科目編成及び受講体制を構築しやすく、学生の能力向上に効果的かつ能率的な教育効果を実現できると思料することから入学定員を80人としている。

(2) 定員充足の見込み

ア 近隣大学との比較検証

本学設置予定の兵庫県北部の但馬地域にはこれまで4年制の大学が存在しなかった。そのため、同じく近畿北部地域に位置し、地域経営学部を有する公立大学である「福知山公立大学」を比較対象とした。本学予定地から半径50km圏内に「福知山公立大学」以外の4年制の大学は存在しない。【資料1】

なお、本学を設置する豊岡市の人口は82,250人、福知山公立大学のある京都府福知山市は78,935人（いずれも平成27年国勢調査）と人口規模も同様の地方都市である。また、両市ともに、近畿地方の人口集中地区である京阪神地区の大阪駅からは、JRの特急列車で1時間30分以上かかる上、運行本数も1時間に1本程度であるため、通学範囲には入らないという点で非常に類似した地域性をもっている。

福知山公立大学地域経営学部では、開学時の平成28年度の入学定員を50人と設定し、志願者が1,669人となっている。また、翌平成29年度から入学定員を120人に増員し、入学定員を上回る926人の志願者を得ている。以降、平成30年度、761人、平成31年度、665人と定員を大きく上回る志願者を得ている。

また、同学部の入学者は京都府及び近畿内に留まらず（平成 31 年度入学者 132 人中、京都府内 13 人、近畿内（京都府内含む）33 人）、全国から学生が入学している。以上のことから本学においても 80 人の入学定員は確保できるものと考えている。

イ 他大学の志願状況

本学の学問分野は、「観光学関係」及び「芸術学関係（舞台芸術系）」を中心とするが、経営学に関する基礎知識も学修する。以下では、本学部と競合する可能性のある近畿地区及び但馬地域に隣接する鳥取県の国公立大学の関連学部の志願者状況を確認する。ただし、近隣に「芸術学関係（舞台芸術系）」の学部を有する国公立大学は存在しない。

近畿地区内の私立大学で舞台芸術系の学部・学科を有する大学としては、大阪芸術大学、京都造形芸術大学が挙げられる。

なお、福知山公立大学地域経営学部地域経営学科においては「交流観光系」科目を配置しており、また、奈良県立大学地域創造学部地域創造学科においては「観光創造コモンズ」という学習プログラムを開設している。

関連学部の平成 31 年度及び平成 30 年度の一般入試等の志願状況は下記のとおりであり、全ての学部において 2.8 倍以上の志願倍率を確保している。

【関連学部の一般入試等志願状況】（各大学ホームページから）

※大阪芸術大学、京都造形芸術大学は全ての入試方式の合計の定員及び志願者数

〈平成 31 年度〉

大学	学部学科（日程）	定員	志願者数	志願倍率
福知山公立大学	地域経営学部 地域経営学科（前期）	50 人	210 人	4.2 倍
	地域経営学部 地域経営学科（後期）	10 人	163 人	16.3 倍
公立鳥取環境大学	経営学部 経営学科（前期 A 方式）	50 人	285 人	5.7 倍
	経営学部 経営学科（前期 B 方式）	25 人	220 人	8.8 倍
	経営学部 経営学科（後期）	10 人	323 人	32.3 倍
奈良県立大学	地域創造学部 地域創造学科（前期）	65 人	361 人	5.6 倍
	地域創造学部 地域創造学科（中期）	50 人	971 人	19.4 倍
和歌山大学	観光学部（前期）	55 人	172 人	3.1 倍
	観光学部（後期）	28 人	335 人	12.0 倍
大阪芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	170 人	494 人	2.9 倍
京都造形芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	60 人	505 人	8.4 倍

〈平成 30 年度〉

大学	学部学科 (日程)	定員	志願者数	志願倍率
福知山公立大学	地域経営学部 地域経営学科 (前期)	50 人	204 人	4.1 倍
	地域経営学部 地域経営学科 (後期)	10 人	134 人	13.4 倍
公立鳥取環境大学	経営学部 経営学科 (前期 A 方式)	50 人	456 人	9.1 倍
	経営学部 経営学科 (前期 B 方式)	25 人	178 人	7.1 倍
	経営学部 経営学科 (後期)	10 人	318 人	31.8 倍
奈良県立大学	地域創造学部 地域創造学科 (前期)	65 人	274 人	4.2 倍
	地域創造学部 地域創造学科 (中期)	50 人	802 人	16.0 倍
和歌山大学	観光学部 (前期)	55 人	164 人	3.0 倍
	観光学部 (後期)	28 人	185 人	6.6 倍
大阪芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	170 人	484 人	2.8 倍
京都造形芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	60 人	381 人	6.3 倍

(3) 定員充足の根拠となる客観的データの概要

本学の学生確保の見通しを客観的に把握するため、開学時の入学生となる高校 2 年生を対象に、本学の特色に対する関心度、入学意向等を聴取するアンケート調査を令和元年 5 月から 7 月に実施した。

ア アンケート概要

アンケート調査は、兵庫県立大学文系学部に進学者（過去 4 年間）のある兵庫県内高校及び本学の学問分野である演劇科、観光科等のある県外高校を対象とした。

国公立大学で初めて演劇を本格的に学べるという本学の特徴があるため、全国からの入学者を想定しているが、調査にあたっては県内高校（調査依頼 66 校中 51 校）を中心に行い、県内高校生の動向から全国的な動向を想定することとする。

また、調査の実施にあたっては、調査票とともに、大学の理念、育成する人材像、主な授業科目等を掲載したリーフレット【資料 2】を配布し、本学の概要について十分な理解を促した上で回答を依頼している。

調査の概要は以下のとおりである。

調査対象	高校2年生	
調査エリア	兵庫県、青森県、福島県、大阪府、奈良県、 島根県、広島県、愛媛県、香川県	
調査方法	高校留置き調査	
調査対象数	依頼数 (依頼校)	11,360人 (66校)
	回収数 (回収率)	9,823人(64校) (9,823÷11,360=86.5%)
調査時期	令和元年5月～7月	
調査実施機関	一般財団法人 日本開発構想研究所	

イ 調査結果

「本学の特色についての関心度」をはかるため6つの特色を示し、それぞれの関心の高さを質問したところ、「旅行会社、航空・鉄道・バス会社、劇場、文化ホール、ホテル、旅館、自治体等での実習ができる」については、47.6%(4,334人)の回答者が「非常に関心がある」又は「関心がある」と回答した。また、「1学部1学科80人の徹底した少人数教育で充実した指導が受けられる」についても43.5%(3,958人)の回答者が「非常に関心がある」又は「関心がある」と回答した。このことから、本学の掲げる少人数教育及び少人数で行う臨地実務実習について高校生の関心が高いことがうかがえる。

本学への入学意向については、本学への「受験を希望する」と回答した180人のうち、「進学を希望する」との強い入学意向を示した者は164人であり、入学定員の80人を上回っている。一方、受験希望については「わからない」としたものの、「進学を希望する」と回答した人数は1,407人に上ることから、潜在的な入学希望者が極めて多いことが示された。

また、「本学の特色についての関心度」をはかるための6つの特色の中の関心度の高さを示した質問の中で、本学の学問の中心分野である「観光学を学ぶことができる」に「非常に関心がある」又は「関心がある」とした者は、2,712人(29.8%)であり、「演劇、ダンス、アートマネジメント(文化政策、ホール運営等)を学ぶことができる」に「非常に関心がある」又は「関心がある」とした者は2,602人(28.6%)であった。その両方に「非常に関心がある」又は「関心がある」と回答した人数は1,298人(13.2%)であった。この結果から、双方に関心を持つ者は、本学の学生定員に比して十分あるものと考えている。

双方に関心を持つ1,298人のうち、「受験を希望する」かつ「進学を希望する」と回答した者は106人と入学定員の80人を上回っており、一定程度の学生確保が期待できると考えている。(下表【アンケート調査の詳細分析結果】参照)

【アンケート調査の詳細分析結果】

※「観光学を学ぶことができる」及び「演劇、ダンス、アートマネジメント(文化

政策、ホール運営等)を学ぶことができる」の両方に「非常に関心がある」又は「関心がある」とした者の本学への進学意向

	合計	進学を希望する	進学を希望しない	不明
全体	1,298人	629人	645人	24人
受験を希望する	112人	<u>106人</u>	5人	1人
受験を希望しない	430人	70人	355人	5人
わからない	746人	450人	284人	12人
不明	10人	3人	1人	6人

上記調査結果から本学の学生確保の見通しは良好であると考えられる【資料3 アンケート調査報告書(高校生対象)】。

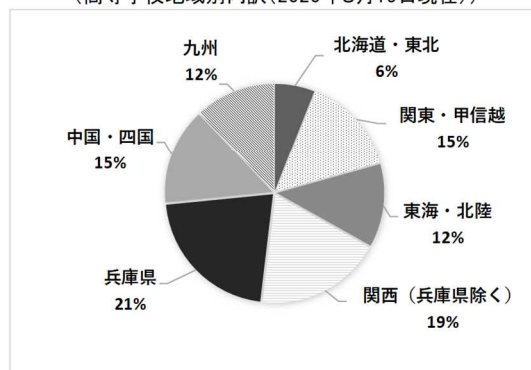
また、今回のアンケート調査は兵庫県内の高校を中心に行ったが、本学への高校生からの資料請求数を見ると、広く全国の高校生が本学に興味を示していることがうかがえる。(下表【本学への資料請求者の高等学校地域別内訳】参照)

【本学への資料請求者の高等学校地域別内訳】

【本学への高校生からの資料請求者数(累計)及び高等学校地域別内訳】

地域	2020年3月31日現在		2020年8月15日現在	
	件数	割合	件数	割合
北海道・東北	78	7.3%	194	6.0%
関東・甲信越	178	16.6%	477	14.7%
東海・北陸	124	11.5%	403	12.4%
関西(兵庫県除く)	177	16.5%	610	18.8%
兵庫県	232	21.6%	699	21.5%
中国・四国	148	13.8%	472	14.5%
九州	138	12.8%	390	12.0%
合計	1,075	—	3,245	—

(高等学校地域別内訳(2020年8月15日現在))



(4) 学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金は以下の通りである。これは、同じ兵庫県立である兵庫県立大学と同額としており、国立大学の学生納付金を参考に設定している。

	入学料	授業料(年額)
甲 ^{※1}	282,000円	535,800円
乙 ^{※2}	423,000円	535,800円

※1 甲：入学する者、又はその配偶者もしくは1親等の親族である者が入学の日の1年前から引き続き兵庫県内に住所を有する場合

※2 乙：その他の場合

(5) 学生確保に向けた具体的な取組

本学では、以下のような具体的な取組を通して情報発信を積極的に行い、学生の安定的な確保に努めている。

ア ホームページ等における情報発信

本学独自のホームページを令和元年5月に開設し、本学の特徴のほか、プレ事業や進学相談会等の開催情報を適宜掲載し、広く周知を行っている。今後も継続して新たな情報を加え、情報発信を行っていく予定である。併せてSNSを活用し、広く周知を図っていく。

また、兵庫県のホームページにおいても大学の構想、開学プレ事業のお知らせ等を掲載し、本学の周知に努めている。

イ リーフレットの作成・配布

大学の理念、育成する人材像、教育内容の特色、想定される進路等を記載したリーフレットを作成し、高校生、企業人事採用担当者等にアンケート調査時に12,000部の配布を行った。さらに、高校生、保護者、高校等へ34,000部の配布を行うこととしており、あらゆる機会を通じて本学の周知に努める。

また、上記の本学ホームページ等において資料請求を受け付けており、希望者へリーフレットの送付を行っている。

ウ 開学プレ事業の開催

本学教員候補者等による模擬授業や本学の概要について説明する高校生を対象としたイベント、高校教員や教育関係者等を対象としたシンポジウム等の開学プレ事業を開催し、本学の構想や概要を説明することで、本学への興味・関心を深め、学生確保を図っている。既に、地元3市2町の住民や高校生を対象としたプレ事業、神戸市で開催した教育関係者等を対象としたプレ事業など、延べ650人を超える来場者に好評を博しているところであるが、引き続き、こうした事業を展開することで、開学に向けた機運の醸成及び入学者の確保を図っていく。

エ 進学情報誌や進学情報サイトへの掲載

多くの受験生が利用している各種進学情報誌や進学情報サイトを活用し、本学の特色やプレ事業の情報発信を行っている。具体的には、進学情報誌2誌（発行部数約56万部（2誌の合計））に掲載予定のほか、進学情報サイト1サイト（高校生の認知率約9割）において情報発信を行っており、今後も新たな進学情報誌、進学情報サイトを活用し、広く周知を図っていく。

オ 進学相談会等への出展

各地で行われる高校生を対象とした進学相談会に出展し、本学の特色について説明を行うとともに進学に対する相談に応じている。例えば、大阪市で開催された参加者が約2万6千人の大規模な進学説明会では、個別相談のブースを設置し、

高校生だけでなく、その保護者からの個別の相談にも応じた。東北、関東、九州地方など遠方から参加した高校生も一定数いたほか、約40人という多数の個別相談があったことから、引き続き、各地の進学説明会に出展し、高校生、保護者からの個別相談に応えることで本学への理解を深めてもらえるよう努めていく。

カ 高等学校への個別訪問

既に、県内各地で開催されている高校校長会等で、本学の概要等を説明し、本学へ理解を深めていただいているところではあるが、引き続き、県内の高校は勿論、本学の学問分野である演劇科、観光科等のある県外高校にも訪問し、進路指導担当教員に対して広報活動を行う。さらに、各高校に在籍している受験生の進路志望動向について情報収集を行い、今後の広報活動に活かす。

また、高校の希望があれば出前講義を行い、本学の概要等の説明や進学に向けての動機づけを行っていく。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

人口減少社会の到来による地域コミュニティの衰退、芸術文化の担い手が不足している実態等を踏まえ、芸術文化を新たな地域資源として戦略的に活用し、地域の特色に応じた優れた取組を展開することで交流人口の増加や移住につなげる取組が求められている。また、観光やまちづくり、国際交流等幅広い分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術政策の展開が求められている。本学では、将来にわたって豊かで活力のある地域社会を築くために、芸術文化と観光の双方の視点を生かして新たな価値を創造できる人材を育成する教育が必要であると考えている。

そのため、芸術文化と観光の視点を生かすことで、新たなビジネスモデルを形成し、産業の創造を誘発し、大きな波及効果をもたらすなど、地域の活力を創出する原動力となる人材を育成していくものであり、そのための教育を行っていくことが教育上の目的である。

(2) 育成する人材像

本学が育成する人材は、「地域活性化における芸術文化と観光の果たす役割を理解し、両分野の視点を生かし、芸術文化と観光に関する事業活動を推進することで地域の新たな活力を創出する人材」である。

ここでいう「両分野の視点を生かし、芸術文化と観光に関する事業活動を推進する」とは、例えば、文化施設等で企画運営に携わるアートマネジャーなど芸術文化分野の事業活動を担う人材と、滞在交流型観光に関する企画・立案を行う旅行業者等の観光事業者など、観光分野の事業活動を担う人材とが緊密に連携し、多くの観光客を惹きつけることができる地域の魅力づくりを進めることなど、職域は異なっても、芸術文化及び観光の双方の視点を活用しながら各々の役割を果たし、

連携して事業活動を遂行することを指し示す。それにより地域の文化の振興、観光の振興の双方に資する価値を磨き上げ、地域の活性化を実現していく。

芸術文化に磨きをかけ、観光に活用していくことで生じる価値連鎖は、観光拠点としての芸術文化施設の機能強化を通じて、芸術文化の保存や承継、さらには新たな文化を育てていく。また、観光を通じて人の往来や購買・宿泊などの地域における消費活動の拡大につながっていく。こうして、芸術文化を観光に生かすことが、多様な分野に対してポジティブなレバレッジ効果を及ぼし、新たな経済的価値、社会的価値、公共的価値を創出し、文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環を促すのである。

当然ながら、芸術文化のプレゼンスを魅力に富んだものへと高めなければ、集客力の向上は望めず、観光振興には結びつかない。結果、芸術文化の保存や新たな創造活動には繋がらない。したがって、持続性のある芸術文化及び観光の事業を運営していくためには、芸術文化及び観光、双方の視点を持って、芸術文化の振興及び観光の振興並びに地域の活性化につながる好循環を実現できる人材を育成する必要がある。

そこで、本学は、卒業後に芸術文化分野及び観光分野において活躍する専門職業人を育成するものである。

具体的には主に次の2つの職種における専門職業人を育成することとし、それぞれその職域で次のような役割を果たしていく。

ア アートマネジャー（芸術文化分野）

本学が育成する専門職業人は、劇場・ホール等の文化施設やフェスティバル等のディレクター、プロデューサー、コーディネーター、エデュケーターとしてとして、観光関連事業者と共同でのプロモーションなど、観光の視点を生かしつつ、アーツカウンシルと連携して芸術文化を支え、地域や受け手のニーズを汲み上げながら観光拠点としての文化施設を有効に活用する企画・運営を展開し、地域の芸術文化のプレゼンス、発信力を高める役割を果たしていくアートマネジメント人材である。

公演などの企画制作者、管理運営者が著しく不足している中、今後、劇場・文化ホール等のリニューアル期を捉え、文化施設の更なる機能強化、芸術文化活動の充実等を図っていく必要があり、こうした人材へのニーズがますます高まっている。

イ 観光事業プランナー・マネジャー（観光分野）

本学が育成する専門職業人は、旅行事業者、航空会社、鉄道会社などの観光交通業者等観光事業のプランナーとして、地域の観光構造を理解した上、魅力的なコト消費のコンテンツとなり得る芸術文化を素材に、地域の自然や他の文化資源についてストーリー性を持って総合的に捉え、全体としての魅力を増進し、顧客に選ばれる旅行サービス・商品などを企画開発し、魅力的な情報発信を実践する役割を果たしてくものである。

(3) 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的根拠

ア 社会的な人材需要の動向

訪日外国人旅行者の増加に伴い、ホテル等の宿泊施設の稼働率が高まるなど、我が国の観光関連産業においては様々な形での需要拡大に繋がっているが、宿泊業においては人手不足感が高まり、労働力の需給が逼迫している。

◆ 宿泊業の新規求人数の推移

2014年（平成26年）の新規求人数16.4万人から2018年（平成30年）には19.5万人と4年間で18.9%増加。【資料4「令和元年版 観光白書」p64】

◆ 職業分類別の有効求人倍率（平成29年度）

「旅館・ホテル支配人」2.26、「飲食物給仕係」7.16、「旅館・ホテル・乗物接客員」4.01と、宿泊業関連業務は区分を問わず同期全職業の倍率1.38を超え、人手不足が顕著。

【資料5「観光庁作成“観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について”」p36】

◆ 全国企業短期経済観測調査（日本銀行）の雇用人員判断DI

飲食サービス業を含む「宿泊・飲食サービス」は、2012（平成24）年以降、人手不足感が高まり続け、他産業よりもさらに人手不足感が強い産業である。

【資料6「令和元年版 観光白書」p65】

◆ 宿泊分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針（平成30年12月）

「宿泊分野では、現時点で既に約3万人の人手不足が生じているものと推計しているが、さらに今後の訪日外国人旅行者の増加等に伴い、5年後（平成35年）までに全国で10万人程度の手不足が生じる」見込み。

「訪日外国人旅行者数の政府目標（2020年4,000万人、2030年6,000万人）の達成に向けた宿泊需要に対応するためには、これを支える宿泊分野の人材確保が必要不可欠」。

【資料7「宿泊分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針」p2】

このように、観光産業については、ホテル等の支配人から給仕係、接客員に至るまで顕著な人材需要が生じていることは明らかであるが、さらに高いレベルの観光立国を目指すためには観光産業の担い手を「観光産業をリードするトップレベルの経営人材」から「観光の中核を担う人材」、さらには「即戦力となる地域の実践的な観光人材」の3層構造により育成・強化していく必要がある。【資料8「明日の日本を支える観光ビジョン 平成28年3月」】

本学が育成するこれらを担う観光人材には、全国的に大きな期待と需要が見込まれるものと考えている。

また、訪日外国人旅行者の増加に伴い、地方を訪れる外国人旅行者が一層増え

ている現状にある【資料9「令和元年版 観光白書」p41】。これは、訪日外国人旅行者の関心が多様化し、様々なコト消費への関心が高まっていることが要因のひとつと考えられている。コト消費による地域での旅行消費額は、主に娯楽等サービス費において生じるが、その場所での宿泊や移動を伴うことから関連する様々な消費額の増加に繋がり、旅行者の消費額全体を増加させる効果がある【資料10「令和元年版 観光白書」p44】。

特に、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズ2021関西を経て、2025年の大阪万博等を捉え、観光関連産業のより一層の活性化が見込まれる好機でもあり、芸術文化をはじめ訪問者のニーズに即した魅力あるコンテンツを据えたツーリズムの企画・運営により、国内外からの旅行者の増大及び旅行消費の拡大が期待される場所である。

本学では、芸術文化を魅力あるコンテンツとして仕立てた観光ビジネスを担う人材の育成を掲げていることから、こうした社会的な人材需要の動向とも合致しているものである。

本学では、芸術文化を観光ビジネスに生かすとともに、文化施設の有効活用等を通じて芸術文化による豊かな生活を実現する人材も育成する。

劇場等の施設で営まれる芸術文化活動はいわゆる貸し館公演が中心であり、舞台芸術の創造活動の実施や鑑賞機会の提供など、劇場等の持つ本来の機能が十分発揮されていないとの指摘を踏まえ、平成24(2012)年6月に制定された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨を踏まえ、劇場等をいわば「公共財」として守り育て、そこで行われる舞台芸術に関する活動、事業等を行うために必要な人材の養成、確保に取り組む必要があるが、十分に確保されていない現状がある。

- ◆ 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」(平成24年法律第49号)抜粋
地方公共団体に対して、施設の積極的な活用(第7条)、地域における実演芸術の振興(第12条)、施設における芸術文化事業等を担う専門的能力を有する者の育成及び確保(第13条)を義務付け。

【資料11「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」】

- ◆ 「平成28年度 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」
専門的人材が十分に確保されていない施設が国公立施設の78.4%、私立施設の55.7%となっており、公演などの企画制作者、管理運営者が著しく不足している。

【資料12「劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」

(平成29年3月 公益社団法人全国公立文化施設協会) p58、159】

また、劇場・音楽堂等や文化団体などにおいて芸術家の創造性、鑑賞者を中心とする地域社会及びそれらを支えるリソースとの連携・接続を図ることにより、芸術文化の創り手と受け手をつなぐ役割を果たしながら芸術的価値を追求しつつ

芸術経営を行っていくアートマネジメントが注目されている。

このようなアートマネジメントに携わる人材については、大学等における専門的な教育の歴史も浅く、未だ質・量ともに分野に偏りがあり、劇場・音楽堂等や文化芸術団体などでの育成も十分ではなく、アートマネジメント人材等を登用し、その能力を十分に発揮させるなどの人材の活用面にも課題が多く、アートマネジメントの重要性が高まってきている中、アートマネジメント人材等の育成及び活用を図るための方策を講ずることが急務になっているとの指摘がある。

このような状況を踏まえると、本学が育成するアートマネジャーが担う社会的な役割は極めて大きく、社会的な人材需要の動向と合致しているものである。

◆ 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書（平成 28 年度 文化庁）
 アートマネジメントに携わるような専門的な人材について、国公立施設では 1,225 施設のうち 78.4%が、私立施設では 61 施設のうち 55.7%が「十分に確保されていない」と回答。
 【資料 12「劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」
 （平成 29 年 3 月 公益社団法人全国公立文化施設協会）p58～60、159、160】

イ 人材需要に関するアンケート調査

（ア）調査概要

本学学生の卒業後の進路見通しについて客観的に把握するため、第三者機関に委託し、本学の特色に対する魅力度、社会的必要性、卒業生の採用意向等に関するアンケート調査を実施した。

調査の概要は以下の通りである。

調査対象		企業・団体の採用担当者		
調査エリア		47 都道府県		
調査方法		郵送調査		
調査対象数	区分	初回調査	追加調査	計
	依頼数	2,000 企業・団体	333 企業・団体	2,000 企業・団体
	回収数 (回収率)	505 企業・団体 (25.3%)	95 企業・団体 (28.5%)	600 企業・団体 (30.0%)
調査時期		令和元年 5月～7月	令和2年8月	—
調査実施機関		一般財団法人 日本開発構想研究所		

（イ）調査結果

調査対象は、本学の学びに直結する観光業界、文化・芸術業界を中心に選定し、学部の特徴、養成する人材像、想定される進路等を掲載したリーフレット【資料

2】、その他資料【資料13】を配布し、本学の概要について十分な理解を促した上で回答をお願いし、当初調査では、505企業・団体からの回答があった。

当初調査の回答が、全体の4分の1程度の回答にとどまったことから、当該アンケートにおいて回答が得られなかった企業・団体のうち、本学が想定する卒業後の2つの進路（芸術文化分野の「アートマネジャー」、観光分野の「観光事業プランナー・マネージャー」としての就職が期待される業種を中心に全国333企業・団体に対して、採用の意向に限定したアンケート調査を再度実施したところ、95企業・団体から回答があり、全体として、全国600企業・団体からの回答を得た。

回答企業・団体600件の所在地（本社、本部等）を聞いたところ、「兵庫県」が25.5%（153件）と最も多く、次いで「東京都」14.5%（87件）、「大阪府」5.5%（33件）であった。回答企業・団体の業種としては、「文化施設（劇場、ホール含む）」が23.8%（143件）と最も多く、次いで「公務」12.3%（74件）、「旅行業」9.7%（58件）と続き、比較的幅広い業種から回答が得られた。回答企業・団体の正規社員（職員）の人数は、「50名未満」が45.7%（274件）、次いで「50名～300名未満」25.8%（155件）、「300名～1,000名未満」15.3%（92件）と規模は様々であり、回答企業・団体の83.0%（498件）が過去3年間で平均1名以上の正規社員（職員）を採用している。

また、「大学等の新卒者の採用選考にあたり、どのような資質、能力、知識を重視するか」という質問については、当初調査で回答のあった505企業・団体のうち、「コミュニケーション能力」が70.7%（357件）と突出してポイントが高く、次いで「チームワーク・協調性」39.2%（198件）、「一般常識」19.6%（99件）となっている。

本学では1年次には全員が演劇手法による「コミュニケーション演習」を履修し、学生のコミュニケーション力を磨き、現代社会を生きぬく人間力を養うこととしている。同時に、演劇教育は、コミュニケーション能力だけでなく、表現力、集中力、協調性など、関係者と上手く折り合いをつけながら、自分らしく生きていく力を磨くことができるメソッドであると考えられる。

このことから、本学が学生に身に付けさせようとするコミュニケーション能力、協調性等は社会的な人材需要の動向と合致していると言える。

次に、「本学が育成しようとする特色のある人材についてどの程度関心があるか」という質問については、下記の7つの項目について、5割～7割程度の回答企業が「非常に関心がある」又は「関心がある」と回答している。このことから、本学の教育内容・方法に多くの企業・団体が高い関心を持っているといえる。

【国際観光芸術専門職大学（仮称）が育成しようとする特色のある人材】

（当初調査で回答のあった505企業・団体による集計）

①コミュニケーション力・合意形成能力の育成

演劇手法を用いたコミュニケーション教育や演習形式のアクティブラーニングが中心となる授業により、豊かな「コミュニケーション力」や高度な「合意形成能力」を身につけます。

「非常に関心がある」15.2% (77件)、「関心がある」54.5% (275件)
→合計 69.7% (352件)

②実践的な課題設定・解決力の育成

ICTに係る知識・技能も駆使しながら、地域の諸課題の解決に必要な情報を適切に収集、分析し、イノベーションを創出することで、その課題の解決を図る実践力を身につけます。

「非常に関心がある」14.9% (75件)、「関心がある」60.2% (304件)
→合計 75.1% (379件)

③グローバル人材の育成

少人数制の実践的な語学教育に加え、学生全員が体験できる海外留学プログラム、学生寮における留学生との交流促進等を通じて、国籍や文化、価値観の違いに興味・関心を持ち、それらに柔軟に対応できる適応力を身につけた「グローバル人材」を育成します。

「非常に関心がある」13.1% (66件)、「関心がある」53.1% (268件)
→合計 66.2% (334件)

④実務家教員による実践的な教育

教員の約半数が社会の現場での経験豊富な実務家教員となります。原則40人以下の少人数授業のもと、ビジネスの場で活用できる実践的な教育を実施することで、実社会で活躍できる人材を育成します。

「非常に関心がある」13.1% (66件)、「関心がある」53.9% (272件)
→合計 67.0% (338件)

⑤観光創造エキスパートの育成

観光業や宿泊産業等での現場実習において、課題解決・企画提案等を通じて高度な知識・技能を身につけ、多彩な地域資源の魅力を最大限に引き出した観光ビジネスモデルを創造できる人材を育成します。

「非常に関心がある」16.8% (85件)、「関心がある」47.1% (238件)
→合計 63.9% (323件)

⑥アートマネジャーの育成

公共文化施設等のアートマネジメントやパフォーミングアーツの創造・実践活動にあたりながら、アートと地域をプロジェクトマネジメントでつなぎ、社会に新たな価値を創造できる人材を育成します。

「非常に関心がある」15.4% (78件)、「関心がある」37.6% (190件)
→合計 53.0% (268件)

⑦文化と観光を結ぶプロデューサーの育成

文化と観光をマーケットで結びつけることを実践的に学ぶことにより、既存の文化資源の掘り起こしや新たな文化を創出し、それを多彩な観光資源と結びつけることで、新しい事業を創造する「文化観光プロデューサー」を育成します。

「非常に関心がある」16.0% (81件)、「関心がある」52.9% (267件)
→合計 68.9% (348件)

さらに、卒業生の採用意向に関しては、「ぜひ採用したい」「採用したい」と回答した企業・団体は、回答のあった 600 件中 58.3% (350 件) であり、入学定員 80 人の 4.4 倍にあたる企業・団体が本学の卒業生の採用に前向きな姿勢を示している。また、この採用意向を示した 350 企業・団体へ、毎年の採用想定人数を聞いたところ、採用想定人数合計は 210 人となり、入学定員の 2.6 倍となった(「人数は未確定」の回答は採用想定人数に計上していない)。

このアンケート結果について、本学が想定する卒業後の 4 つの進路として 421 企業・団体に限定して集計すると、「ぜひ採用したい」「採用したい」と回答した企業・団体は 247 企業・団体(58.7%)となり、入学定員 80 人の約 3.1 倍にあたる企業・団体が採用の意向を示している。

また、この採用意向を示した 247 企業・団体へ、毎年の採用想定人数を聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は 153 人となり、入学定員の約 1.9 倍となる(「人数は未確定」の回答は採用想定人数に計上していない)

[採用意向を示した 247 企業・団体における進路別内訳]

a 芸術文化分野〔アートマネジャー(当初想定していたアーツカウンシル・ディレクターも含む)〕

回答があった 230 企業・団体中、文化施設(劇場、ホールを含む)やイベント企画、公共セクターを運営する 126 企業・団体(54.8%)が「ぜひ採用したい」「採用したい」との意向を示している。

この 126 企業・団体の毎年の採用想定人数は、合計で 44 人となり、芸術文化分野を主となる専攻分野として学ぶ学生が定員の半数である 40 名と仮定した場合、これを上回っている(「人数は未確定」の回答は採用想定人数に計上していない)。

b 観光分野〔観光事業プランナー・マネジャー(当初想定していたDMOディレクターも含む)〕

回答があった 191 企業・団体中、旅行業、レジャーサービス、航空会社、鉄道会社などの運輸業、宿泊業、DMOなど 121 企業・団体(63.4%)が「ぜひ採用したい」「採用したい」との意向を示している。

この 121 企業・団体へ毎年の採用想定人数は、合計で 109 人となり、観光分野を主となる専攻分野として学ぶ学生が定員の半数である 40 名と仮定した場合、これを上回っている(「人数は未確定」の回答は採用想定人数に計上していない)。

このアンケート結果については、全国 2,000 企業・団体に限った調査であるものの、回答があった企業・団体の毎年の採用人員の集計のみで既に入学定員を超えているが、調査対象となっていない企業・団体等にも同様の採用ニーズがあると想定できることから、さらに多くの採用が期待できると考えられる。

例えば、芸術文化分野の業種の一つである「文化施設(劇場、ホール含む)」

については、今回のアンケート調査では500施設を対象として実施したところ、143施設から回答があり、このうち本学の卒業生について採用意向を示したのは67施設、採用想定人数は26人であった。しかし、全国には少なくとも1,286施設*存在することから、今回のアンケート調査結果を基にすべての施設から回答を得たとして推計すると、採用意向を示す施設数は603施設、採用想定人数は234人となる。

〈「文化施設（劇場、ホール含む）」の推計〉

- ・ 今回のアンケート調査で回答のあった施設は143施設（調査対象500施設 回収率28.6%）
- ・ 全国の施設（1,286施設*）を対象に調査を実施し回答を得た場合を仮定すると、採用意向のある施設数は603施設程度、採用想定人数は234人程度と推計される

$$\left[\begin{array}{l}
 \text{①採用意向のある施設数の全国推計} \\
 \text{今回のアンケートによる採用意向のある施設数 } 67 \text{ 施設} \\
 \times 1,286 \text{ 施設 (全国)} / 143 \text{ 施設 (アンケートに回答のあった施設)} \\
 \doteq 603 \text{ 施設} \\
 \text{②採用想定人数の全国推計} \\
 \text{今回のアンケートによる採用想定人数 } 26 \text{ 名} \\
 \times 603 \text{ 施設 (①採用意向のある施設数の全国推計)} / 67 \text{ 施設 (採用意向のある施設数のアンケート結果)} \\
 \doteq 234 \text{ 名}
 \end{array} \right.$$

※「劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」（平成28（2017）年 公益財団法人全国公立文化施設協会）における有効回答施設数（国公立1,225施設、私立61施設）

また、観光分野の業種においても同様に、今回の調査対象となっていない企業・団体等にも同様の採用ニーズがあると想定されるほか、観光ニーズが多様化する中、観光分野の調査対象業種とした旅行業、レジャーサービス、運輸業、宿泊業、DMO等以外の業種における観光分野の卒業生の採用ニーズが今後、ますます増えていくと考えられる。

加えて、今回、「採用想定人数は未確定」としていた計120企業・団体（芸術文化分野74、観光分野46）からの回答については、採用想定人数として計上していないが、潜在的な採用意向があることを前提とした回答であることも考え合わせると、本学には、毎年、安定的な人材需要があるものと判断できる。

【資料14 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート調査報告書（事業所対象）】 【資料14-2 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関する追加アンケート調査報告書（事業所対象）】 【資料15 採用意向等調査結果の集計（事業所対象）】

※【資料2】、【資料3】、【資料14】、【資料14-2】のアンケート調査当時は、「文化・観光創造学部文化・観光創造学科」及び「芸術文化観光学部芸術文化観光学科」という学部学科名を示しているが、大学の理念、育成する人材像等は、学部学科名変更後の「芸術・文化観光学部芸術文化・観光学科」についても異なるものではないため得られた回答は有効なものであると捉えている。

参 考 資 料 目 次

- 資料 1 本学予定地から半径50km圏内の4年制大学
- 資料 2 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート用リーフレット
- 資料 3 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート調査報告書
【高校生対象】
- 資料 4 令和元年版 観光白書 P.64 (抜粋)
- 資料 5 観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について
- 資料 6 令和元年版 観光白書 P.65 (抜粋)
- 資料 7 特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針について
宿泊分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針 (抜粋)
- 資料 8 明日の日本を支える観光ビジョン 平成28年3月 P.14 (抜粋)
- 資料 9 令和元年版 観光白書 P.41 (抜粋)
- 資料 10 令和元年版 観光白書 P.44 (抜粋)
- 資料 11 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律 (抜粋)
- 資料 12 平成28年度劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書 (抜粋)
P.58～60、159～160
- 資料 13 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート【事業所対象】用資料
- 資料 14 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート調査報告書
【事業所対象】
- 資料 14 -2 国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関する追加アンケート調査報告書
【事業所対象】
- 資料 15 採用意向等調査結果の集計【事業所対象】

本学予定地から
半径 50km 圏内の 4 年制大学

資料 1



設置構想中

2021年4月

開学予定

資料 2

人をつくる
舞台がある

観光 × 文化 × 地域

兵庫県立の4年制大学です。

国際観光芸術専門職大学(仮称)

本大学は設置構想中のため、記載内容は今後変更となることがあります。

世界的な劇作家・演出家の
平田オリザ氏が学長候補者!!

国公立大学で初めて、本格的に
演劇・ダンスが学べる

観光と芸術文化で
稼ぐことを学ぶ

理論と実践力のある
プロフェッショナルを育てる

どんな大学?

演劇やダンスなど人が
創りあげる**アート**を**観光**
に結びつける

地域の人たちと一緒に、
地域の課題解決に取り組む

事業創造のための
マネジメントスキルを修得

授業の**1/3が****実習**

県内外の
劇場での実習が充実

何を学ぶ?

国内外から観光客を集め、
地域を活性化

全員が参加できる
演劇・観光の海外実習

国際演劇祭の
企画運営に
参加

演劇手法を使った
コミュニケーション授業

ICTデータ
サイエンス
基礎教育

200人**劇場・ダンス専用スタジオ**
大道具・小道具制作室など充実した教育施設を
大学構内に併設

1年次は
全寮制

何がすごい?

平田オリザ学長候補者をはじめ、
各界で**世界的に活躍**する
著名な教員陣から直に学べる

イノベーションで
地域を変える
(地域リサーチ&イノベーション
センターを設置)

アートや地域資源でまちづくりを進める
“文化観光プロデューサー”

実現するキーマン
活力あるまちづくりを

何になれる?

文化と観光を結びつけて
新しい価値創造を生み出す人

ツーリズムプランナー、ホテルマネジャー、
テーマパーク・イベント企画会社マネジャー

豊かで潤いある
社会を創造する
アーティスト

海が近い 高原で
パラグライダー

関西のウィンター
スポーツのメッカ

大学のできる
但馬地域って?

城崎温泉、
湯村温泉がある



学長候補者
平田 オリザ氏

大学の理念

舞台芸術の学修で得た能力を基礎として、地域と協働し、多彩な地域資源を活かし、芸術文化を通じた新たな価値を創造できる専門職業人材を育成するとともに、イノベーションで地域課題を解決するプラットフォーム機能を発揮し、地域の発展と繁栄、ひいては新たな国際社会の形成に貢献する大学を目指す。

育成する人材像

- ①舞台芸術の学修から得られる豊かな感性やコミュニケーション力等を基礎として、多彩な地域資源の魅力を最大限に引き出した観光ビジネスモデルを創造できる人材
- ②公共文化施設等のアートマネジメントやパフォーマンスの創造・実践活動にあたりながら、アートと地域をプロジェクトマネジメントでつなぎ、社会に新たな価値を創造できる人材

主な授業科目

【共通】

演劇コミュニケーション演習、情報処理演習、ICT演習、集中講義(知の巨人)、英語、地域ブランド論、地域イベント実習、地域イノベーション実習、海外語学研修 等

【専門】

観光: 観光事業概論、旅行産業論、ニューツーリズム論、観光産業マーケティング論、インバウンドマーケティング論、観光プロジェクト立案演習、観光プロモーション演習、観光情報演習、観光交通業実習、旅行事業実習、宿泊業実習 等

マネジメント: 事業創造入門、サービスマネジメント論、組織マネジメント論、リスクマネジメント論、ビジネスアカウンティング論、創造性開発演習 等

文化: 文化政策概論、文化施設運営論、文化産業論、企業メセナ論、空間デザイン論、パフォーマンス概論、舞台芸術論、演劇教育論、演劇ワークショップ演習、ダンスワークショップ演習、劇場プロデューサー実習、舞台芸術実習 等

本大学は設置構想中のため、
記載内容は今後変更となることがあります。

学部学科名称: 文化・観光創造学部 / 文化・観光創造学科(仮称)

定員: 入学定員 80人 / 収容定員 320人

学生納付金: 入学料(入学金) 県内者: 282,000円 / 県外者: 423,000円
(予定) 授業料(年額) 535,800円

【お問合せ先】兵庫県 専門職大学準備課

078-362-3377

078-362-3963

senmonshokudai@pref.hyogo.lg.jp

https://www.tajima-kakeru.jp



国際観光芸術専門職大学（仮称）設置に関する
アンケート調査報告書

【高校生対象】

令和元年8月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要>	1
<アンケート回収表>	3
<アンケート集計結果>	9
単純集計	11
男女別クロス集計	30
<アンケート調査票>	39

<アンケート調査概要>

1. アンケート実施の目的

本調査は、「国際観光芸術専門職大学（仮称）設置に関するアンケート」として高校生に対して新専門職大学への進学希望等について尋ね、学生の確保の見通しを測ることを目的とする。

2. 調査対象

青森県、福島県、兵庫県、大阪府、奈良県、島根県、広島県、愛媛県、香川県の高等学校より 66 校の高等学校を兵庫県が選定。新専門職大学開学時の入学年次となる、令和元年度の高校 2 年生を対象に調査を実施した。

3. 調査実施

令和元年 5 月～7 月

4. 調査方法

兵庫県がアンケート調査票を各高等学校へ配付し、調査票の回収及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

5. 回収状況

有効回答票 9,823 票（64 校回収）

回収率 97.0%（回答高校数 64 校 ÷ 配付高校数 66 校）

※小数点第二位を四捨五入

<アンケート回収表>

国際観光芸術専門職大学（仮称）設置に関するアンケート調査 回収表

都道府県	高校 No	高校名	回収数
兵庫県	1	豊岡総合高等学校	111
兵庫県	2	浜坂高等学校	37
兵庫県	3	出石高等学校	77
兵庫県	4	豊岡高等学校	116
兵庫県	5	香住高等学校	58
兵庫県	6	村岡高等学校	48
兵庫県	7	生野高等学校	25
兵庫県	8	和田山高等学校	37
兵庫県	9	八鹿高等学校	107
兵庫県	10	近畿大学附属豊岡高等学校	64
青森県	11	八戸東高等学校	112
青森県	12	青森中央高等学校	191
福島県	13	ふたば未来学園高等学校	86
福島県	14	いわき総合高等学校	188
奈良県	15	市立一条高等学校	190
奈良県	16	帝塚山高等学校	313
香川県	17	丸亀高等学校	147
兵庫県	18	宝塚高等学校	185
兵庫県	19	宝塚北高等学校	148
広島県	20	舟入高等学校	153
愛媛県	21	松山東高等学校	146
大阪府	22	登美丘高等学校	157
大阪府	23	帝塚山学院高等学校	115
大阪府	24	咲くやこの花高等学校	72
大阪府	25	-	-
奈良県	26	-	-
島根県	27	松江市立女子高等学校	16
兵庫県	28	姫路商業高等学校	140
兵庫県	29	神戸甲北高等学校	220
兵庫県	30	加古川南高等学校	225
兵庫県	31	三木東高等学校	191
兵庫県	32	神戸商業高等学校	259
兵庫県	33	伊丹北高等学校	222
兵庫県	34	西宮今津高等学校	217
兵庫県	35	武庫荘総合高等学校	288
兵庫県	36	有馬高等学校	194

都道府県	高校 No	高校名	回収数
兵庫県	37	明石南高等学校	272
兵庫県	38	香寺高等学校	191
兵庫県	39	北須磨高等学校	136
兵庫県	40	須磨東高等学校	189
兵庫県	41	夢野台高等学校	152
兵庫県	42	洲本高等学校	152
兵庫県	43	小野高等学校	169
兵庫県	44	星陵高等学校	129
兵庫県	45	葺合高等学校	296
兵庫県	46	姫路高等学校	120
兵庫県	47	芦屋国際中等教育学校後期課程	64
兵庫県	48	加古川西高等学校	187
兵庫県	49	東播磨高等学校	187
兵庫県	50	伊川谷北高等学校	188
兵庫県	51	県立伊丹高等学校	135
兵庫県	52	雲雀丘学園高等学校	133
兵庫県	53	尼崎小田高等学校	224
兵庫県	54	市立伊丹高等学校	111
兵庫県	55	西宮東高等学校	178
兵庫県	56	柏原高等学校	161
兵庫県	57	尼崎高等学校	276
兵庫県	58	北摂三田高等学校	95
兵庫県	59	篠山鳳鳴高等学校	121
兵庫県	60	明石西高等学校	186
兵庫県	61	滝川第二高等学校	177
兵庫県	62	御影高等学校	228
兵庫県	63	龍野高等学校	115
兵庫県	64	県立西宮高等学校	190
兵庫県	65	山崎高等学校	95
兵庫県	66	三田祥雲館高等学校	111
		配付校数（回収校数） 66校（64校）	9,823校

※「-」（ハイフン）は回答のなかった高校

都道府県別回収数

府県名	回収校数	調査票回収数	
		件数	%
青森県	2	303	3.1
福島県	2	274	2.8
大阪府	3	344	3.5
奈良県	2	503	5.1
兵庫県	51	7,937	80.8
島根県	1	16	0.2
広島県	1	153	1.6
香川県	1	147	1.5
愛媛県	1	146	1.5
合計	64校	9,823件	100.0%

<アンケート集計結果>

○ 単純集計

[有効回答票 : 9,823 票]

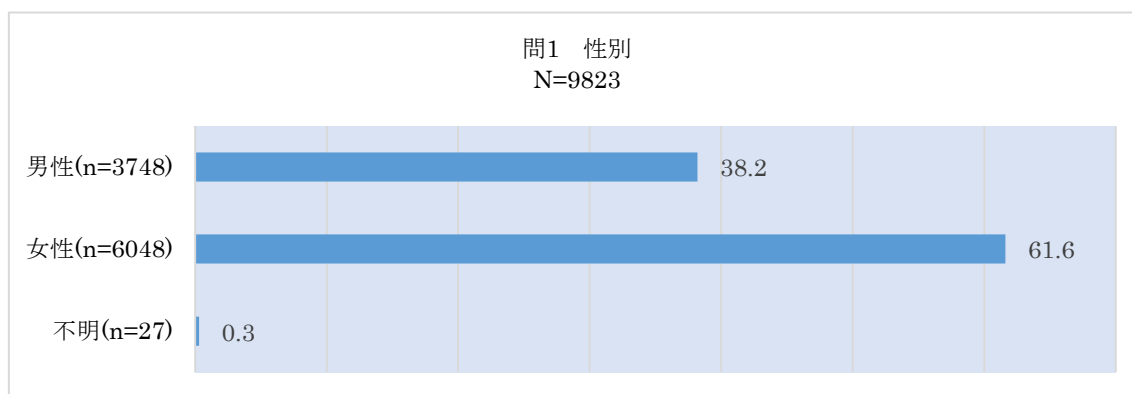
※「%」はいずれも小数点第二位を四捨五入

問1 あなたの性別を教えてください。

回答者 (9,823 人) の性別については、3,748 人 (38.2%) が「男性」、6,048 人 (61.6%) が「女性」である。

問1 性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男性	3,748	38.2
2	女性	6,048	61.6
	不明	27	0.3
	合計	9,823	100

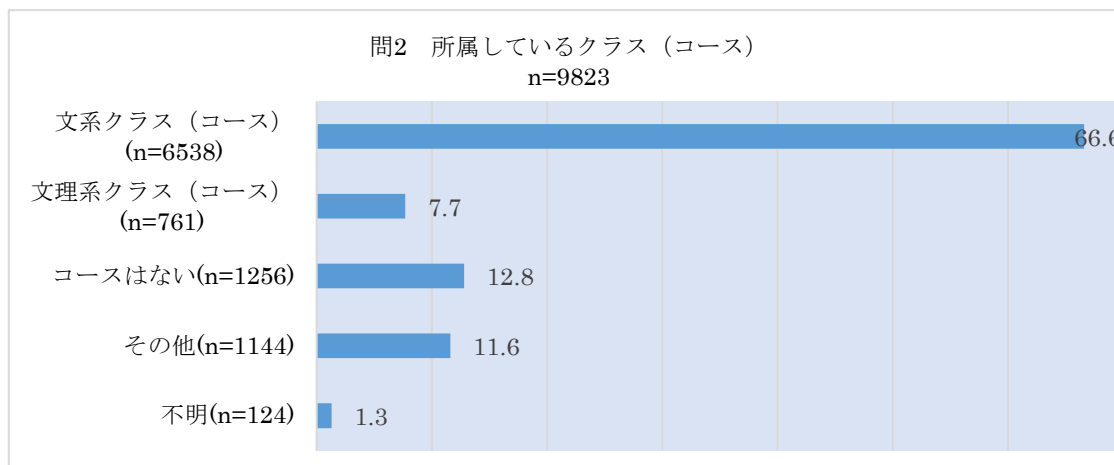


問2 所属しているクラス（コース）について、該当する番号1つに○をつけてください。

回答者の所属しているクラス（コース）については、「文系クラス（コース）」6,538人（66.6%）、「文理系クラス（コース）」761人（7.7%）、「コースはない」1,256人（12.8%）となっている。

問2 所属しているクラス（コース）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文系クラス（コース）	6,538	66.6
2	文理系クラス（コース）	761	7.7
3	コースはない	1,256	12.8
4	その他	1,144	11.6
	不明	124	1.3
	合計	9,823	100

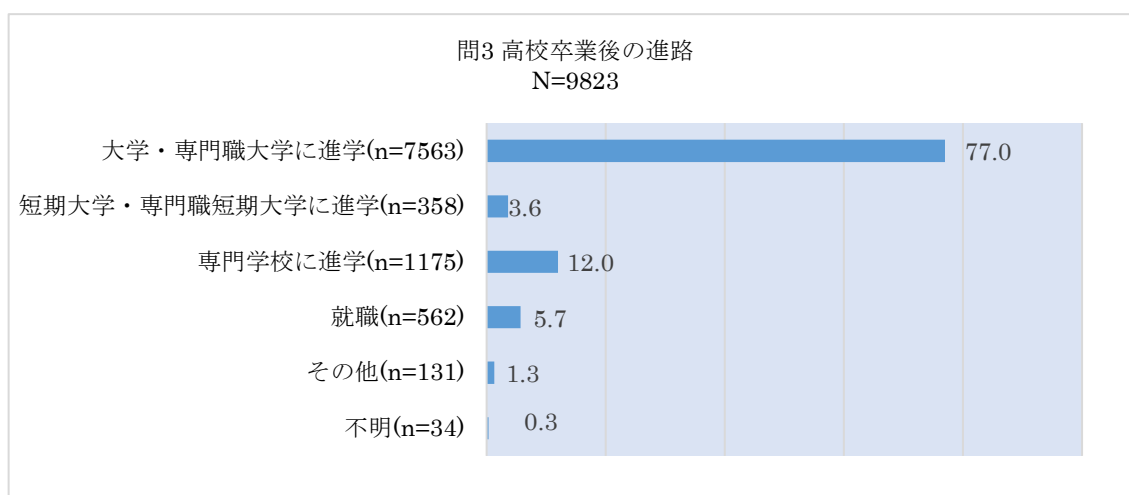


問3 あなたは高校卒業後の進路について、現時点ではどのような進路を希望していますか。以下の項目から、該当する番号1つに○をつけてください。

回答者の希望進路については、「大学・専門職大学に進学」が7,563人(77.0%)と最も多く、次いで「専門学校に進学」が1,175人(12.0%)、「就職」が562人(5.7%)、「短期大学・専門職短期大学に進学」が358人(3.6%)の順が続いている。

問3 高校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学・専門職大学に進学	7,563	77.0
2	短期大学・専門職短期大学に進学	358	3.6
3	専門学校に進学	1,175	12.0
4	就職	562	5.7
5	その他	131	1.3
	不明	34	0.3
	合計	9,823	100



【問4以降は、問3で「1 大学・専門職大学に進学」「2 短期大学・専門職短期大学に進学」「3 専門学校に進学」のいずれかを選んだ回答者 9,096 人を対象とする。】

問4 進学したいと希望している分野はどれですか。以下の項目から、該当する番号を選び、第1希望と第2希望を回答欄にそれぞれ記入してください。

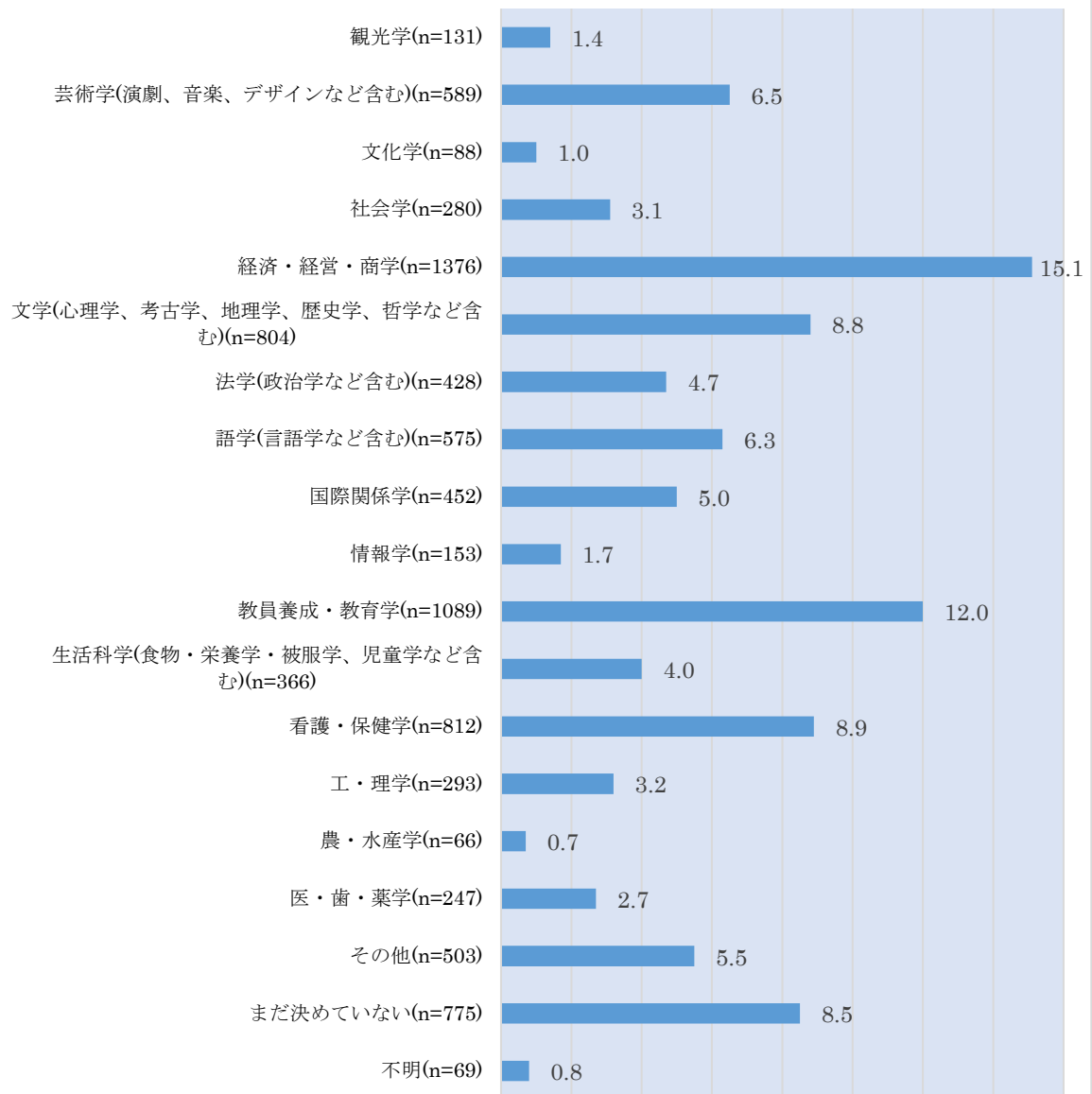
進学希望分野の第1希望に関しては、「経済・経営・商学」が1,376人(15.1%)と最も多く、次いで「教員養成・教育学」が1,089人(12.0%)、「看護・保健学」が812人(8.9%)、「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」が804人(8.8%)の順に続いている。

第2希望に関しては、「まだ決めていない」が957人(10.5%)と最も多く、次いで「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」が865人(9.5%)、「経済・経営・商学」が724人(8.0%)、「国際関係学」が641人(7.0%)の順に続いている。

問4 進学したい分野

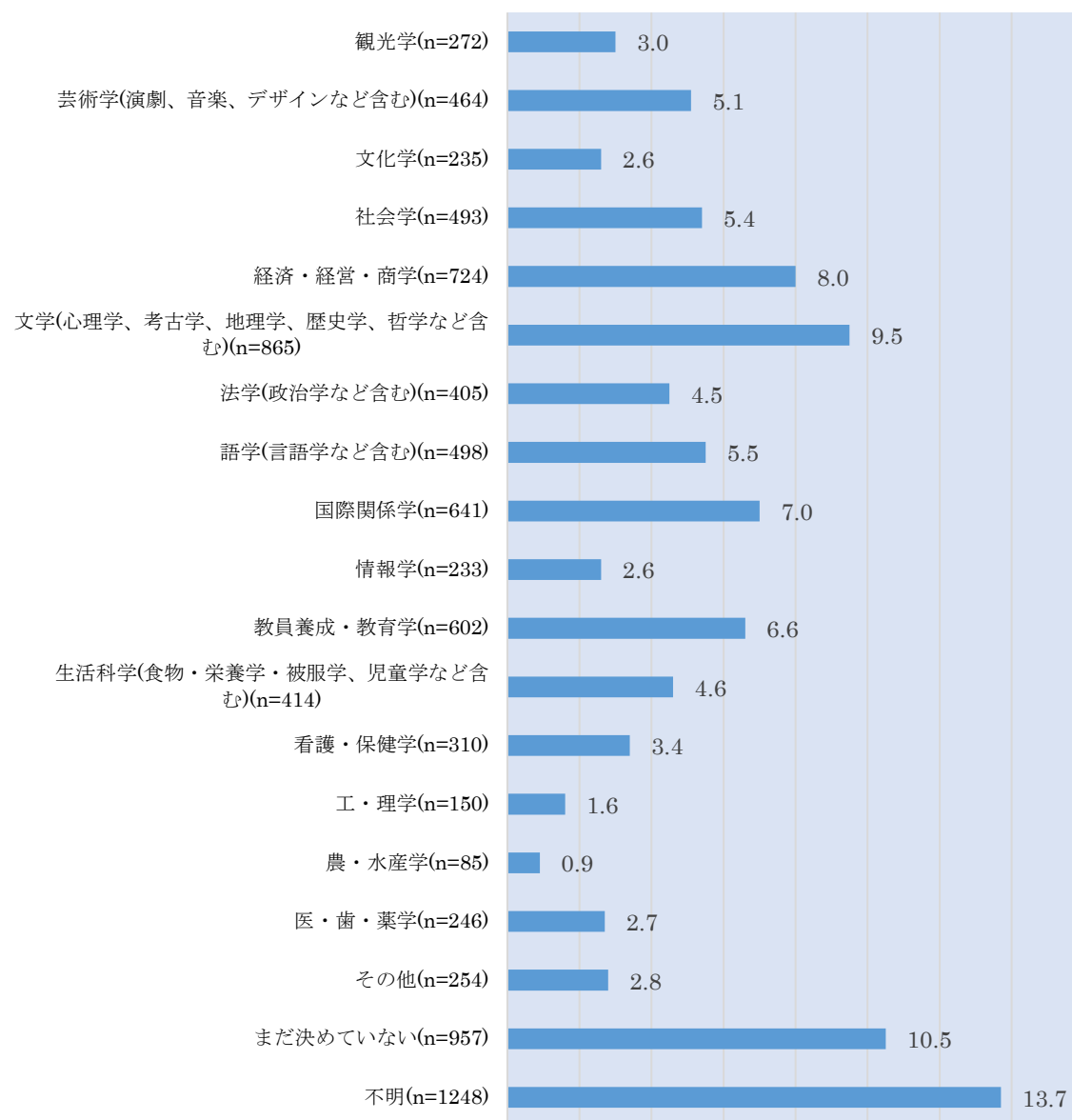
No.	カテゴリ	第1希望		第2希望	
		件数	(全体)%	件数	(全体)%
1	観光学	131	1.4	272	3.0
2	芸術学(演劇、音楽、デザインなど含む)	589	6.5	464	5.1
3	文化学	88	1.0	235	2.6
4	社会学	280	3.1	493	5.4
5	経済・経営・商学	1,376	15.1	724	8.0
6	文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	804	8.8	865	9.5
7	法学(政治学など含む)	428	4.7	405	4.5
8	語学(言語学など含む)	575	6.3	498	5.5
9	国際関係学	452	5.0	641	7.0
10	情報学	153	1.7	233	2.6
11	教員養成・教育学	1,089	12.0	602	6.6
12	生活科学(食物・栄養学・被服学、児童学など含む)	366	4.0	414	4.6
13	看護・保健学	812	8.9	310	3.4
14	工・理学	293	3.2	150	1.6
15	農・水産学	66	0.7	85	0.9
16	医・歯・薬学	247	2.7	246	2.7
17	その他	503	5.5	254	2.8
18	まだ決めていない	775	8.5	957	10.5
	不明	69	0.8	1,248	13.7
	合計	9,096	100	9,096	100

問4-1 進学したい分野（第1希望）
N=9096



問4-2 進学したい分野（第2希望）

N=9096



問5 あなたが進学先を決定する際に重視することは何ですか。

以下の項目から、該当する番号に3つまで○をつけてください。(複数回答)

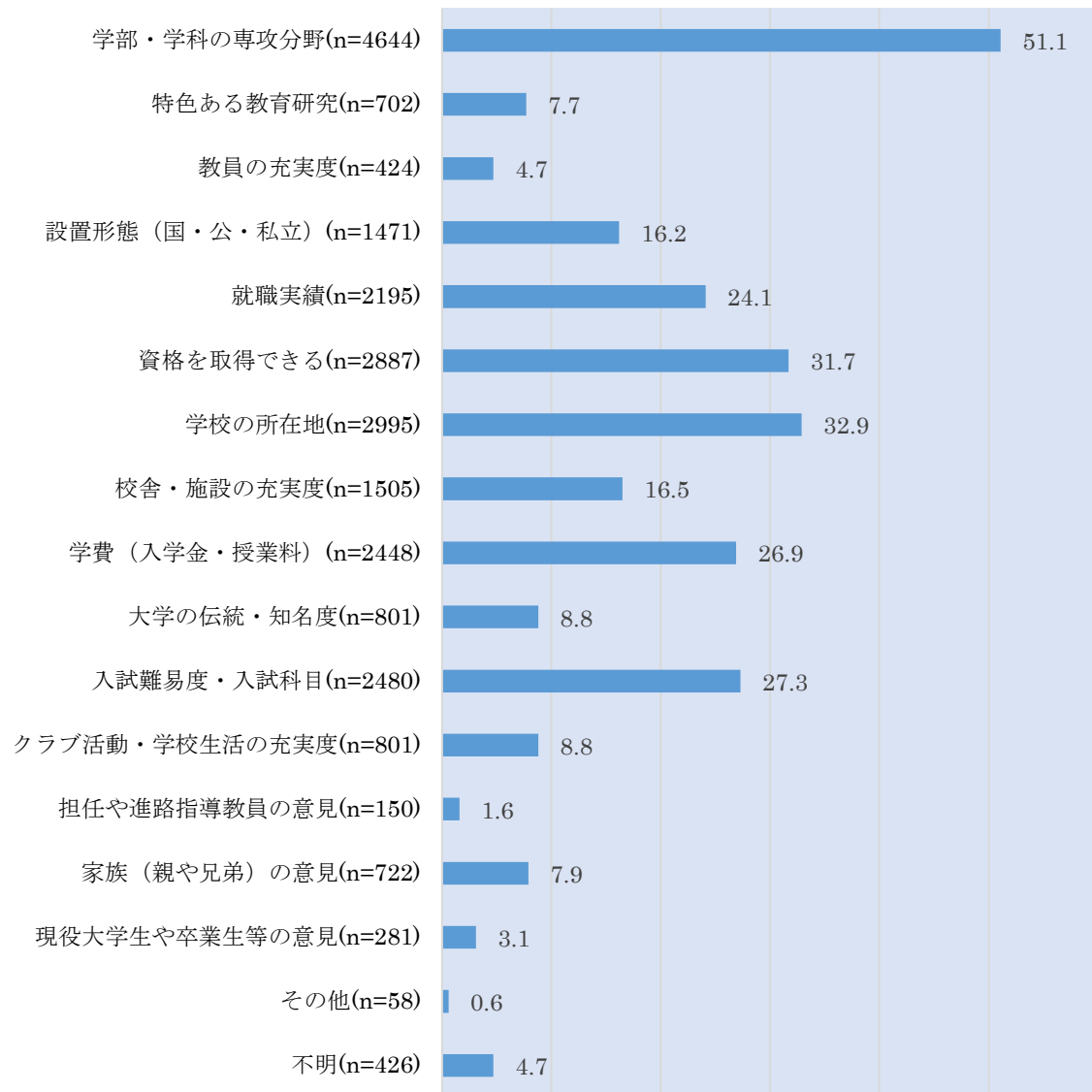
進学先を決定する際に重視する事項については、「学部・学科の専攻分野」が 4,644 人 (51.1%) と最も多く、次いで「学校の所在地」が 2,995 人 (32.9%)、「資格を取得できる」が 2,887 人 (31.7%)、「入試難易度・入試科目」が 2,480 人 (27.3%)、「学費 (入学金・授業料)」が 2,448 人 (26.9%) の順が続いている。

問5 進学先を決定する際に重視すること

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	学部・学科の専攻分野	4,644	51.1
2	特色ある教育研究	702	7.7
3	教員の充実度	424	4.7
4	設置形態 (国・公・私立)	1,471	16.2
5	就職実績	2,195	24.1
6	資格を取得できる	2,887	31.7
7	学校の所在地	2,995	32.9
8	校舎・施設の充実度	1,505	16.5
9	学費 (入学金・授業料)	2,448	26.9
10	大学の伝統・知名度	801	8.8
11	入試難易度・入試科目	2,480	27.3
12	クラブ活動・学校生活の充実度	801	8.8
13	担任や進路指導教員の意見	150	1.6
14	家族 (親や兄弟) の意見	722	7.9
15	現役大学生や卒業生等の意見	281	3.1
16	その他	58	0.6
	不明	426	4.7

(複数回答のため合計は 100%にならない)

問5 進学先を決定する際に重視すること
N=9096



問6 「国際観光芸術専門職大学文化・観光創造学部文化・観光創造学科」（仮称）には、以下のような特色があります。これらの特色について、5段階の中から該当する番号1つに○をつけてください。

文化・観光創造学科（仮称）の特色について、回答者の関心度（「非常に関心がある」「関心がある」の合計）は下記の通りとなっている。

① 「観光学を学ぶことができる」

「非常に関心がある」481人（5.3%）、「関心がある」2,231人（24.5%）

→合計2,712人（29.8%）

② 「演劇、ダンス、アートマネジメント（文化政策、ホール運営等）を学ぶことができる」

「非常に関心がある」680人（7.5%）、「関心がある」1,922人（21.1%）

→合計2,602人（28.6%）

③ 「観光業、アートマネジメントのどちらにも通じる経営学（マネジメント）を学ぶことができる」

「非常に関心がある」490人（5.4%）、「関心がある」2,154人（23.7%）

→合計2,644人（29.1%）

④ 「1学部1学科80人の徹底した少人数教育で充実した指導が受けられる」

「非常に関心がある」625人（6.9%）、「関心がある」3,333人（36.6%）

→合計3,958人（43.5%）

⑤ 「地域の人たちとともに、地域の課題解決に取り組める」

「非常に関心がある」453人（5.0%）、「関心がある」2,498人（27.5%）

→合計2,951人（32.5%）

⑥ 「旅行会社、航空・鉄道・バス会社、劇場、文化ホール、ホテル、旅館、自治体等での実習ができる」

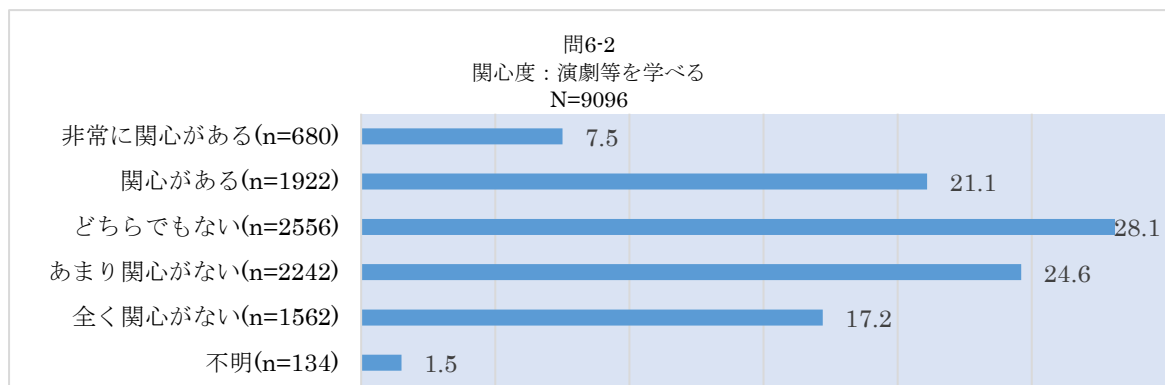
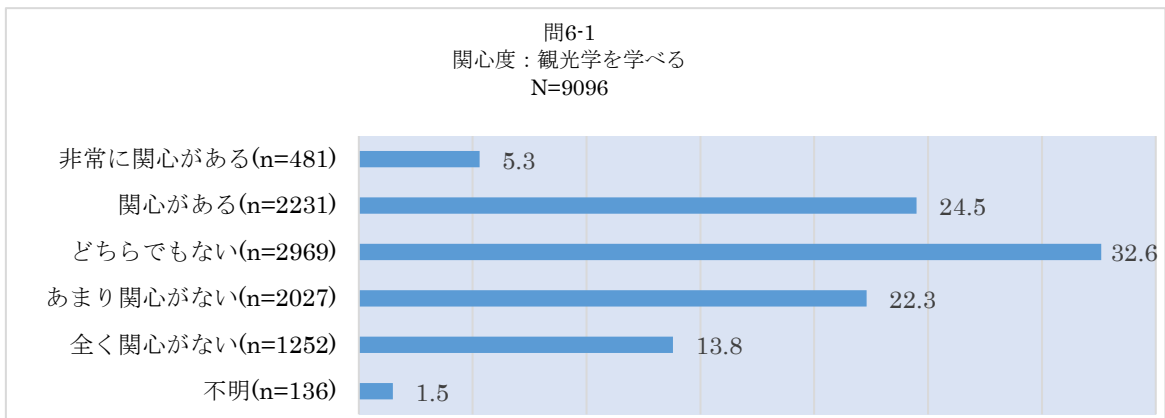
「非常に関心がある」1,202人（13.2%）、「関心がある」3,132人（34.4%）

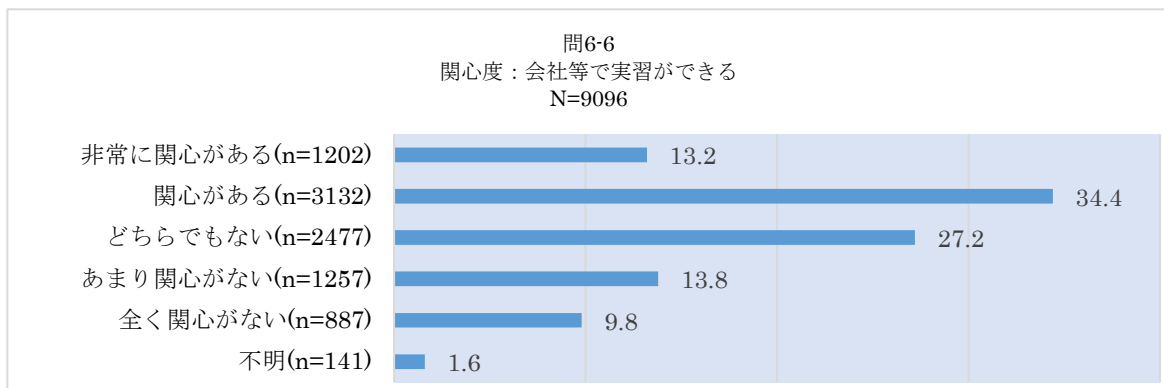
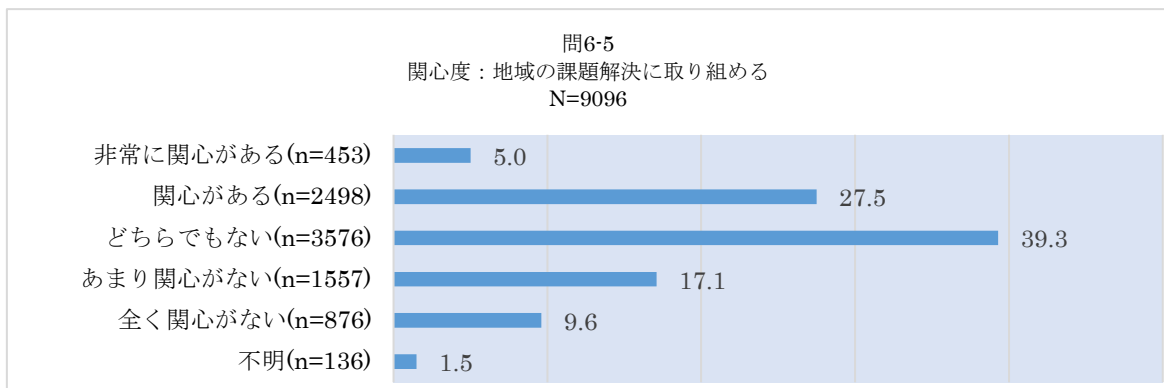
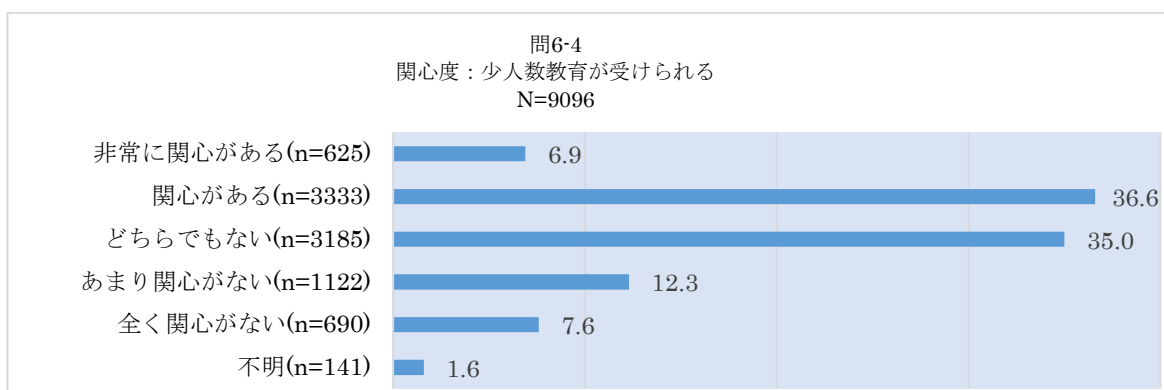
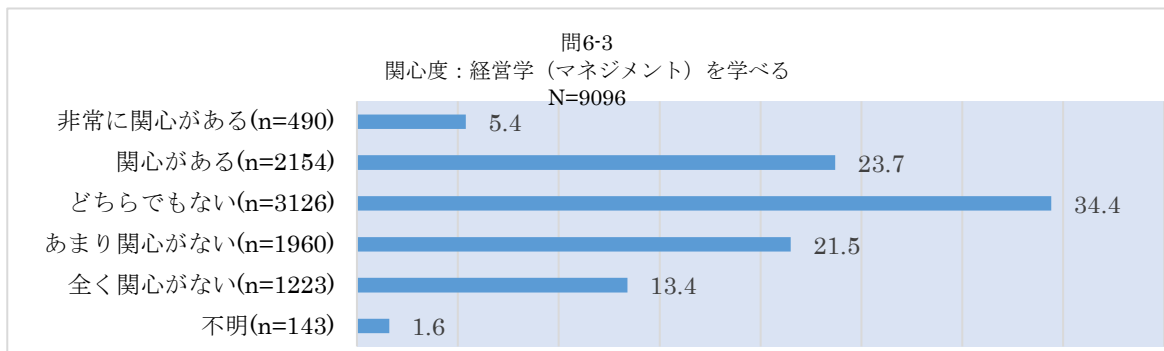
→合計4,334人（47.6%）

上記6つの特色のうち、④及び⑥の回答率が比較的高い。特に⑥については、回答者の半数近く（47.6%）が関心を示している。

問6 特色への関心

カテゴリ	上段：件数、下段：(全体)%						合計
	非常に 関心がある	関心がある	どちらで もない	あまり関 心がない	全く関心 がない	不明	
観光学を学ぶこ とができる	481	2,231	2,969	2,027	1,252	136	9,096
	5.3	24.5	32.6	22.3	13.8	1.5	100
演劇、ダンス・ アートマネジメ ントを学ぶこと ができる	680	1,922	2,556	2,242	1,562	134	9,096
	7.5	21.1	28.1	24.6	17.2	1.5	100
経営学(マネジメ ント)を学ぶこ とができる	490	2,154	3,126	1,960	1,223	143	9,096
	5.4	23.7	34.4	21.5	13.4	1.6	100
少人数教育が受 けられる	625	3,333	3,185	1,122	690	141	9,096
	6.9	36.6	35.0	12.3	7.6	1.6	100
地域の課題解決 に取り組める	453	2,498	3,576	1,557	876	136	9,096
	5.0	27.5	39.3	17.1	9.6	1.5	100
旅行会社、劇 場、ホテル等 で実習ができる	1,202	3,132	2,477	1,257	887	141	9,096
	13.2	34.4	27.2	13.8	9.8	1.6	100



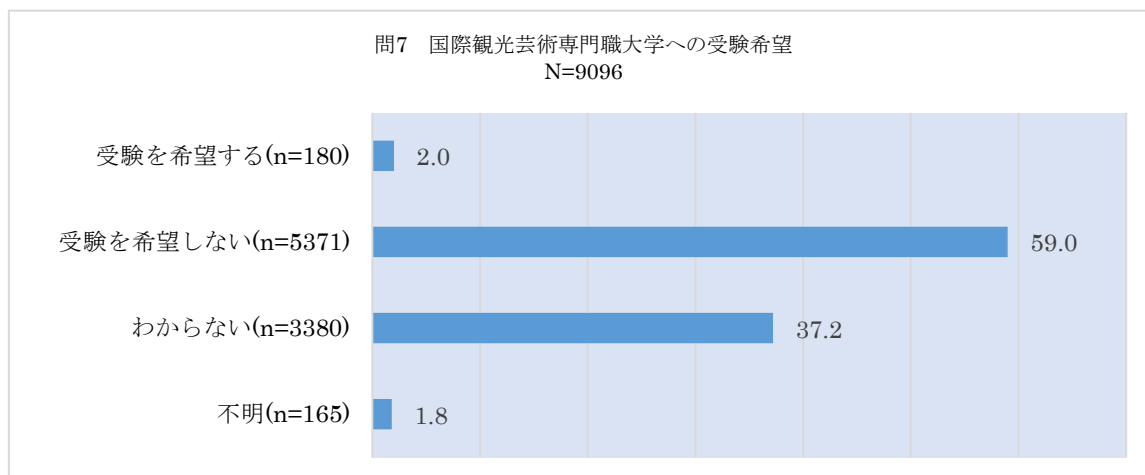


問7 あなたは「国際観光芸術専門職大学文化・観光創造学部文化・観光創造学科」（仮称）への受験（推薦を含む）を希望しますか。以下の項目から、該当する番号1つに○をつけてください。

「文化・観光創造学部文化・観光創造学科」（仮称）への受験意向は、「受験を希望する」が180件（2.0%）、「受験を希望しない」が5,371件（59.0%）、「わからない」3,380件（37.2%）となっている。

問7 国際観光芸術専門職大学への受験希望

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験を希望する	180	2.0
2	受験を希望しない	5,371	59.0
3	わからない	3,380	37.2
	不明	165	1.8
	合計	9,096	100

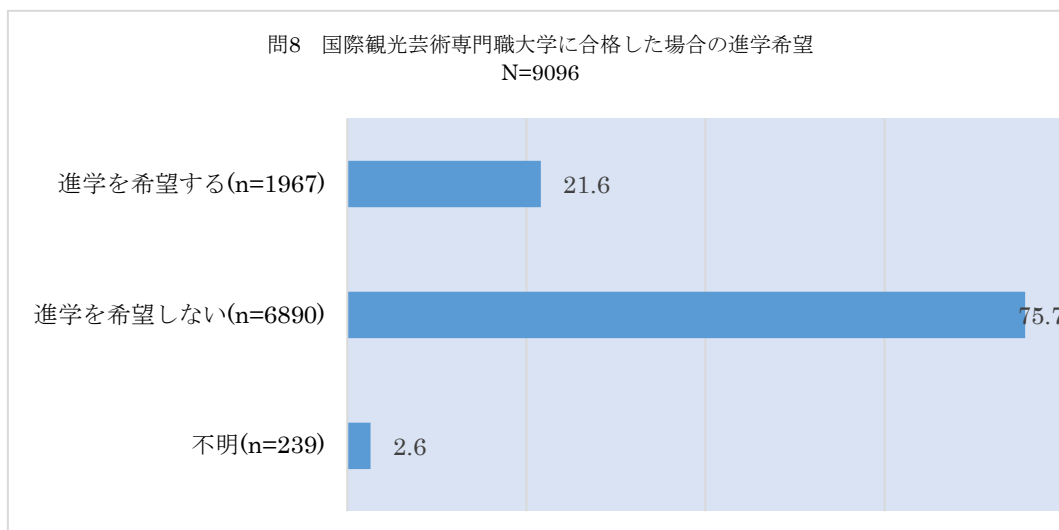


問8 あなたは「国際観光芸術専門職大学文化・観光創造学部文化・観光創造学科」（仮称）の受験に合格した場合、進学を希望しますか。以下の項目から、該当する番号1つに○をつけてください。

国際観光芸術専門職大学文化・観光創造学部文化・観光創造学科（仮称）に合格した場合の進学意向は、「進学を希望する」が1,967件（21.6%）、「進学を希望しない」が6,890件（75.7%）となっている。

問8 国際観光芸術専門職大学に合格した場合の進学希望

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	進学を希望する	1,967	21.6
2	進学を希望しない	6,890	75.7
	不明	239	2.6
	合計	9,096	100



問7×問8 国際観光芸術専門職大学受験希望者の本専門職大学への進学希望

問7で「受験を希望する」を選択し、かつ問8で「進学を希望する」を選択した人の数は164名（入学定員80名の2.05倍）となっており、強い入学意向を有する回答者（164名）が入学定員（80名）を大きく上回る結果となった。

クロス集計 問7（受験希望）×問8（進学希望）

上段:度数 下段:%		問8 国際観光芸術専門職大学に合格した場合の進学希望			
		合計	進学を希望する	進学を希望しない	不明
問7 国際観光芸術専門職大学への受験希望	全体	9,096	1,967	6,890	239
		100.0	21.6	75.7	2.6
	受験を希望する	180	164	15	1
		100.0	91.1	8.3	0.6
	受験を希望しない	5,371	388	4,953	30
		100.0	7.2	92.2	0.6
	わからない	3,380	1,407	1,903	70
		100.0	41.6	56.3	2.1
	不明	165	8	19	138
		100.0	4.8	11.5	83.6

※問7・8の設問は、高校卒業後の進路を問う問3の設問において「1 大学・専門職大学に進学」「2 短期大学・専門職短期大学に進学」「3 専門学校に進学」のいずれかを選択した回答者（9,096人）を集計の対象とする。

問9 「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称) へ
のご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

問9に対する回答は以下の通りとなっている。

ご意見・ご要望
キャンパス内の飲食店などの施設を充実させてほしい。
演劇やダンスのことを重要視しているのは良いですが、もっと観光のことについてリーフレットに書いてほしいです。
県内者と県外者の入学金の差が大きすぎると思う。
豊岡に住んでいても入寮は必須なのか。
豊岡在住でも寮は1年入らなくてはいけないのか。
但馬はそれほどまでに演劇が盛んな地域であるか疑問なので、何故但馬にできるか分からない。
観光の授業科目以外、そこに行くメリットが少ない。
設置場所が悪い。
観光学という新しい学問に興味を持つ人が一定数いると思う。
具体的にどこの地域の観光に重点を置くかで色々変わってくると思う。
学校の名前をもっとかっこよくしたらい。
名前が長い。
興味はあります。
少人数教育はとて素晴らしいと思います。
名前が長いと思います。
所在地が悪い。
観光専門という点に非常に興味を持ちました。
より国際的な分野の希望。
交通の便の良いところがあると嬉しい。
演劇はいらない。
NGO・NPO などと一緒に活動するなどあればおもしろいと思います。留学だったり、語学も充実しているといいです。
ちょっと北にありすぎるので交通の便が不便。JRが近い方が嬉しい。送迎バスが欲しい。
通うのは無理があるから一人暮らしが必要だと思った。
テーマパークダンサーになれるコースを設置してほしい。
もう少し詳細を教えてください。
美術やデザインに関わる科はないですか？
芸術に声優は入りますか？
具体的な授業内容が知りたい。
音楽学科(特に管打楽専攻)があれば、少し興味があります。
美術系があれば入りたいと思った。
学部や学科をもう少し増やしてほしい。
ホテルマンについて学べるコースを作してほしいです。

ご意見・ご要望
芸術はこれからもっと大事になってくると思うのでいいと思います。平田オリザさんの好きな作品もあるのでおもしろいと思います。
交通的に悪いし、入れる人少ない。
A0 ありますか？
なんでこの学校名になったのですか？もう少し簡単にできると思います。
私はグラフィックデザイン、パブリックアートなどの美術系に興味があるのですが、そのような事柄については学べるのでしょうか？
別に専門的な分野でなくとも、普通の国公立を作ればよいのではないか。
交通の便が良い場所が良い。
試験内容等、詳細をはやく知りたいです。
豊岡以外にキャンパスは増設予定か。
どんなものを中心に学んでいくのかわからない。
劇やショー等の機械系、裏方の技術が学べるなら行ってみたいと思う。
名前が長すぎる気がします。
舞台芸術を学びたいので非常に興味があります。ただ、まだ少し理解できていませんが、舞台芸術がしっかり学べるなら受験を希望します。
国公立で初めてできるのでそういう道を目指していたら良いとは思いますが、自宅との距離が遠いので難しいとは思いました。
具体的な情報がないため分からない。
国際観光ということなので国内だけではなく、海外のことにも目を向けると思うのですが、現時点でどの国の言語、文化、観光について学ぶか等は決まっていますでしょうか。
絶対に寮で生活しなくてははいけないですか。
主にどんな活動をしているのかを知りたい。
なぜ全寮制なのか。家から通学したいというのはだめなののでしょうか。
ダンスや歌やパフォーマンスに興味があるので少し気になっています。
新しく県立の大学が建てられることを非常に嬉しい限りです。応援していますので、頑張ってください。
マネジメントはおもしろそうだなと思いました。
名称が長いです。略称等を付けるか短くした方が良くと思います。
総合大学にしてほしい。
奨学金を用意したら良いと思う。今のところ迷ってはいますが、私は金銭上の都合で就職かもしれないからです。
教員になりやすいようにしてほしい。
大学近隣の駅からのバスは必要だと思う。
日本の観光業を発展させてほしい。
専門の大学だと入学する人数が少なかったりするから普通の大学がいいと思う。そうすれば入学してくれる人数が増えるし、その中にこの学科を入れたらいいと思う。
カリキュラムを知りたい。
良い大学。
不便そう。
理学部がほしい。

ご意見・ご要望
県内、外で料金が違うのはかわいそう。
もっとカッコいい大学名にした方がいいと思います。
入試難易度を早く知りたい。
通いづらから一年は全寮制ですか？2年からは、寮に入れませんか？
スポーツ系の分野もあれば良いと思った。
グラウンドはキレイですか？
おもしろそうです。
1年次は全寮制という部分はいいなと思いました。まだ不明瞭な部分が多いというのが正直な意見です。
略称のつけにくい名前は人気が出ない。
理系学部も手広くやっても良いと思います。
外国からもっとたくさんの観光客がきてほしいのと日本のいい場所をもっと知ってもらいたいのでとても興味があります。
とても少人数の人しか興味がないと思う。
名前をもっとシンプルにしてみた方がいい気がする。
何で観光なのに演劇があるのですか？
表現力や経済力が鍛えることができると思った。
新しくていいと思う。
近くに学生向きアパートはありますか？
いろいろできるからいいなと思いました。
その分野の進路の人にとってとても良い大学だと思う。
演劇の裏方、舞台芸術に関係ある学科はあるのか。
演劇は難しそう。
入試科目に何が必要か。
偏差値や将来目指せる職業等、詳しい情報がほしい。
ダンスのジャンルを知りたい。
クラブ活動を充実させてほしい。
声優を目指せる場所はありますか。ないなら作ってほしいです。
テレビなどのメディアや、お笑いも入れて。
学科的に進学を希望する人が少ないうえに立地が悪いところに税金等使って設立する意義が理解できない。無駄。
「演劇」についての詳しい内容を知りたいです。
とても御大学に入学することを希望しています。第1希望です。絶対に入りたいです。入学試験内容をとても知りたいです。
豊岡なので、大学に行くまでの交通手段が不便だと思う。
神戸から場所が遠い。
「何になれるか」ということについて、まだ開校していないから実証例がないのは当然なのですが、少々ぼんやりしていると思いました。進学して何になれるのかよくわかりません。
とても楽しそうだけど場所がここからだと行きづらそう。
大学名を短くしてもいいと思う。

ご意見・ご要望
立地が悪いです。
名前を短く覚えやすいものにするのは？
今までの大学にない学部ですか？どういう内容？
就職先はどこが期待できるか。
神戸に建てた方が、人が来ると思います。
文化などを学ぶということはとてもいい事だと思います。
いつからオープンキャンパスはあるのか。
AI 化しているなかで、このような事業が将来に役立つかが不安。
ダンスというのはどう系のダンスですか？現代的な HIPHOP とかではないミュージシャンのようなダンスですか？
声優などの分野はありますか？
興味はあるのもう少し詳しく知りたい。
交通の便が悪すぎる。
略称はありますか？
私の将来に関係している大学ですが、行きたいところも決めていますし、通学に時間かかるので通いづらい。
具体的な就職先が知りたい。演劇とは具体的にどんなことを学べるのか知りたい。留学に関して、交換留学ができるのか、色々知りたい。
観光学を学べるところが少ないのですごく嬉しいです。
神戸市に設置するなら考えるかもしれないです。
豊岡は少し遠いかなと思います。
公立大学がこのような革新的な試みを行うのは、地方創出の観点から見ても素晴らしいと思うので、軌道にしっかりと載せて下さい。
兵庫県の専門職大学ができるのはいいこと。豊岡にはあまりないのでできたら良いです。
名前がかっこいい。
学科はその1つだけですか？
そういった大学があってもいいと思う。
大学を出て何ができるのか分からない。
オープンキャンパスはありますか？
もっと情報が欲しい。
東京への進学希望なのでとても迷います。
とても良いと思った。名前をより簡単にすればシンプルで良いと思う。
部活は何があるのか。
観光学を専攻する人なら良い大学だと思います。
なぜ演劇と観光を一緒に学ぶのかわかりません。演劇だけでも学べるなら行きたいです。
何を創造するかわからない。
伝統工芸に関わる授業もできたらつくってほしいです。
国公立大学にするのではなく、専門職大学にしたほうがいいのではないかと思う。わざわざ国公立にする必要はないと思います。
舞台での経験をたくさん積まして欲しいので実践をしてほしい。

ご意見・ご要望
もう少し詳しい情報を知りたい。
普通の公立大学より学費が安く行きやすいなと思った。
もっと学科を作るべき。
学力が足りたら行きたい。家が遠いので、学生寮があるのは嬉しい。
遠すぎてあまり魅力を感じない。
名前が長いのでインパクトはありますが、難しそうに見えます。
リーフレットの内容が分かりにくかったです。
部活動を充実させてほしい。
他の大学にはあまりないことをできるところがいいと思いました。
行きたいとは思いますが家から遠いので難しい。
学部を増やしてほしい。
もう少し立地条件をよくしてほしい。
国公立大学で観光学を学べる場所は限られているのでとてもよいと思います。
芸術専門に興味がありました。
看護の専門職大学を1年の時に見ていましたが、何年も開学が先延ばしになっていますよね？実績もない大学に行くのはリスクが高すぎます。行くことも後輩に勧めることもありません。
ライブや舞台などの裏側を知りたいです。
大学名に「国際」とつくるとレベルが低そうに感じるの、やめた方がよいと思います。
地域について学べるのは良いし、大学を出たら地元のために何かしたいと思う人に最適かなと思いました。
観光に興味はあるが芸術はやりたくない人にとっては少し分かりにくいかもしれません。
このアンケートで初めてこのような大学について知りました。今希望している大学からこの大学に変わりそうなほど興味が湧いています。教員免許は取れますか？
この大学で学べるのが具体的にどういう職業につながるのか教えて欲しいです。
海外の観光業も研究できますか？「国際」とは？
大阪にもキャンパスを作って欲しいです。ダンスをもっと推して欲しいです。
静かな演劇だけでは嫌です。
観光、文化、演劇と自分にぴったりな大学でとても興味があります。
国公立で演劇が学べる大学はものすごく貴重な場だと思います。
県外者の学費が高いです。
演劇の分野にとっても興味がありますが、進学後の先が分からないので不安です。
知名度を上げてください。
設立しなくても良いと思う。
税金を大切にしてほしい。
何が学べるのか詳しく教えて欲しいです。

○男女別クロス集計

問1 性別 × 問2 所属しているクラス（コース）

		上段:度数	問1 性別			
		下段:%	合計	男性	女性	不明
問2 所属しているクラス (コース)	全体	9,823	3,748	6,048	27	
		100.0	100.0	100.0	100.0	
	文系クラス (コース)	6,538	2,542	3,983	13	
		66.6	67.8	65.9	48.1	
	文理系クラス (コース)	761	398	362	1	
		7.7	10.6	6.0	3.7	
	コースはない	1,256	404	849	3	
		12.8	10.8	14.0	11.1	
	その他	1,144	357	781	6	
		11.6	9.5	12.9	22.2	
	不明	124	47	73	4	
		1.3	1.3	1.2	14.8	

問1 性別 × 問3 高校卒業後の進路

		上段:度数	問1 性別			
		下段:%	合計	男性	女性	不明
問3 高校卒業後の進路	全体	9,823	3,748	6,048	27	
		100.0	100.0	100.0	100.0	
	大学・専門職 大学に進学	7,563	3,148	4,398	17	
		77.0	84.0	72.7	63.0	
	短期大学・専門職 短期大学に進学	358	29	328	1	
		3.6	0.8	5.4	3.7	
	専門学校に進学	1,175	264	907	4	
		12.0	7.0	15.0	14.8	
	就職	562	228	332	2	
		5.7	6.1	5.5	7.4	
	その他	131	64	67	-	
		1.3	1.7	1.1	-	
	不明	34	15	16	3	
		0.3	0.4	0.3	11.1	

問1 性別 × 問4 進学したい分野（第1希望）

		上段:度数	問1 性別			
		下段:%	合計	男性	女性	不明
問4 進学したい分野（第1希望）	全体	9,096	3,441	5,633	22	
		100.0	100.0	100.0	100.0	
	観光学	131	38	91	2	
		1.4	1.1	1.6	9.1	
	芸術学(演劇、音楽、デザインなど含む)	589	109	478	2	
		6.5	3.2	8.5	9.1	
	文化学	88	33	54	1	
		1.0	1.0	1.0	4.5	
	社会学	280	140	139	1	
		3.1	4.1	2.5	4.5	
	経済・経営・商学	1,376	883	490	3	
		15.1	25.7	8.7	13.6	
	文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	804	259	544	1	
		8.8	7.5	9.7	4.5	
	法学(政治学など含む)	428	258	170	-	
		4.7	7.5	3.0	-	
	語学(言語学など含む)	575	124	451	-	
		6.3	3.6	8.0	-	
	国際関係学	452	110	342	-	
		5.0	3.2	6.1	-	
	情報学	153	121	32	-	
		1.7	3.5	0.6	-	
	教員養成・教育学	1,089	290	799	-	
		12.0	8.4	14.2	-	
	生活科学(食物・栄養学・被服学、児童学など含む)	366	34	331	1	
		4.0	1.0	5.9	4.5	
	看護・保健学	812	127	682	3	
		8.9	3.7	12.1	13.6	
	工・理学	293	232	59	2	
		3.2	6.7	1.0	9.1	
農・水産学	66	24	41	1		
	0.7	0.7	0.7	4.5		
医・歯・薬学	247	77	169	1		
	2.7	2.2	3.0	4.5		
その他	503	154	349	-		
	5.5	4.5	6.2	-		
まだ決めていない	775	393	379	3		
	8.5	11.4	6.7	13.6		
不明	69	35	33	1		
	0.8	1.0	0.6	4.5		

問1 性別 × 問4 進学したい分野（第2希望）

		上段:度数	問1 性別			
		下段:%	合計	男性	女性	不明
問4 進学したい分野（第2希望）	全体	9,096	3,441	5,633	22	
		100.0	100.0	100.0	100.0	
	観光学	272	66	206	-	
		3.0	1.9	3.7	-	
	芸術学(演劇、音楽、デザインなど含む)	464	100	364	-	
		5.1	2.9	6.5	-	
	文化学	235	78	157	-	
		2.6	2.3	2.8	-	
	社会学	493	276	215	2	
		5.4	8.0	3.8	9.1	
	経済・経営・商学	724	408	313	3	
		8.0	11.9	5.6	13.6	
	文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)	865	318	545	2	
		9.5	9.2	9.7	9.1	
	法学(政治学など含む)	405	262	142	1	
		4.5	7.6	2.5	4.5	
	語学(言語学など含む)	498	123	374	1	
		5.5	3.6	6.6	4.5	
	国際関係学	641	169	472	-	
		7.0	4.9	8.4	-	
	情報学	233	166	64	3	
		2.6	4.8	1.1	13.6	
	教員養成・教育学	602	194	408	-	
		6.6	5.6	7.2	-	
	生活科学(食物・栄養学・被服学、児童学など含む)	414	34	379	1	
		4.6	1.0	6.7	4.5	
	看護・保健学	310	62	248	-	
		3.4	1.8	4.4	-	
	工・理学	150	106	44	-	
		1.6	3.1	0.8	-	
農・水産学	85	36	48	1		
	0.9	1.0	0.9	4.5		
医・歯・薬学	246	54	192	-		
	2.7	1.6	3.4	-		
その他	254	73	180	1		
	2.8	2.1	3.2	4.5		
まだ決めていない	957	369	586	2		
	10.5	10.7	10.4	9.1		
不明	1,248	547	696	5		
	13.7	15.9	12.4	22.7		

問1 性別 × 問5 進学先を決定する際に重視すること（複数回答）

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問5 進学先を決定する際に重視すること（複数回答）	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	学部・学科の専攻分野	4,644	1,536	3,101	7
		51.1	44.6	55.1	31.8
	特色ある教育研究	702	272	428	2
		7.7	7.9	7.6	9.1
	教員の充実度	424	175	248	1
		4.7	5.1	4.4	4.5
	設置形態（国・公・私立）	1,471	620	848	3
		16.2	18.0	15.1	13.6
	就職実績	2,195	837	1,355	3
		24.1	24.3	24.1	13.6
	資格を取得できる	2,887	863	2,017	7
		31.7	25.1	35.8	31.8
	学校の所在地	2,995	1,177	1,813	5
		32.9	34.2	32.2	22.7
	校舎・施設の充実度	1,505	559	943	3
		16.5	16.2	16.7	13.6
	学費（入学金・授業料）	2,448	883	1,558	7
		26.9	25.7	27.7	31.8
	大学の伝統・知名度	801	378	422	1
		8.8	11.0	7.5	4.5
	入試難易度・入試科目	2,480	995	1,479	6
		27.3	28.9	26.3	27.3
	クラブ活動・学校生活の充実度	801	359	441	1
		8.8	10.4	7.8	4.5
	担任や進路指導教員の意見	150	69	81	-
	1.6	2.0	1.4	-	
家族（親や兄弟）の意見	722	242	480	-	
	7.9	7.0	8.5	-	
現役大学生や卒業生等の意見	281	87	193	1	
	3.1	2.5	3.4	4.5	
その他	58	19	39	-	
	0.6	0.6	0.7	-	
不明	426	194	229	3	
	4.7	5.6	4.1	13.6	

問1 性別 × 問6① 関心度：観光学を学ぶ

上段:度数		問1 性別			
下段:%		合計	男性	女性	不明
問6① 関心度：観光学を学ぶ	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	非常に関心がある	481	148	330	3
		5.3	4.3	5.9	13.6
	関心がある	2,231	674	1,553	4
		24.5	19.6	27.6	18.2
	どちらでもない	2,969	1,134	1,831	4
		32.6	33.0	32.5	18.2
	あまり関心がない	2,027	767	1,254	6
		22.3	22.3	22.3	27.3
全く関心がない	1,252	659	588	5	
	13.8	19.2	10.4	22.7	
不明	136	59	77	-	
	1.5	1.7	1.4	-	

問1 性別 × 問6② 関心度：演劇等を学ぶ

上段:度数		問1 性別			
下段:%		合計	男性	女性	不明
問6② 関心度：演劇等を学ぶ	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	非常に関心がある	680	110	567	3
		7.5	3.2	10.1	13.6
	関心がある	1,922	354	1,566	2
		21.1	10.3	27.8	9.1
	どちらでもない	2,556	1,034	1,515	7
		28.1	30.0	26.9	31.8
	あまり関心がない	2,242	950	1,286	6
		24.6	27.6	22.8	27.3
全く関心がない	1,562	934	624	4	
	17.2	27.1	11.1	18.2	
不明	134	59	75	-	
	1.5	1.7	1.3	-	

問1 性別 × 問6③ 関心度：経営学（マネジメント）を学ぶ

上段:度数		問1 性別			
下段:%		合計	男性	女性	不明
問6③ 関心度：経営学（マネジメント）を学ぶ	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	非常に関心がある	490	188	299	3
		5.4	5.5	5.3	13.6
	関心がある	2,154	741	1,409	4
		23.7	21.5	25.0	18.2
	どちらでもない	3,126	1131	1,991	4
		34.4	32.9	35.3	18.2
	あまり関心がない	1,960	681	1,271	8
		21.5	19.8	22.6	36.4
全く関心がない	1,223	640	580	3	
	13.4	18.6	10.3	13.6	
不明	143	60	83	-	
	1.6	1.7	1.5	-	

問1 性別 × 問6④ 関心度：少人数教育

上段:度数		問1 性別			
下段:%		合計	男性	女性	不明
問6④ 関心度：少人数教育	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	非常に関心がある	625	167	455	3
		6.9	4.9	8.1	13.6
	関心がある	3,333	966	2,362	5
		36.6	28.1	41.9	22.7
	どちらでもない	3,185	1,320	1,855	10
		35.0	38.4	32.9	45.5
	あまり関心がない	1,122	501	620	1
		12.3	14.6	11.0	4.5
全く関心がない	690	423	264	3	
	7.6	12.3	4.7	13.6	
不明	141	64	77	-	
	1.6	1.9	1.4	-	

問1 性別 × 問6⑤ 関心度：地域の課題解決

上段:度数		問1 性別			
下段:%		合計	男性	女性	不明
問6⑤ 関心度：地域の課題解決	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	非常に関心がある	453	166	284	3
		5.0	4.8	5.0	13.6
	関心がある	2,498	854	1,639	5
		27.5	24.8	29.1	22.7
	どちらでもない	3,576	1,330	2,239	7
		39.3	38.7	39.7	31.8
	あまり関心がない	1,557	574	980	3
		17.1	16.7	17.4	13.6
全く関心がない	876	459	413	4	
	9.6	13.3	7.3	18.2	
不明	136	58	78	-	
	1.5	1.7	1.4	-	

問1 性別 × 問6⑥ 関心度：実習ができる

上段:度数		問1 性別			
下段:%		合計	男性	女性	不明
問6⑥ 関心度：実習ができる	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	非常に関心がある	1,202	267	932	3
		13.2	7.8	16.5	13.6
	関心がある	3,132	943	2,183	6
		34.4	27.4	38.8	27.3
	どちらでもない	2,477	1,093	1,381	3
		27.2	31.8	24.5	13.6
	あまり関心がない	1,257	557	695	5
		13.8	16.2	12.3	22.7
全く関心がない	887	518	364	5	
	9.8	15.1	6.5	22.7	
不明	141	63	78	-	
	1.6	1.8	1.4	-	

問1 性別 × 問7 国際観光芸術専門職大学への受験希望

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問7 国際 観光芸術専 門職大学へ の受験希望	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	受験を希望する	180	61	117	2
		2.0	1.8	2.1	9.1
	受験を希望しない	5,371	2,129	3,231	11
		59.0	61.9	57.4	50.0
	わからない	3,380	1,179	2,193	8
		37.2	34.3	38.9	36.4
不明	165	72	92	1	
	1.8	2.1	1.6	4.5	

問1 性別 × 問8 国際観光芸術専門職大学に合格した場合の進学希望

	上段:度数	問1 性別			
	下段:%	合計	男性	女性	不明
問8 国際 観光芸術専 門職大学に 合格した場 合の進学希 望	全体	9,096	3,441	5,633	22
		100.0	100.0	100.0	100.0
	進学を希望する	1,967	633	1,332	2
		21.6	18.4	23.6	9.1
	進学を希望しない	6,890	2,723	4,150	17
		75.7	79.1	73.7	77.3
	不明	239	85	151	3
		2.6	2.5	2.7	13.6

問1 性別(男性) × 問7 受験希望 × 問8 進学希望

男性	上段:度数	問8 国際観光芸術専門職大学に合格した場合の進学希望			
	下段:%	合計	進学を希望する	進学を希望しない	不明
問7 国際観光芸術専門職大学への受験希望	全体	3,441	633	2,723	85
		100.0	18.4	79.1	2.5
	受験を希望する	61	52	9	-
		100.0	85.2	14.8	-
	受験を希望しない	2,129	124	1,994	11
		100.0	5.8	93.7	0.5
	わからない	1,179	452	712	15
		100.0	38.3	60.4	1.3
不明	72	5	8	59	
	100.0	6.9	11.1	81.9	

問1 性別（女性） × 問7 受験希望 × 問8 進学希望

女性	上段:度数	問8 国際観光芸術専門職大学に合格した場合の進学希望			
	下段:%	合計	進学を希望する	進学を希望しない	不明
問7 国際観光芸術専門職大学への受験希望	全体	5,633	1,332	4,150	151
		100.0	23.6	73.7	2.7
	受験を希望する	117	111	6	-
		100.0	94.9	5.1	-
	受験を希望しない	3,231	264	2,948	19
		100.0	8.2	91.2	0.6
	わからない	2,193	954	1,185	54
		100.0	43.5	54.0	2.5
	不明	92	3	11	78
		100.0	3.3	12.0	84.8

<アンケート調査票>

国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート

兵庫県では、2021年(令和3年)4月に、新たに県立の4年制大学「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部文化・観光創造学科」(仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは高校生の皆さんの高校卒業後の進路などについてお聞きし、「国際観光芸術専門職大学」(仮称)を設置するための基礎資料とするものです。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

また、このアンケートは「国際観光芸術専門職大学」(仮称)への受験を約束させるためのものではありません。つきましては、率直なご意見をお聞かせいただきますようアンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

- ◆ 大 学 名 : 国際観光芸術専門職大学(仮称)
- ◆ 学部学科名 : 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科(仮称)
- ◆ 設 置 時 期 : 2021年(令和3年)4月予定
- ◆ 場 所 : 兵庫県豊岡市山王町17番10(JR豊岡駅から600m)
- ◆ 学生納付金 : 入学金(県内者)282,000円(県外者)423,000円、授業料535,800円/年(予定)

「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)の内容等につきましては、同封のリーフレットをご覧ください。

※アンケートや同封のリーフレットに記載されている事項はすべて予定であり、変更になる可能性があります。

問1 あなたの性別を教えてください。該当する番号1つに○をつけてください。

1. 男性 2. 女性

問2 所属しているクラス(コース)について、該当する番号1つに○をつけてください。

1. 文系クラス(コース) 3. コースはない
2. 文理系クラス(コース) 4. その他(具体的に:)

問3 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのような進路を希望していますか。

以下の項目から、該当する番号1つに○をつけてください。

1. 大学・専門職大学に進学 3. 専門学校に進学 5. その他()
2. 短期大学・専門職短期大学に進学 4. 就職

※1、2、3を選んだ方は問4へ進んでください。

※4、5を選んだ方は問9へ進んでください。

問4 問3で1、2、3を選んだ方におたずねします。進学したいと希望している分野はどれですか。

以下の項目から、該当する番号を選び、第1希望と第2希望を右の回答欄にそれぞれ記入してください。

- | | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|--------------|-----------|
| 1. 観光学 | 7. 法学(政治学など含む) | 13. 看護・保健学 | 第1希望
□ |
| 2. 芸術学(演劇、音楽、デザインなど含む) | 8. 語学(言語学など含む) | 14. 工・理学 | |
| 3. 文化学 | 9. 国際関係学 | 15. 農・水産学 | 第2希望
□ |
| 4. 社会学 | 10. 情報学 | 16. 医・歯・薬学 | |
| 5. 経済・経営・商学 | 11. 教員養成・教育学 | 17. その他 | |
| 6. 文学(心理学、考古学、地理学、
歴史学、哲学など含む) | 12. 生活科学(食物・栄養学・被服学、
児童学など含む) | 18. まだ決めていない | |

(裏面に続く)

問5 あなたが進学先を決定する際に重視することは何ですか。
以下の項目から、該当する番号に3つまで○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------|
| 1. 学部・学科の専攻分野 | 6. 資格を取得できる | 11. 入試難易度・入試科目 |
| 2. 特色ある教育研究 | 7. 学校の所在地 | 12. クラブ活動・学校生活の充実度 |
| 3. 教員の充実度 | 8. 校舎・施設の充実度 | 13. 担任や進路指導教員の意見 |
| 4. 設置形態(国・公・私立) | 9. 学費(入学金・授業料) | 14. 家族(親や兄弟)の意見 |
| 5. 就職実績 | 10. 大学の伝統・知名度 | 15. 現役大学生や卒業生等の意見 |
| | | 16. その他() |

【ここからは、アンケートに同封しているリーフレットをご覧の上でお答えください】

問6 「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部文化・観光創造学科」(仮称)には、
以下のような特色があります。これらの特色について、5段階の中から該当する番号1つに○をつけてください。

①観光学を学ぶことができる

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

②演劇、ダンス、アートマネジメント(文化政策、ホール運営等)を学ぶことができる

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

③観光業、アートマネジメントのどちらにも通じる経営学(マネジメント)を学ぶことができる

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

④1学部1学科80人の徹底した少人数教育で充実した指導が受けられる

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

⑤地域の人たちとともに、地域の課題解決に取り組める

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

⑥旅行会社、航空・鉄道・バス会社、劇場、文化ホール、ホテル、旅館、自治体等での実習ができる

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

問7 あなたは「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部文化・観光創造学科」(仮称)への
受験(推薦を含む)を希望しますか。以下の項目から、該当する番号1つに○をつけてください。

1. 受験を希望する 2. 受験を希望しない 3. わからない

問8 あなたは「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部文化・観光創造学科」(仮称)の
受験に合格した場合、進学を希望しますか。以下の項目から、該当する番号1つに○をつけてください。

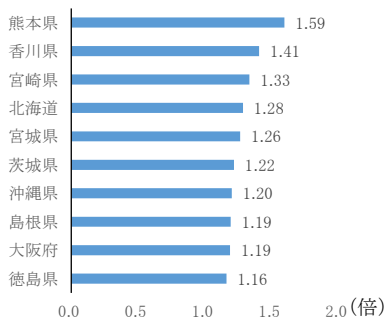
1. 進学を希望する 2. 進学を希望しない

問9 「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部文化・観光創造学科」(仮称)への
ご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

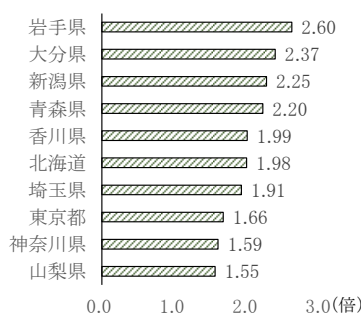
質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

図表Ⅱ- 31 観光関連産業における常用雇用者数の変化（都道府県別）
（2012年（平成24年）→2016年（平成28年））

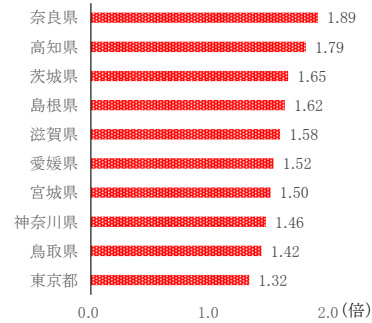
(1) 旅行業



(2) 公園、遊園地



(3) 自動車賃貸業

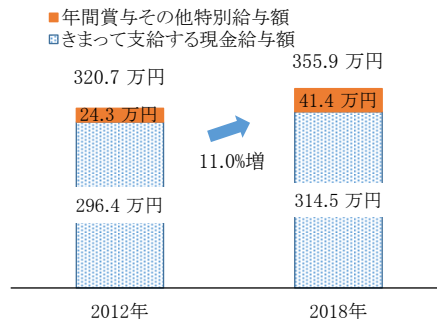


資料：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」、「平成24年経済センサス-活動調査」に基づき観光庁作成

(宿泊業の賃金は人手不足や労働生産性の向上等を背景に上昇)

次に、外国人旅行者の増加が我が国の労働者の賃金に与える影響を検証するため、厚生労働省の賃金構造基本統計により、宿泊業における賃金の状況を確認した。その結果、2012年（平成24年）には、宿泊業における1人当たりの「きまって支給する現金給与額」が年間で296万4千円、「年間賞与その他特別給与額」が年間で24万3千円で、合計で320万7千円であったが、2018年（平成30年）には「きまって支給する現金給与額」が年間で314万5千円、「年間賞与その他特別給与額」が年間で41万4千円で、合計で355万9千円となり、合計でみると賃金は6年間で11.0%上昇している。このうち、特に「年間賞与その他特別給与額」の伸びが大きく、単独では51.3%上昇している。なお、全産業平均は、「きまって支給する現金給与」と「年間賞与その他特別給与額」との合計で497万2千円であり、依然として平均を下回っている。

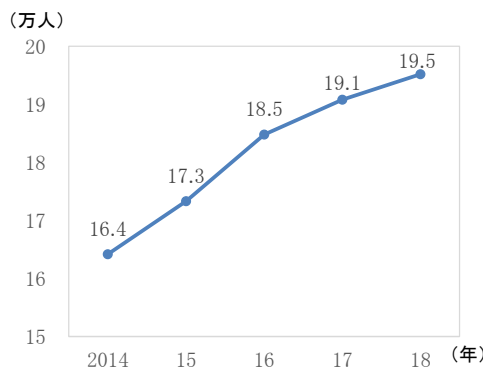
図表Ⅱ- 32 宿泊業における賃金の変化（2012年（平成24年）→2018年（平成30年））



資料：厚生労働省「賃金構造基本統計」に基づき観光庁作成

また、厚生労働省の職業安定業務統計により、宿泊業の新規求人数の推移を確認すると、2014年（平成26年）の新規求人数は16.4万人であったが、その後右肩上がりに増加し、2018年（平成30年）には19.5万人と、4年間で18.9%増加した。

図表Ⅱ- 33 宿泊業の新規求人数の推移



資料：厚生労働省「職業安定業務統計」に基づき観光庁作成

観光や宿泊業を取り巻く現状及び課題等について

平成31年1月28日
観光庁観光産業課

宿泊分野における有効求人倍率(平成29年度)

(単位:人、倍)

職業分類(小分類)	有効求人数	有効求職者数	有効求人倍率 (求人／求職)
旅館・ホテル支配人	6,311	2,794	2.26
飲食物給仕係	924,027	128,972	7.16
旅館・ホテル・乗物接客員	223,721	55,859	4.01
合 計	1,154,059	187,625	6.15
(参考)職業計	28,997,798	20,982,347	1.38

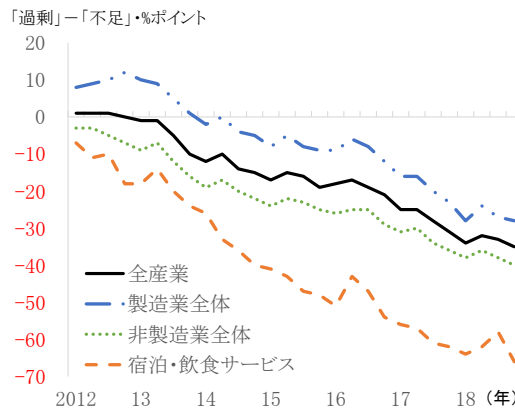
(出典)厚生労働省「職業安定業務統計」

(注) 数値は全て常用(パート含む)、原数値。

「常用」とは、雇用契約において、雇用期間の定めがない又は4か月以上の雇用期間が定められているものをいう。

他方で、日本銀行の全国企業短期経済観測調査の雇用人員判断DIにより、人手不足の状況を確認すると、飲食サービス業を含む「宿泊・飲食サービス」ではあるが、2012年（平成24年）以降、人手不足感が高まり続け、他の産業よりも更に人手不足感が強い産業であることがわかる。

図表Ⅱ-34 雇用人員判断DI

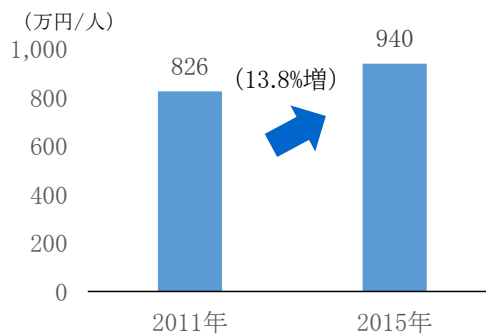


資料：日本銀行「全国企業短期経済観測調査」に基づき観光庁作成

こうしたことから、宿泊業においては、新規求人数が増加する中で、人手不足感が高まっており、労働力の需給がひっ迫している状況であることがうかがえる。先に述べた宿泊業における賃金の上昇傾向は、このような状況を背景としていることが推察される。

また、「平成28年経済センサス-活動調査」により、宿泊業の従業者数と売上高を確認し、従業者1人当たりの売上高を算出すると、2011年（平成23年）には1人当たり826万円であったが、2015年（平成27年）には940万円と、4年間で13.8%増加しており、宿泊業における労働生産性が高まっていることがわかる。このことは、宿泊業が、人手不足の状況の中で限られた人員の生産性を高めることで、需要の増加に対応していることを示唆している。このような労働生産性の上昇も、労働力の需給ひっ迫とともに、宿泊業における賃金の上昇をもたらす要因となっていると考えられる。

図表Ⅱ-35 宿泊業の従業者1人当たりの売上金額



資料：総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」、「平成24年経済センサス-活動調査」に基づき観光庁作成

注：従業者数は2012年（平成24年）2月1日時点と2016年（平成28年）6月1日時点の数値を使用

(抜粋)

特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針について

〔平成30年12月25日〕
閣 議 決 定

標記について、別紙のとおり定める。

- 別紙1 介護分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針
- 別紙2 ビルクリーニング分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針
- 別紙3 素形材産業分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針
- 別紙4 産業機械製造業分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針
- 別紙5 電気・電子情報関連産業分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針
- 別紙6 建設分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針
- 別紙7 造船・船用工業分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針

- 別紙 8 自動車整備分野における特定技能の在留資格に係る
制度の運用に関する方針
- 別紙 9 航空分野における特定技能の在留資格に係る制度の
運用に関する方針
- 別紙 10 宿泊分野における特定技能の在留資格に係る制度
の運用に関する方針
- 別紙 11 農業分野における特定技能の在留資格に係る制度
の運用に関する方針
- 別紙 12 漁業分野における特定技能の在留資格に係る制度
の運用に関する方針
- 別紙 13 飲食料品製造業分野における特定技能の在留資格
に係る制度の運用に関する方針
- 別紙 14 外食業分野における特定技能の在留資格に係る制
度の運用に関する方針

宿泊分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針

法 務 大 臣
国家公安委員会
外 務 大 臣
厚生労働大臣
国土交通大臣

「経済財政運営と改革の基本方針2018」（平成30年6月15日閣議決定）を踏まえ、出入国管理及び難民認定法（昭和26年政令第319号。以下「法」という。）第2条の4第1項の規定に基づき、法第2条の3第1項の規定に基づき定められた「特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）にのっとり、宿泊分野における特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針（以下「運用方針」という。）を定める。

1 人材を確保することが困難な状況にあるため外国人により不足する人材の確保を図るべき産業上の分野（特定産業分野）
宿泊分野

2 特定産業分野における人材の不足の状況（当該産業上の分野において人材が不足している地域の状況を含む。）に関する事項

（1）特定技能外国人受入れの趣旨・目的

宿泊分野において深刻化する人手不足に対応するため、専門性・技能を生かした業務に即戦力として従事する外国人を受け入れることで、本分野の存続・発展を図り、もって我が国の経済・社会基盤の持続可能性を維持する。

（2）生産性向上や国内人材確保のための取組等

宿泊分野では、生産性の向上や国内人材の確保の取組として、業務効率化、IT化・機械化や、女性・高齢者・若者の就業促進に取り組んでいる。

（生産性向上のための取組）

宿泊分野では、マルチタスク化の推進、スタッフの技能向上を促すとともに、その習得状況を情報共有するためのスキルマップの作成、ITを活用した問合せへの自動応答や宿泊者情報の共有による業務効率化等に取り組んでいる。また、全国の旅館・ホテルの幹部層を対象としたワークショップやセミナー等を開催し、好事例を全国へ展開することにより、これらの取組の普及拡大を進めている。

これらの取組により、過去5年間の年平均生産性向上率は2.8%と、全産業平均（1.7%）を大きく上回る状況となっている。

（国内人材確保のための取組）

宿泊分野では、女性のキャリアアップを促進する教育研修制度の確立や高齢者が働きやすい勤務体系の導入、シニアスタッフが担当する新入社員をサポートするメンター制度の導入等を進めているほか、休館日の導入、有給休暇完全消化の徹底等

の労働環境の改善に取り組んでいる。また、宿泊分野における女性・シニアの活躍事例を調査し、その好事例をオンライン講座やセミナーを通じて広く発信することにより、これらの取組の普及拡大を進めている。

(3) 受入れの必要性（人手不足の状況を判断するための客観的指標を含む。）

平成 29 年の訪日外国人旅行者数は 2,869 万人であり、これは平成 24 年と比較すると約 3.4 倍の増加となっている。さらに、今後「明日の日本を支える観光ビジョン」における訪日外国人旅行者数の政府目標（2020 年 4,000 万人、2030 年 6,000 万人）の達成に向けた宿泊需要に対応するためには、これを支える宿泊分野の人材確保が必要不可欠である。また、観光を地方創生につなげていくためには、3 大都市圏以外の地方部への外国人旅行者の訪問を増大させる必要があるが、その延べ宿泊者数は、最近 5 年間で大都市圏では約 2.2 倍、地方部では約 2.8 倍の増加となっており、全国にわたって、宿泊需要の増大への対応が必要となっている。

他方、宿泊分野に係る職業の有効求人倍率（平成 29 年度）は全国で 6.15 倍であり、また、宿泊業、飲食サービス業の欠員率（平成 29 年）は全国で 5.4 %となっており、宿泊分野では、現時点で既に約 3 万人の人手不足が生じているものと推計しているが、さらに、今後の訪日外国人旅行者の増加等に伴い、5 年後（平成 35 年）までに全国で 10 万人程度の人手不足が生じると見込んでいる。

以上のような状況に対応するため、宿泊分野において、一定の専門性・技能を有し、その能力を用いたフロント、企画・広報、接客及びレストランサービス等の様々な業務に従事する外国人を受け入れることにより、宿泊分野の深刻な人手不足の解決に繋げることが、当該分野の基盤を維持し、今後も発展させていくために必要不可欠である。

(4) 受入れ見込数

宿泊分野における向こう 5 年間の受入れ見込数は、最大 2 万 2,000 人であり、これを向こう 5 年間の受入れの上限として運用する。

向こう 5 年間で 10 万人程度の人手不足が見込まれる中、今般の受入れは、毎年 2.8 %程度の生産性向上を図るとともに、国内人材の確保のための取組を進めることにより、労働効率化（5 年間で 5 万人程度）及び追加的な国内人材の確保（5 年間で 3 万人程度）を行ってもなお不足すると見込まれる数を上限として受け入れるものであり、過大な受入れ数とはなっていない。

3 特定産業分野において求められる人材の基準に関する事項

宿泊分野において特定技能 1 号の在留資格で受け入れる外国人は、以下に定める試験に合格した者とする。

(1) 技能水準（試験区分）

「宿泊業技能測定試験（仮称）」

(2) 日本語能力水準

「日本語能力判定テスト（仮称）」又は「日本語能力試験（N4 以上）」

4 法第 7 条の 2 第 3 項及び第 4 項（これらの規定を同条第 5 項において準用する場合

明日の日本を支える観光ビジョン 平成28年3月（抜粋）

（論点）

- ・「民泊サービス」の定義付け、「一定の要件」設定
- ・仲介業者、管理業者、ホスト、行政のそれぞれの役割・責務と、新たな規制の枠組み
- ・宿泊者名簿や最低限の衛生管理措置の確保、行政による関係情報（ホスト・管理業者や物件の住所等）の把握、緊急時の行政の対応
- ・違反指導に係る十分な体制、罰則
- ・宿泊拒否制限の見直し
- ・近隣への迷惑行為の防止措置（管理規約、賃貸借契約との整理）
- ・仲介事業者等に対する実効性ある規制の検討
- ・現行制度の枠組みにとらわれない、宿泊施設に関わる法制度の抜本的見直し
- ・新たな規制の枠組みを踏まえた用途規制等他法令との関係整理

産業界ニーズを踏まえた観光経営人材の育成・強化

○ 観光産業人材の抜本的育成・強化に向け、以下の取組を実施。

- ・観光経営を担う人材育成
 - ◇2020年までにトップレベルの経営人材の恒常的な育成拠点を大学院段階（MBAを含む）に形成（まずは、新たな実践的・専門的プログラムの開発に着手）
- ・観光の中核を担う人材育成の強化
 - ◇大学の観光学部のカリキュラム変革による、地域観光の中核を担う人材育成の強化（標準カリキュラムの開発に着手）
 - ◇2019年度の開学を目指している実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化の際には、観光分野の人材についても産業界のニーズに対応して育成
- ・即戦力となる地域の実践的な観光人材の育成強化
 - ◇地域の観光分野の専修学校等の活用による人材育成の強化

宿泊施設不足の早急な解消及び多様なニーズに合わせた宿泊施設の提供

○ 宿泊施設不足の早急な解消及び多様なニーズに合わせた宿泊施設の提供を図るため、以下の取組を実施。

- ・旅館等に対する投資促進
 - ◇旅館等のインバウンド対応を支援（費用の1/2補助）
 - ◇官民ファンド、関係機関等からのまちづくりと一体となった投融資及びノウハウ支援
- ・旅館等の空室の有効活用
 - ◇クラウド等を活用して地域の実情に沿った旅館等の空室情報の提供体制強化を支援
- ・宿泊産業従事者の人材育成

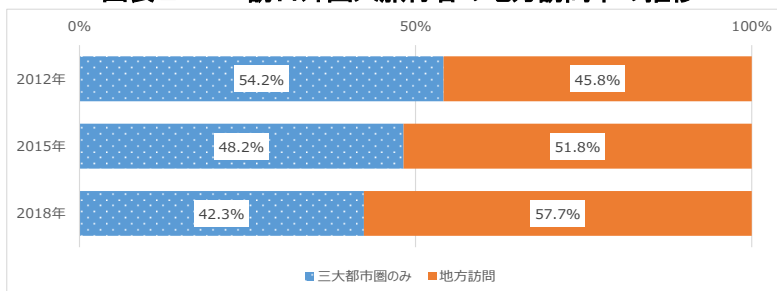
第2節 地方を訪問する訪日外国人旅行者の増加とコト消費の動向

（地方部を訪問する訪日外国人旅行者の割合が半数を超える）

我が国を訪れる訪日外国人旅行者は、その人数が増加しているのみならず、日本の国内における訪問先も年々多様化し、面的な広がりを見せている。こうした動きに伴い、訪問先を三大都市圏とそれ以外の地方部に分けた場合、地方部を訪れる訪日外国人旅行者の割合が年々高まっている。

観光庁の訪日外国人消費動向調査によると、2012年（平成24年）に我が国を訪れた訪日外国人旅行者のうち、54.2%は三大都市圏のみを訪問先としていたが、その割合は2015年（平成27年）には48.2%となり、地方部を訪れる訪日外国人旅行者の割合が、三大都市圏のみを訪れる割合を上回った。2018年（平成30年）には、地方部を訪れる訪日外国人旅行者の割合は更に高まり、57.7%に達している。

図表Ⅱ-5 訪日外国人旅行者の地方訪問率の推移

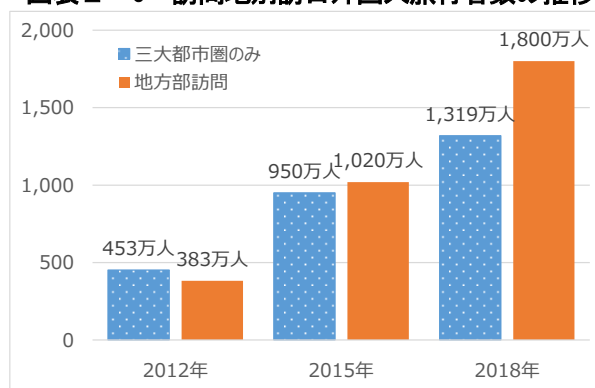


資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局「訪日外客数」に基づき観光庁作成

注1：三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県を、地方部とは三大都市圏以外の道県をいう。

訪日外国人旅行者の訪問先について、人数で比較すると、2012年（平成24年）には、都市部のみを訪問する訪日外国人旅行者の人数が453万人であったのに対し、地方部を訪問する人数は383万人と、都市部のみを訪問する人数を下回っていたが、その後、地方部を訪問する訪日外国人旅行者の人数が急速に増加し、2015年（平成27年）には1,020万人と、2012年（平成24年）の2.7倍となり、都市部のみを訪問する人数である950万人を上回った。2018年（平成30年）には地方部を訪問する人数は1,800万人にまで増加し、三大都市圏のみを訪問する人数である1,319万人の1.4倍となった。

図表Ⅱ-6 訪問地別訪日外国人旅行者数の推移



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局「訪日外客数」に基づき観光庁作成

注1：三大都市圏とは、「東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫」の8都府県を、地方部とは三大都市圏以外の道県をいう。

（訪日外国人旅行者の関心が多様化し、特に「地方型コト消費」への関心が高まっている）

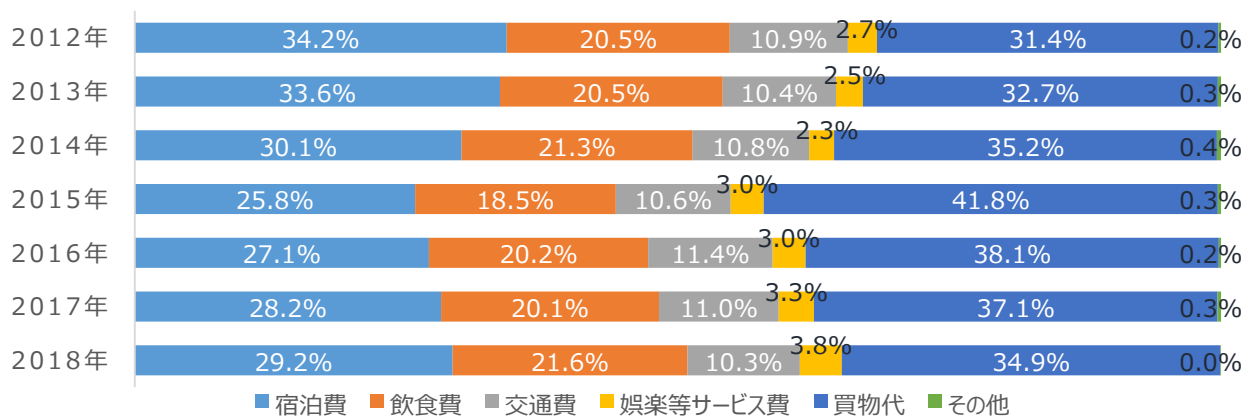
このように、地方を訪れる訪日外国人旅行者が増加していることについては、その背景の一つとして、訪日外国人旅行者の関心が多様化し、様々な「コト消費」への関心が高まっていることが考えられる。

訪日外国人旅行者が「訪日前に最も期待していたこと」は、2014年（平成26年）には「日本食を食べること」と「ショッピング」を合わせた割合が48.5%と約半数を占めていたが、2018年（平成30年）には40.4%に減少しており、その分、訪日外国人旅行者の関心の対象が多様化していることがうかがえる。

「コト消費」を行う訪日外国人旅行者は、一般的に地方部への訪問率が高く、例えば「スキー・スノーボード」では87.4%、「温泉入浴」では75.0%と、全体平均の54.3%を大きく上回っている。そこで、地方部訪問率が60%を超えるコト消費を「地方型コト消費」とし、「訪日前に最も期待していたこと」が「地方型コト消費」であった訪日外国人旅行者の割合をみると、2014年（平成26年）から2018年（平成30年）にかけて、28.2%から34.8%へと増加しており、地方訪問につながりやすい「コト消費」への関心が特に高まっていることがわかる。

また、訪日外国人旅行消費額の費目別構成比の推移をみると、娯楽サービス費の割合は、2015年（平成27年）以降4年連続で拡大し、2018年（平成30年）には3.8%となっている。

図表Ⅱ-11 訪日外国人旅行消費額費目別構成比の推移



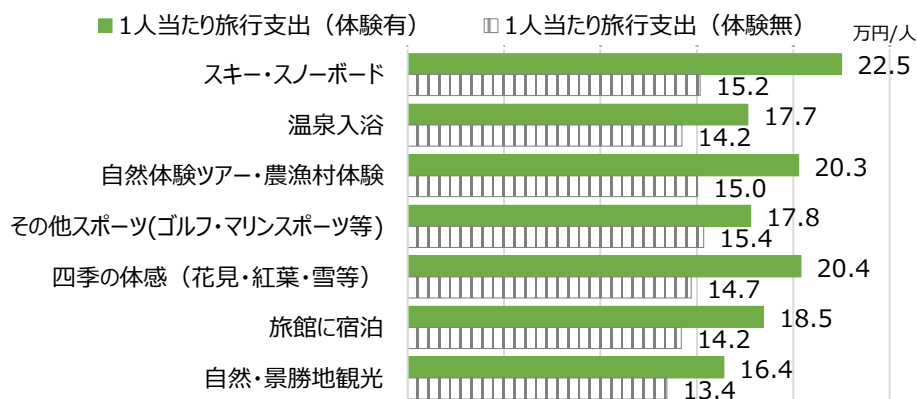
資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」

注1：2018年（平成30年）より、サービス消費をより詳細に把握するため「娯楽サービス費」に「温泉・温浴施設・エステ・リラクゼーション」「マッサージ・医療費」等の費目を追加し「娯楽等サービス費」としたため、数値の比較には留意が必要である。

（「コト消費」は訪日外国人旅行者の1人当たり消費単価を増加させている）

次に、それぞれの「コト消費」の体験の有無別に、訪日外国人旅行者1人当たりの消費単価を算出した。その結果、いずれの「コト消費」についても、体験した場合の消費単価がしなかった場合を上回った。「スキー・スノーボード」は、体験の有無による消費単価の差が特に大きく、体験した場合の消費単価は22万5,056円と、しなかった場合の15万1,699円より7万3,356円高かった。また、「自然体験ツアー・農漁村体験」を体験した場合の消費単価は20万2,789円と、しなかった場合の15万397円より5万2,392円高かった。さらに、「四季の体感（花見・紅葉・雪等）」を体験した場合の消費単価は20万4,021円と、しなかった場合の14万7,122円より5万6,899円高かった。

図表Ⅱ-12 主な「コト消費」の体験有無別1人当たり旅行支出



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」（2018年（平成30年））に基づき観光庁作成

（「コト消費」は娯楽等サービス費以外の消費も増加させ、消費額全体を拡大させている）

「コト消費」による消費額の増加は、旅行消費額のうち、主に「娯楽等サービス費」において生じるが、他の宿泊費や交通費等でも、体験しない場合と比較して消費額が高めに出る傾向にある。これは、「コト消費」を行うに当たり、その場所での宿泊や、移動を必要とする場合が多いためであると考えられる。

そこで、体験した「コト消費」別に、訪日外国人旅行者1人当たりの「娯楽等サービス費」と「宿泊費」との関係性を散布図により確認した。その結果、「コト消費」により「娯楽等サービス費」が増加すれば、「宿泊費」もそれに伴って増加する傾向があることが分かった。また、体験した「コト消費」別に、「娯楽等サービス費」と娯楽等サービス費を除いた1人当たり旅行支出との関係性を散布図により確認すると、「コト消費」により「娯楽等サービス費」が増加すれば、それ以外の旅行支出も増加する傾向にあることが分かった。

また、「スポーツ観戦」については、体験した人の「娯楽等サービス費」の支出が比較的多いことに加え、他の項目よりも、「宿泊費」や娯楽等サービス費を除いた1人当たり旅行支出が多い傾向もある。

○劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（抜粋）

〔平成二十四年六月二十七日号外法律第四十九号〕

（劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する者の役割）

第四条 劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する者は、劇場、音楽堂等の事業（前条に規定する劇場、音楽堂等の事業をいう。以下同じ。）を、それぞれその実情を踏まえつつ、自主的かつ主体的に行うことを通じて、実演芸術の水準の向上等に積極的な役割を果たすよう努めるものとする。

（実演芸術団体等の役割）

第五条 実演芸術に関する活動を行う団体及び芸術家（以下「実演芸術団体等」という。）は、それぞれその実情を踏まえつつ、自主的かつ主体的に、実演芸術に関する活動の充実を図るとともに、劇場、音楽堂等の事業に協力し、実演芸術の水準の向上等に積極的な役割を果たすよう努めるものとする。

（国の役割）

第六条 国は、この法律の目的を達成するため、劇場、音楽堂等に係る環境の整備その他の必要な施策を総合的に策定し、及び実施する役割を果たすよう努めるものとする。

（地方公共団体の役割）

第七条 地方公共団体は、この法律の目的を達成するため、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び当該地方公共団体の区域内の劇場、音楽堂等を積極的に活用しつつ実施する役割を果たすよう努めるものとする。

（劇場、音楽堂等の関係者等の相互の連携及び協力等）

第八条 劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する者、実演芸術団体等その他の関係者（次項及び第十六条第二項において「劇場、音楽堂等の関係者」という。）並びに国及び地方公共団体は、この法律の目的を達成するため、相互に連携を図りながら協力するよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、この法律に基づく施策を策定し、及び実施するに当たっては、劇場、音楽堂等の関係者の自主性を尊重するものとする。

（国及び地方公共団体の措置）

第九条 国及び地方公共団体は、この法律の目的を達成するため、必要な助言、情報の提供、財政上、金融上及び税制上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

（国際的に高い水準の実演芸術の振興等）

第十条 国は、国際的に高い水準の実演芸術の振興並びに我が国にとって歴史上又は芸術上価値が高い実演芸術の継承及び発展を図るため、次に掲げる施策その他必要な施策を講ずるものとする。

一 独立行政法人を通じて劇場、音楽堂等の事業を行うこと。

二 地方公共団体が講ずる劇場、音楽堂等に関する施策、劇場、音楽堂等を設置し、又は運営する民間事業者（次項及び第十二条第二項において「民間事業者」という。）が行う劇場、音楽堂等の事業及び実演芸術団体等が劇場、音楽堂等において行う実演芸術に関する活動への支援を行うこと。

2 前項に定めるもののほか、国は、地方公共団体及び民間事業者に対し、その求めに応じて、我が国の実演芸術の水準の向上に資する事業を行うために必要な知識又は技術等の提供に努めるものとする。

（国際的な交流の促進）

第十一条 国は、外国の多彩な実演芸術の鑑賞の機会が国民に提供されるようにするとともに、我が国の実演芸術の海外への発信を促進するため、我が国の劇場、音楽堂等が行う国際的な交流への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（地域における実演芸術の振興）

第十二条 地方公共団体は、地域の特性に応じて当該地域における実演芸術の振興を図るため、劇場、音楽堂等の事業の実施その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 国は、国民がその居住する地域にかかわらず等しく、実演芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるよう、前項の規定に基づき地方公共団体が講ずる施策、民間事業者が行う劇場、音楽堂等の事業及び実演芸術団体等が劇場、音楽堂等において行う実演芸術に関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

（人材の養成及び確保等）

第十三条 国及び地方公共団体は、制作者、技術者、経営者、実演家その他の劇場、音楽堂等の事業を行うために必要な専門的能力を有する者を養成し、及び確保するとともに、劇場、音楽堂等の職員の資質の向上を図るため、劇場、音楽堂等と大学等との連携及び協力の促進、研修の実施その他の必要な施策を講ずるものとする。

（国民の関心と理解の増進）

第十四条 国及び地方公共団体は、劇場、音楽堂等において行われる実演芸術に対する国民の関心と理解を深めるため、教育活動及び啓発活動の実施その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、この法律に基づく施策を実施するに当たっては、国民の理解を得るよう努めるものとする。

（学校教育との連携）

第十五条 国及び地方公共団体は、学校教育において、実演芸術を鑑賞し、又はこれに参加することができるよう、これらの機会の提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

[国公立施設]

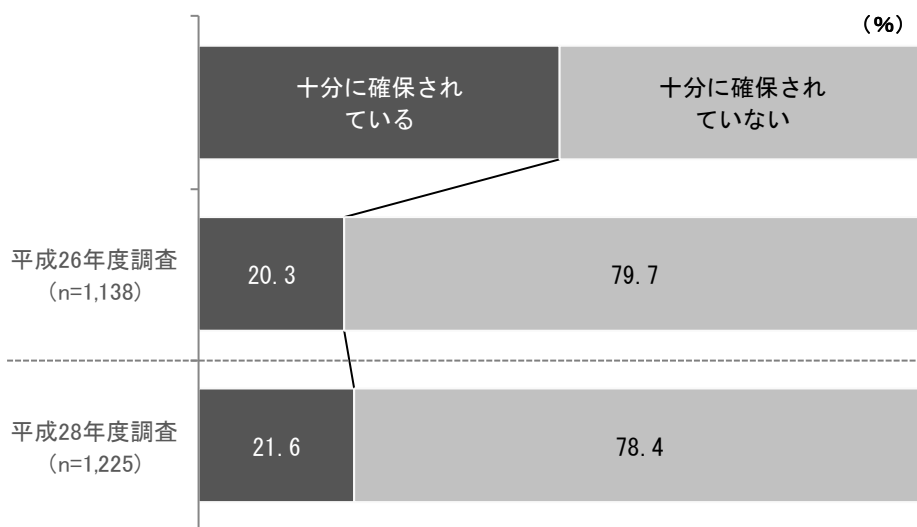
4. 専門的人材の確保

(1) 専門的人材の確保について

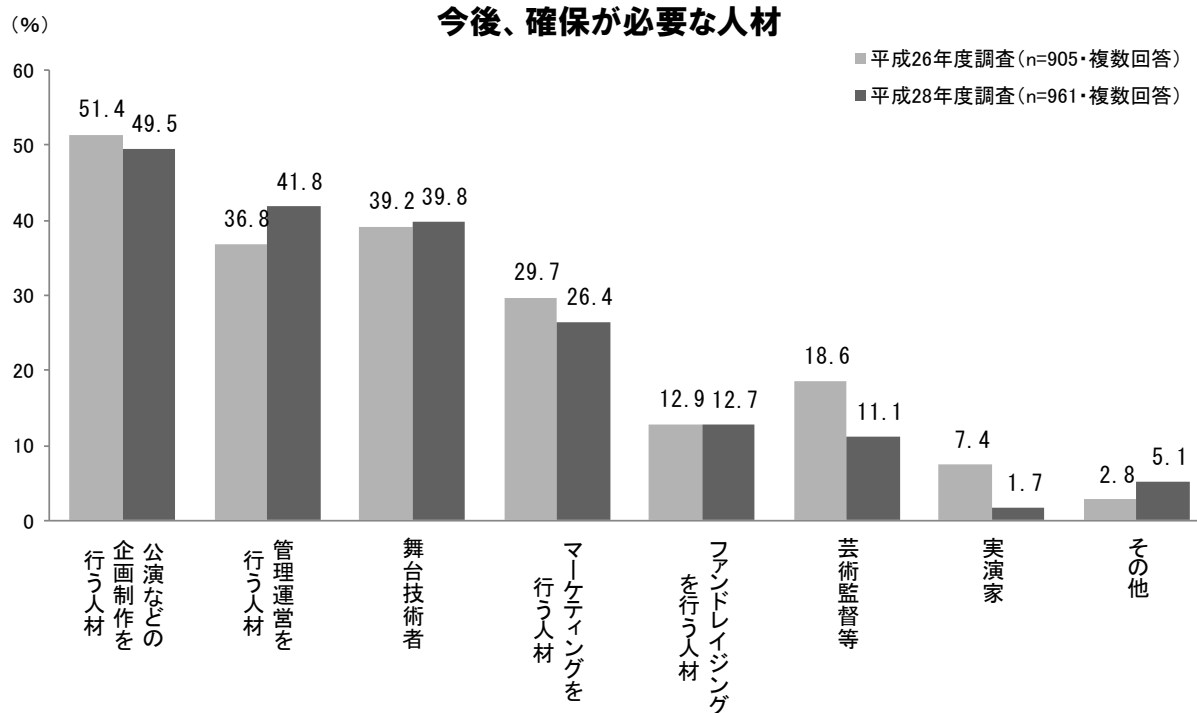
専門的な人材については、今回調査では21.6%が「十分に確保されている」、78.4%が「十分に確保されていない」との回答になっている。前回調査と殆ど差はない。

「今後確保が必要な人材」としては、「公演などの企画制作を行う人材」が49.5%で最も多く、ついで「管理運営を行う人材」(41.8%)、「舞台技術者」(39.8%)、「マーケティングを行う人材」(26.4%)と並んでいる。前回調査と比較すると「管理運営を行う人材」と回答した館の割合が増えている。その他の人材の内容は、「オールマイティな人」「社会教育主事」「学芸員」「生涯学習関係」「教育普及関係」「システム担当」など多様である。

専門的人材の確保



今後、確保が必要な人材



設置団体別にみると、「政令指定都市」「市・特別区(30万人以上)」では「十分に確保されている」という回答が3割を超えて若干多い。また、有効回答数が少ない「国」を除いた数値をみると、「マーケティングを行う人材」「ファンドレイジングを行う人材」では設置団体の規模が大きい館の方が回答率が高く、逆に「舞台技術者」については設置団体の規模が小さい方が回答割合が大きい。また、文化芸術系の主催事業実施の状況でみると、公演回数が多いほど「マーケティングを行う人材」「ファンドレイジングを行う人材」が必要という声が多くなり、逆に公演回数が少ないほど「舞台技術者」が必要という回答が増える傾向がみられる。

補助金の活用の有無では、活用がある方が「マーケティングを行う人材」「ファンドレイジングを行う人材」が必要という回答が多い。

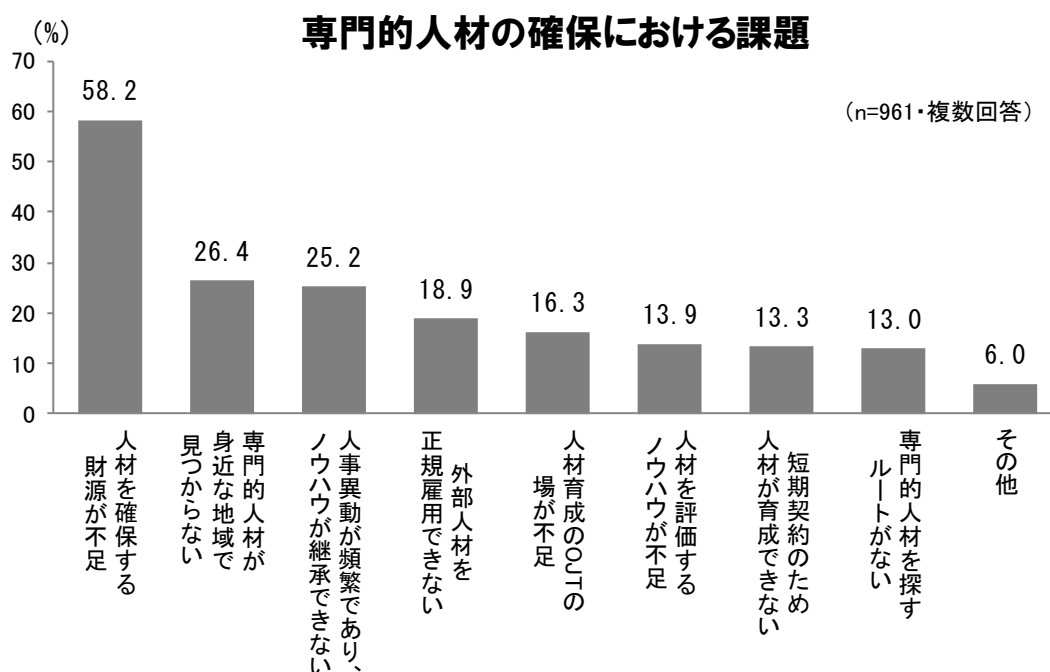
[表 4-1] 専門的人材の確保

	n 数	十分 に 確保 されて いる (%)	十分 に 確保 されて いない (%)	今後、確保が必要な人材(複数回答)										
				回答施設数 (件)	芸術監督等 (%)	公演などの企画制作 を行う人材 (%)	管理運営を行う人材 (%)	マーケティングを 行う人材 (%)	ファンドレイジング を行う人材 (%)	舞台技術者 (%)	実演家 (%)	その他 (%)		
国公立施設全体	1,225	21.6	78.4	961	11.1	49.5	41.8	26.4	12.7	39.8	1.7	5.1		
設置団体別	国	x	-	100.0	x	-	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	-	-	
	都道府県	99	21.2	78.8	78	12.8	50.0	43.6	42.3	28.2	37.2	2.6	1.3	
	政令指定都市	115	33.9	66.1	76	6.6	57.9	44.7	26.3	18.4	21.1	5.3	11.8	
	市・特別区	30万人以上	133	30.1	69.9	93	18.3	50.5	54.8	30.1	17.2	30.1	2.2	9.7
		10万人～30万人未満	267	21.0	79.0	211	9.5	52.6	44.5	29.9	15.2	30.3	1.4	4.3
		10万人未満	406	19.2	80.8	328	11.0	48.8	36.9	25.3	9.1	46.0	0.9	4.0
町村等	203	14.8	85.2	173	11.0	42.8	38.2	15.0	4.0	53.8	1.2	4.6		
最大ホール席数別	1,000席以上	433	23.6	76.4	331	16.0	58.6	44.1	36.0	18.7	36.9	1.2	3.9	
	500席～1,000席未満	539	19.7	80.3	433	10.6	46.0	40.0	20.6	9.2	43.2	2.1	5.5	
	500席未満	253	22.1	77.9	197	4.1	42.1	42.1	23.4	10.2	37.1	1.5	6.1	
文化芸術系主催事業実施	実施有無いずれかに「あり」	936	19.6	80.4	753	12.1	55.9	42.5	30.3	15.3	40.4	2.1	4.5	
	公演回数1～3	174	20.1	79.9	139	7.2	43.2	46.0	11.5	5.0	48.2	1.4	5.0	
	公演回数4～10	265	21.1	78.9	209	10.0	53.6	37.8	26.8	12.4	43.5	1.0	4.3	
	公演回数11～20	199	17.6	82.4	164	15.9	56.1	45.1	33.5	15.9	36.0	3.7	4.9	
	公演回数21以上	298	19.1	80.9	241	14.1	65.1	42.7	41.9	23.2	36.1	2.5	4.1	
補助金等の活用あり	428	18.2	81.8	350	15.4	61.1	43.1	37.7	22.6	38.6	3.1	5.1		

※国は回答施設数が少ないためn数を非表示

(2) 専門的人材の確保における課題

専門的人材の確保における課題としては、「人材を確保する財源が不足」(58.2%)という回答が最も多く、かなり離れて「専門的人材が身近な地域で見つからない」(26.4%)、「人事異動が頻繁でノウハウが継承できない」(25.2%)、「外部人材を正規雇用できない」(18.9%)などと続く。設置団体別にみると、規模が大きい団体ほど「短期契約のため人材が育成できない」という回答が多くなっている。その他としては「設置団体職員が配置されるためそもそも専門人材が採用できない」「指定管理の期間の問題で採用できない」「雇用枠がない」など。



【表 4-2】 専門的人材の確保における課題

(%)

		n数	専門的人材を探すルートがない	人材を評価するノウハウが不足	人材育成の場が不足	人材を確保する財源が不足	人事異動が頻繁であり、ノウハウが継承できない	外部人材を正規雇用できない	専門的人材が身近な地域で見つからない	短期契約のため人材が育成できない	その他	
国公立施設全体		961	13.0	13.9	16.3	58.2	25.2	18.9	26.4	13.3	6.0	
設置団体別	国	x	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	
	都道府県	78	12.8	19.2	21.8	64.1	15.4	21.8	30.8	21.8	7.7	
	政令指定都市	76	5.3	18.4	30.3	53.9	14.5	19.7	17.1	18.4	7.9	
	市特別区	30万人以上	93	17.2	11.8	20.4	57.0	25.8	14.0	17.2	14.0	10.8
		10万人～30万人未満	211	14.2	16.1	17.1	63.5	21.3	13.7	22.7	14.7	5.2
		10万人未満	328	14.0	11.9	12.8	58.2	24.7	19.8	29.3	12.5	5.8
町村等	173	11.0	12.1	11.0	51.4	39.9	24.9	32.9	6.9	3.5		
最大ホール席数別	1,000席以上	331	16.0	16.9	19.6	61.6	19.6	19.9	33.5	13.3	4.5	
	500席～1,000席未満	433	11.5	12.0	13.9	56.1	28.2	18.5	23.1	13.6	6.7	
	500席未満	197	11.2	13.2	16.2	56.9	27.9	18.3	21.8	12.7	7.1	
文化芸術系主催事業実施	実施有無いずれかに「あり」	753	14.6	15.0	17.1	60.2	25.5	19.7	28.2	14.6	5.6	
	公演回数 1～3	139	15.8	11.5	10.8	50.4	34.5	20.9	28.8	16.5	8.6	
	公演回数 4～10	209	16.7	13.9	16.3	58.9	27.8	25.8	25.4	12.0	5.3	
	公演回数 11～20	164	13.4	15.9	16.5	64.6	20.1	15.2	30.5	12.2	4.9	
	公演回数 21以上	241	12.9	17.4	22.0	63.9	22.0	16.6	28.6	17.4	4.6	
補助金等の活用あり	350	15.4	19.4	20.0	67.1	22.9	19.1	27.7	13.4	5.7		

※国は回答施設数が少ないためn数を非表示

4. 専門的人材の確保

(1) 専門的人材の確保

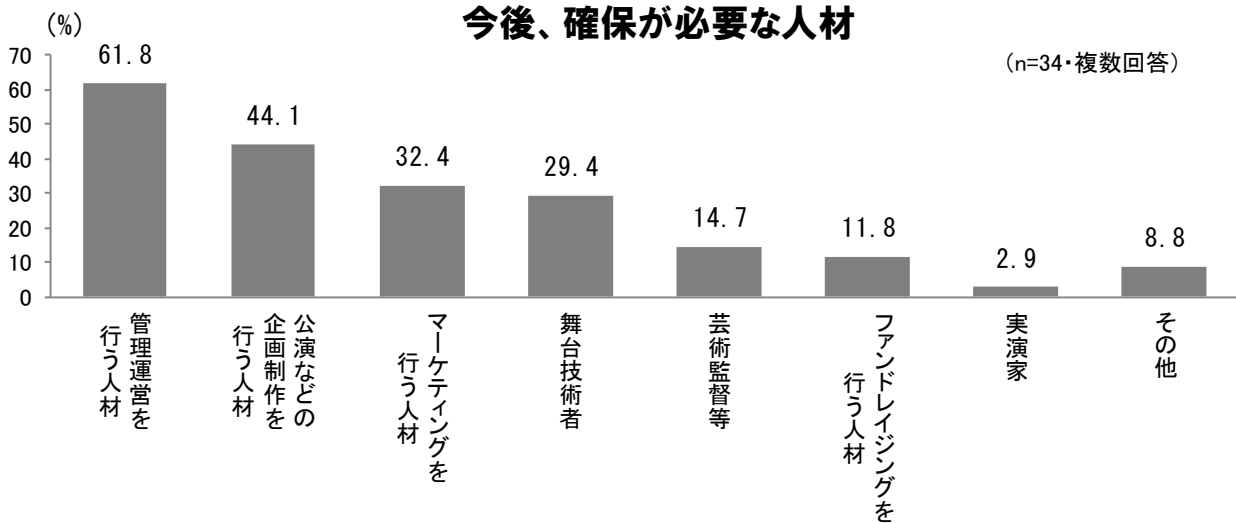
専門的人材の確保については「十分に確保されている」(44.3%)、「確保されていない」(55.7%)となっており、若干ではあるが、確保されていないという館が多い。

今後確保が必要な人材としては「管理運営を行う人材」が61.8%と最も高く、ついで「企画制作」の44.1%、「マーケティング」の32.4%、「舞台技術者」の29.4%と続く。

専門的人材の確保



今後、確保が必要な人材

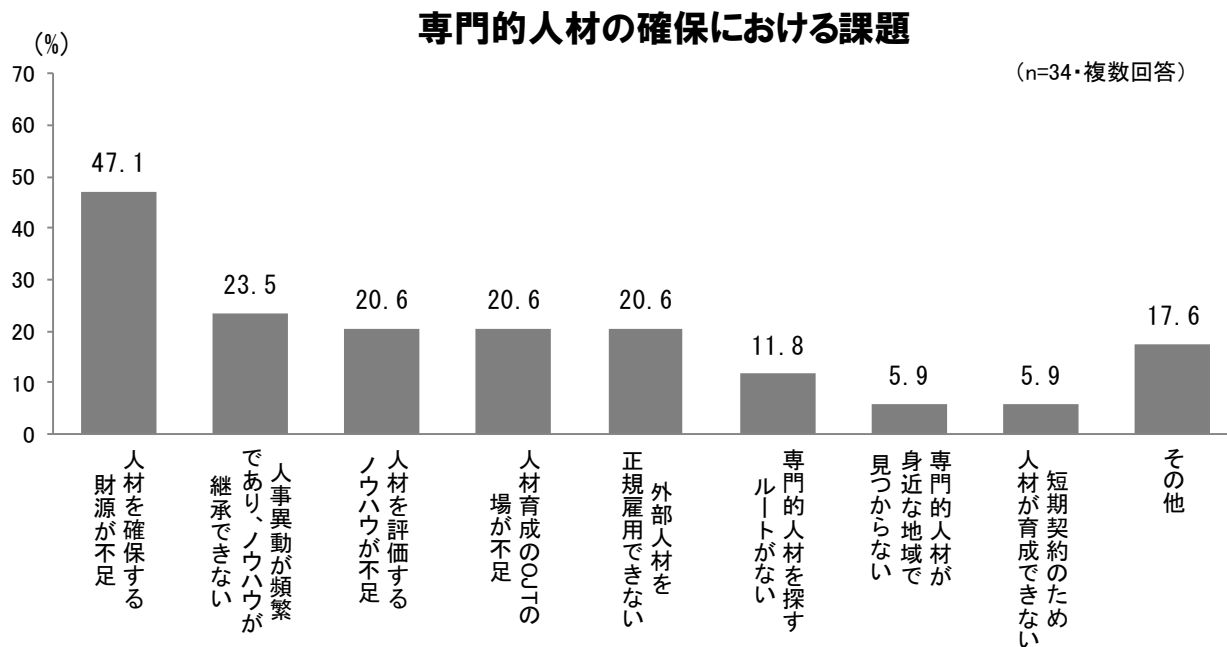


〔表 4-1〕 専門的人材の確保

	n数	現在の確保状況 (%)		今後、確保が必要な人材 (複数回答)								
		十分に確保されている (%)	十分に確保されていない (%)	回答施設数 (件)	芸術監督等 (%)	公演などの企画制作を行う人材 (%)	管理運営を行う人材 (%)	マーケティングを行う人材 (%)	ファンドレイジングを行う人材 (%)	舞台技術者 (%)	実演家 (%)	その他 (%)
私立施設	61	44.3	55.7	34	14.7	44.1	61.8	32.4	11.8	29.4	2.9	8.8

(2) 専門的人材の確保における課題

専門的人材の確保における課題としては「財源不足」が47.1%と最も高く、ついで「人事異動が頻繁でノウハウが継承できない」23.5%、その次に「人材を評価するノウハウが不足」「OJT の場が不足」「外部人材を正規雇用できない」が全て20.6%で並んでいる。



[表 4-2] 専門的人材の確保における課題

(%)

	n数	専門的人材を探すルートがない	人材を評価するノウハウが不足	人材育成のOJTの場が不足	人材を確保する財源が不足	継承できない ノウハウが継承できない	人事異動が頻繁であり、ノウハウが継承できない	外部人材を正規雇用できない	専門的人材が身近な地域で見つからない	短期契約のため人材が育成できない	その他
私立施設	34	11.8	20.6	20.6	47.1	23.5	20.6	5.9	5.9	17.6	

国際観光芸術専門職大学(仮称)

2021年4月開学予定

※設置構想中のため、内容は変更となる場合があります

「国際観光芸術専門職大学(仮称)」の特色

1. 「社会」×「大学」を繋ぐ力

コミュニケーション力・合意形成能力の育成

●演劇手法を用いたコミュニケーション教育や演習形式のアクティブラーニングが中心となる授業により、実践的な「コミュニケーション力」や高度な「合意形成能力」を身につけます。

実践的な課題設定・解決力の育成

●「地域リサーチ&イノベーションセンター」(仮称)を核として、地域をフィールドに学生自らが課題を設定し、課題解決に必要な情報を適切に収集、分析し、イノベーションを創出することで、その課題の解決を図る実践力を身につけます。

グローバル人材の育成

●少人数制の実践的な語学教育に加え、学生全員が体験できる海外留学プログラム、学生寮における留学生との交流促進等を通じて、国籍や文化、価値観の違いに興味・関心を持ち、それらに柔軟に対応できる適応力を身につけた「グローバル人材」を育成します。

実務家教員による実践的な教育

●教員の約半数が社会の現場での経験豊富な実務家教員となります。原則40人以下の少人数授業のもと、ビジネスの場で活用できる実践的な教育を実施することで、実社会で活躍できる人材を育成します。

2. 「文化」×「観光」を繋ぐ人材の育成

文化と観光を結ぶプロデューサー

●観光、文化分野の基本的な理論を学修したうえで、全学生がホテル・旅館、旅行会社、航空会社、劇場・ホール等の多種多様な企業・団体等で**600時間以上**の現場実習を経験します。

現場実習は単なる職場体験ではなく、各業種の専門的な実務を学び、観光ビジネスモデルの作成や文化施設等のアートマネジメント、パフォーミングアーツの創造・実践活動等を通じて**マネジメント力**や**イノベーション力**、**ビジョン形成力**を併せ持った**プロデュース能力**を身につけます。

文化創造

公共文化施設等のアートマネジメントやパフォーミングアーツの創造・実践活動にあたりながら、アートと地域をプロジェクトマネジメントでつなぎ、社会に新たな価値を創造する

観光地経営

観光業や宿泊産業等での現場実習において、課題解決・企画提案等を通じて高度な知識・技能を身につけ、多彩な地域資源の魅力を最大限に引き出した観光ビジネスモデルを創造する

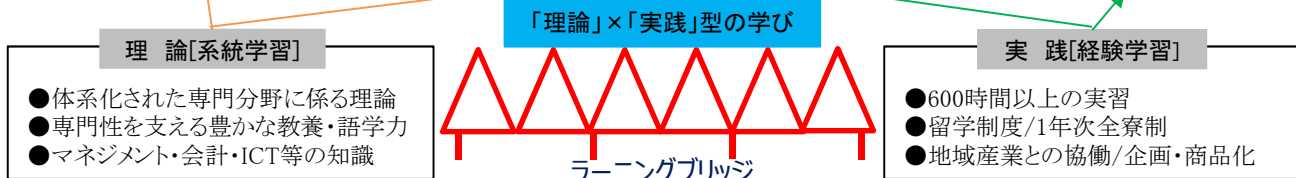
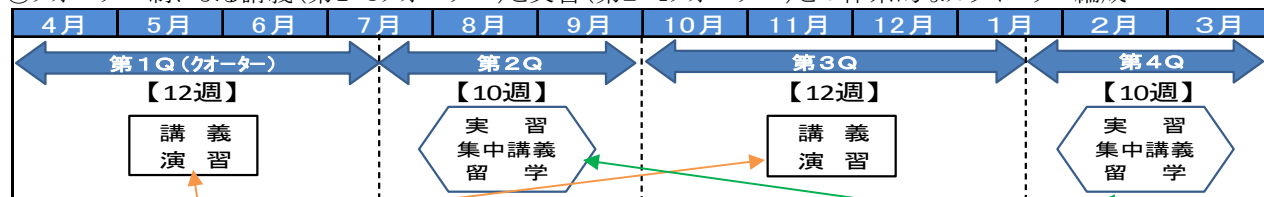
事業創造

既存の文化資源の掘り起こしや新たな文化を創出し、それを多彩な観光資源と結びつけることで、新しい事業を創造する
⇒「文化観光プロデューサー」

※設置構想中のため、記載内容は変更となる場合があります

1 60分授業による実習・演習を中心としたクォーター制(4学期制)の導入

①クォーター制による講義(第1・3クォーター)と実習(第2・4クォーター)との体系的なカリキュラム編成



②主体的な学びを深める講義+演習の60分2コマ連続授業

2 新たな価値創造を実現する学修内容

- 1年次=問題を発見する「気づく」力 2年次=課題を絞り、解決に向けたアイデアを創造する「考える」力
- 3年次=解決策を絞り込む「創る」力 4年次=実現性のあるプロジェクトに仕立てていく「生かす」力

3 多角的に思考する力と実践的課題解決力を培う教育課程

- ①「知の巨人に触れる科目」やコミュニケーション演習など、特色あるリベラルアーツ関連科目
- ②事業創造に繋がるICT教育 ③農業・食・スポーツをはじめ「たじま学」等応用による価値創造のための関連科目

4 グローバルリテラシーの修得

- ①専門職業人材として活躍できる実践的な語学教育 ②学生全員が体験できる海外留学プログラム
- ③学生寮における留学生との交流促進

5 起業家精神の育成

- ①地域リサーチ&イノベーションセンター(仮称)を活用し、起業家精神を育成する取組を積極的に実施
- ②地域のインキュベーション施設等と連携し、起業意欲のある学生の在学中及び卒業後の起業を支援

【地域リサーチ&イノベーションセンター(仮称)】

地域課題の解決を実現するプラットフォームの役割を担う拠点施設

- 『コンサルティング機能』を有するハブ施設として、劇場等における充実した文化芸術活動を支援
- 『シンクタンク機能』を発揮し、自治体等の文化政策に関する総合的な支援を展開
- 『インキュベーション機能』として、大学版DMOによる企画開発など、事業創造活動を通じて地域の活性化に貢献

6 1年次の原則全寮制

生活交流を通じた自律性・社会性・コミュニケーション能力を養い、反転授業における事前学習の場として学生寮を設置

7 充実した学修サポート体制

- ①1年次に少人数制の初年次ゼミを開設し担当教官がきめ細かく指導
- ②実習支援センター(仮称)による円滑な実習支援
- ③キャリアサポートセンター(仮称)による適切なキャリア開発支援

8 社会人の学び直し

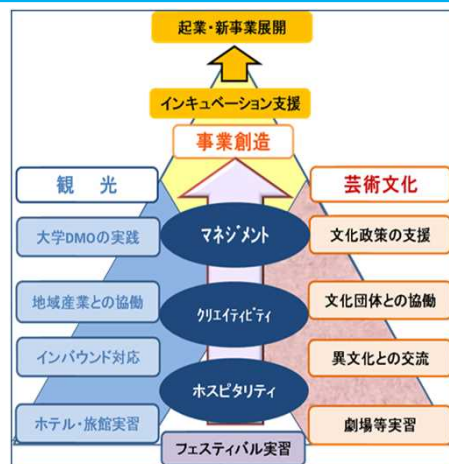
学び直しや職場復帰が可能となる学習機会を提供し、社会人等を対象とした科目等履修生制度の設定

教
育
内
容
・
方
法

【実習を中心とした実践的な教育課程】

- 1 地域産業と連携した充実した実習プログラムを展開
- 2 行政、住民、学生が一体となったフェスティバル実習を導入
- 3 アクティブラーニングによる実践的かつ体系的な実習の実施
⇒在学中に理論と実践をバランスよく学び、卒業後には即戦力として、現場の最前線に立つリーダーとしての活躍が期待できます。

さらに、専攻する職業に関連する他分野も学び、応用力を身に付けることにより、前例にとらわれないイノベーションを起こす人材として活躍することが期待できます。



実
践
的
な
教
育
課
程

国際観光芸術専門職大学（仮称）設置に関する
アンケート調査報告書

【事業所対象】

令和元年8月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要>	1
<アンケート集計結果>	3
<アンケート調査票>	21

＜アンケート調査概要＞

1. アンケート調査の目的

兵庫県では、令和3年4月開学に向けて国際観光芸術専門職大学（仮称）の設置計画を進めている。新専門職大学卒業生の採用意向など人材需要の見通しについて把握するため、事業所等を対象にアンケート調査を実施した。

2. 実施アンケート

「国際観光芸術専門職大学（仮称）設置に関するアンケート調査」

3. 調査対象

47 都道府県 2,000 事業所を選定。

4. 調査実施時期

令和元年 5月～7月に調査を実施。

5. 調査方法

兵庫県が郵送によりアンケート調査票を配付し、調査票の回収及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

6. 回収状況

有効回答票 505 票 回収率 25.3%（有効回答票 505 票 ÷ 依頼票数 2,000 票 × 100）

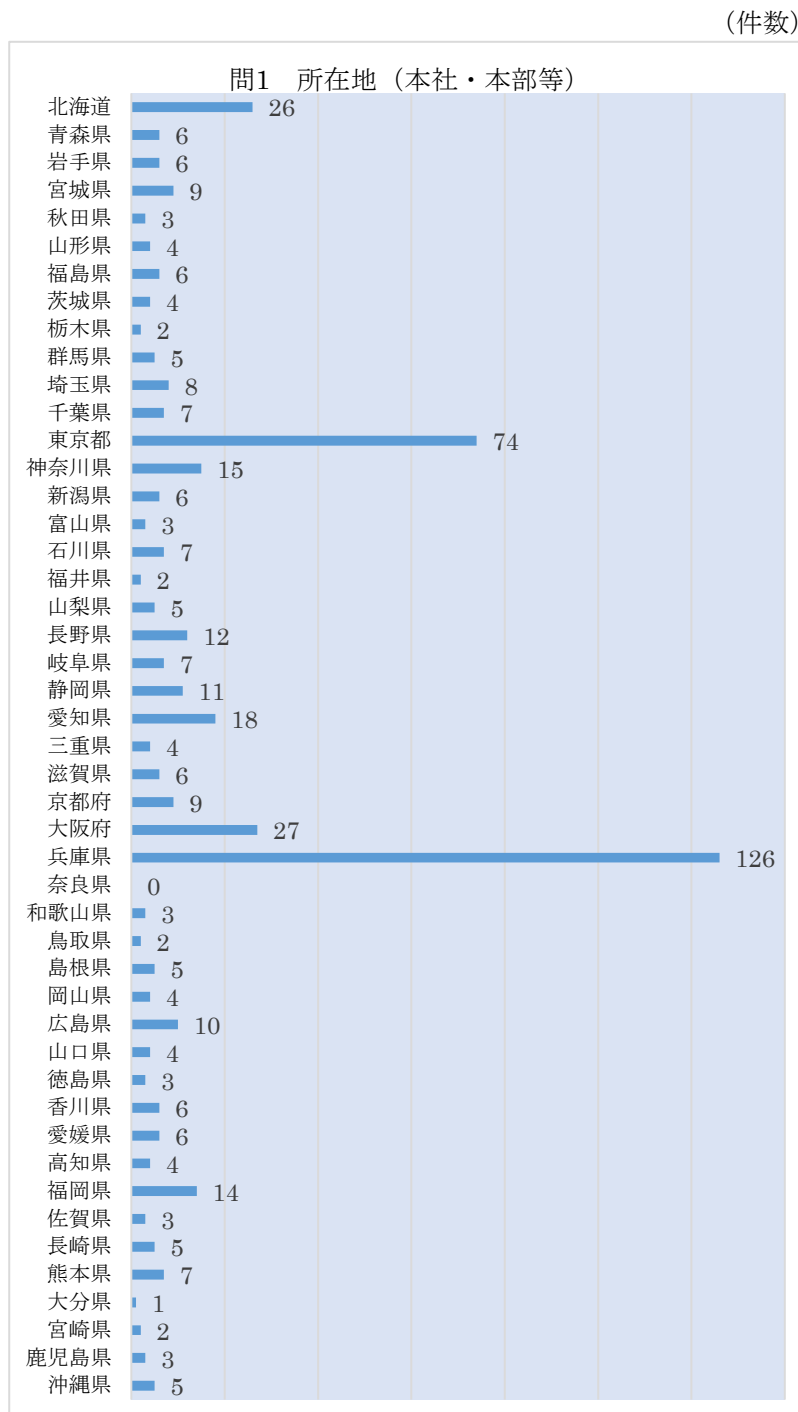
<アンケート集計結果>

[有効回答票：505 票]

※「%」はいずれも小数点第二位を四捨五入

問1 貴社・貴団体の所在地（本社、本部等）をご記入ください。

「兵庫県」126 件(25.0%)が最も多く、次いで「東京都」74 件(14.7%)、「大阪府」27 件(5.3%)、「北海道」26 件(5.1%)、「愛知県」18 件(3.6%)の順に続いている。



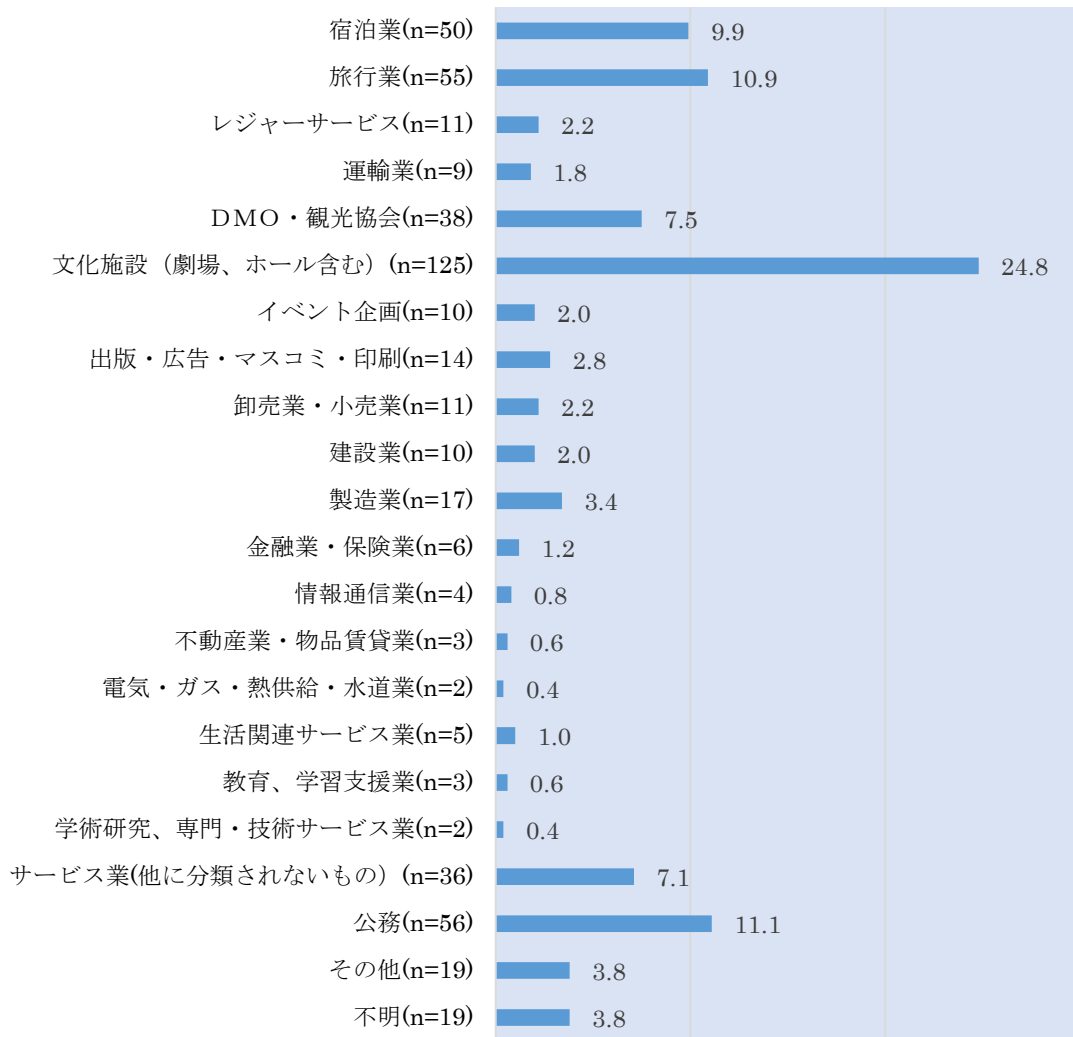
問2 貴社・貴団体の業種について、該当する番号1つに○をつけてください。

「文化施設（劇場、ホール含む）」125件(24.8%)が最も多く、次いで「公務」56件(11.1%)、「旅行業」55件(10.9%)、「宿泊業」50件(9.9%)、「DMO・観光協会」38件(7.5%)、「サービス業(他に分類されないもの)」36件(7.1%)となっている。

問2 業種

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	宿泊業	50	9.9
2	旅行業	55	10.9
3	レジャーサービス	11	2.2
4	運輸業	9	1.8
5	DMO・観光協会	38	7.5
6	文化施設（劇場、ホール含む）	125	24.8
7	イベント企画	10	2.0
8	出版・広告・マスコミ・印刷	14	2.8
9	卸売業・小売業	11	2.2
10	建設業	10	2.0
11	製造業	17	3.4
12	金融業・保険業	6	1.2
13	情報通信業	4	0.8
14	不動産業・物品賃貸業	3	0.6
15	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.4
16	生活関連サービス業	5	1.0
17	教育、学習支援業	3	0.6
18	学術研究、専門・技術サービス業	2	0.4
19	サービス業(他に分類されないもの)	36	7.1
20	公務	56	11.1
21	その他	19	3.8
	不明	19	3.8
	合計	505	100

問2 業種

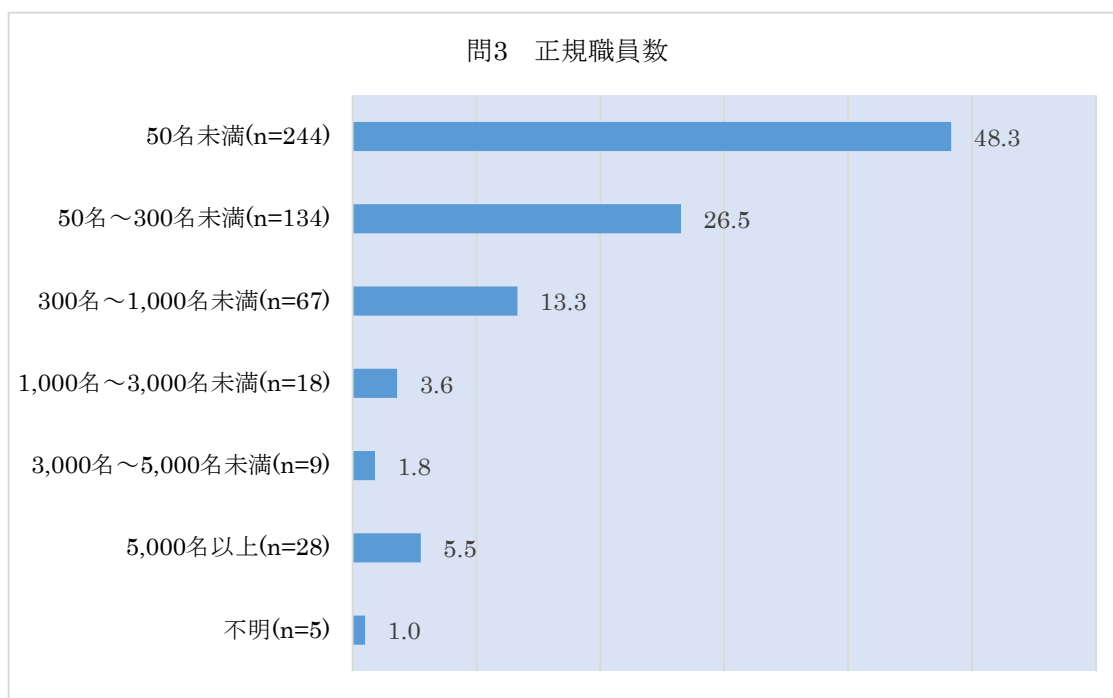


問3 貴社・貴団体の正規社員（職員）について、該当する番号1つに○をつけてください。

「50名未満」244件(48.3%)が最も多く、次いで「50名～300名未満」134件(26.5%)、「300名～1,000名未満」67件(13.3%の順に続いている。

問3 正規職員数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	50名未満	244	48.3
2	50名～300名未満	134	26.5
3	300名～1,000名未満	67	13.3
4	1,000名～3,000名未満	18	3.6
5	3,000名～5,000名未満	9	1.8
6	5,000名以上	28	5.5
	不明	5	1.0
	合計	505	100

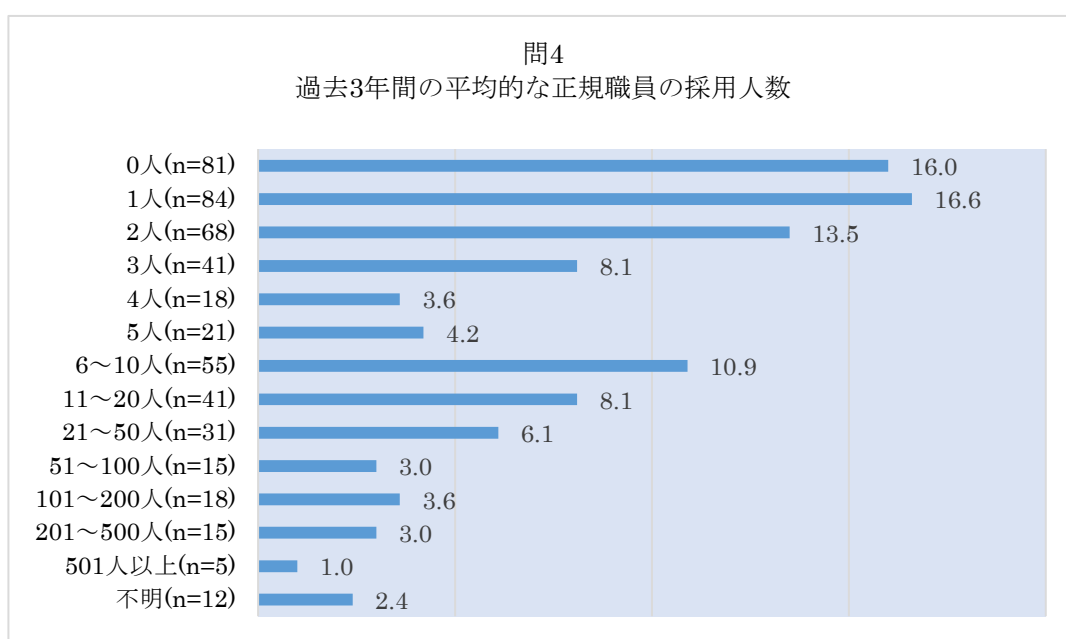


問4 貴社・貴団体の過去3年間（2018年度、2017年度、2016年度）の平均的な正規社員（職員）の採用人数をご記入ください。

「1人」84件(16.6%)が最も多く、次いで「0人」81件(16.0%)、「2人」68件(13.5%)、「6～10人名」55件(10.9%)となっている。

問4 過去3年間の平均的な正規職員の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	0人	81	16.0
2	1人	84	16.6
3	2人	68	13.5
4	3人	41	8.1
5	4人	18	3.6
6	5人	21	4.2
7	6～10人	55	10.9
8	11～20人	41	8.1
9	21～50人	31	6.1
10	51～100人	15	3.0
11	101～200人	18	3.6
12	201～500人	15	3.0
13	501人以上	5	1.0
	不明	12	2.4
	合計	505	100



問5 貴社・貴団体では、大学等の新卒者の採用選考にあたり、どのような資質、能力、知識を重視されますか。該当する番号に3つまで○をつけてください。

(複数回答)

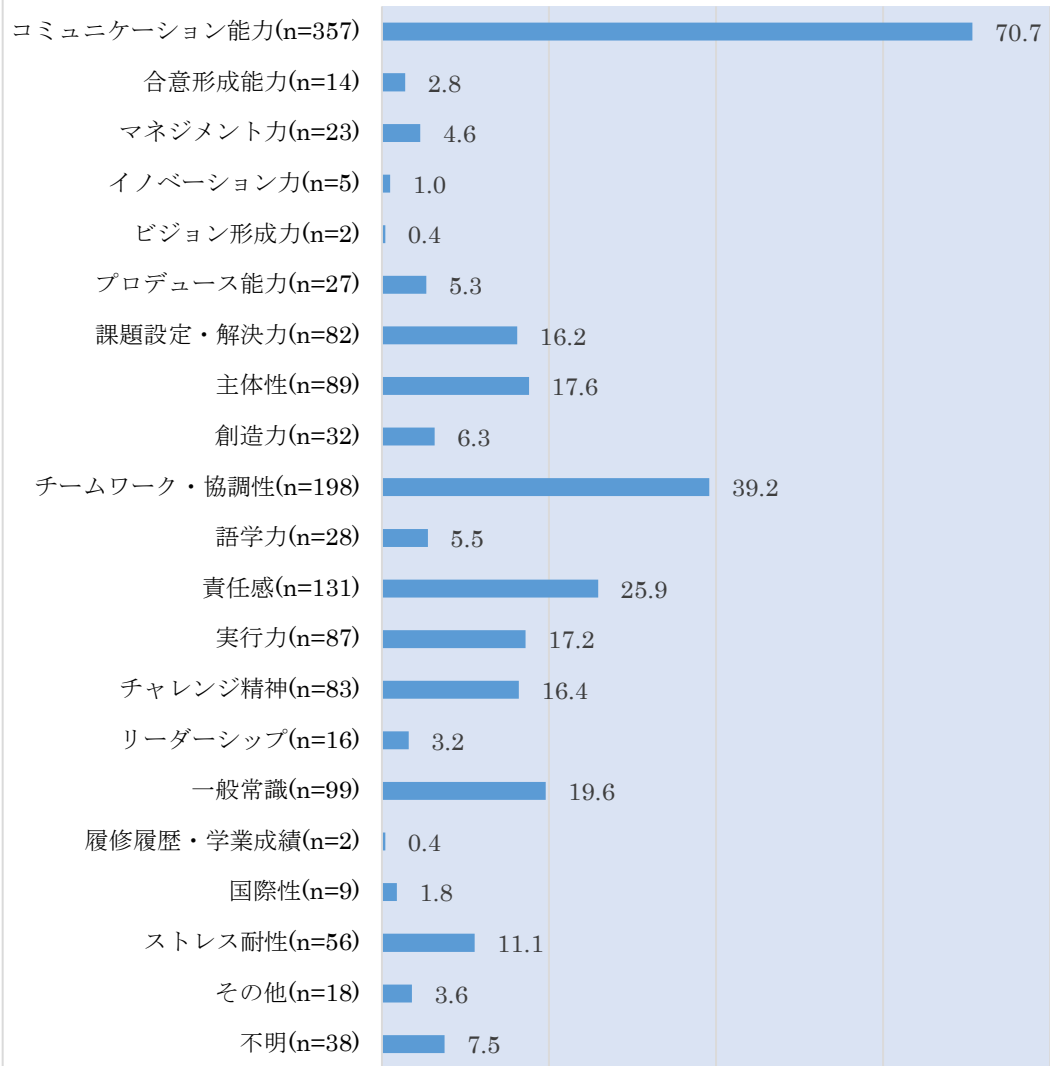
「コミュニケーション能力」357件(70.7%)が最も多く、次いで「チームワーク・協調性」198件(39.2%)、「責任感」131件(25.9%)、「一般常識」99件(19.6%)となっている。

問5 採用選考で重視する能力

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	コミュニケーション能力	357	70.7
2	合意形成能力	14	2.8
3	マネジメント力	23	4.6
4	イノベーション力	5	1.0
5	ビジョン形成力	2	0.4
6	プロデュース能力	27	5.3
7	課題設定・解決力	82	16.2
8	主体性	89	17.6
9	創造力	32	6.3
10	チームワーク・協調性	198	39.2
11	語学力	28	5.5
12	責任感	131	25.9
13	実行力	87	17.2
14	チャレンジ精神	83	16.4
15	リーダーシップ	16	3.2
16	一般常識	99	19.6
17	履修履歴・学業成績	2	0.4
18	国際性	9	1.8
19	ストレス耐性	56	11.1
20	その他	18	3.6
	不明	38	7.5
	合計	505	100

(複数回答のため合計100%にならない)

問5 採用選考で重視する能力



問6 「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)では、以下のような特色のある人材を育成しようとしています。以下のそれぞれの特色について5段階の中から該当する番号1つに○をつけてください。

国際観光芸術専門職大学(仮称)の各特色について、回答者の関心度(「非常に関心がある」「関心がある」の合計)は下記の通りとなっている。

① 「コミュニケーション力・合意形成能力の育成」

「非常に関心がある」77人(15.2%)、「関心がある」275人(54.5%)
→合計352人(69.7%)

② 「実践的な課題設定・解決力の育成」

「非常に関心がある」75人(14.9%)、「関心がある」304人(60.2%)
→合計379人(75.1%)

③ 「グローバル人材の育成」

「非常に関心がある」66人(13.1%)、「関心がある」268人(53.1%)
→合計334人(66.2%)

④ 「実務家教員による実践的な教育」

「非常に関心がある」66人(13.1%)、「関心がある」272人(53.9%)
→合計338人(67.0%)

⑤ 「観光創造エキスパートの育成」

「非常に関心がある」85人(16.8%)、「関心がある」238人(47.1%)
→合計323人(63.9%)

⑥ 「アートマネージャーの育成」

「非常に関心がある」78人(15.4%)、「関心がある」190人(37.6%)
→合計268人(53.0%)

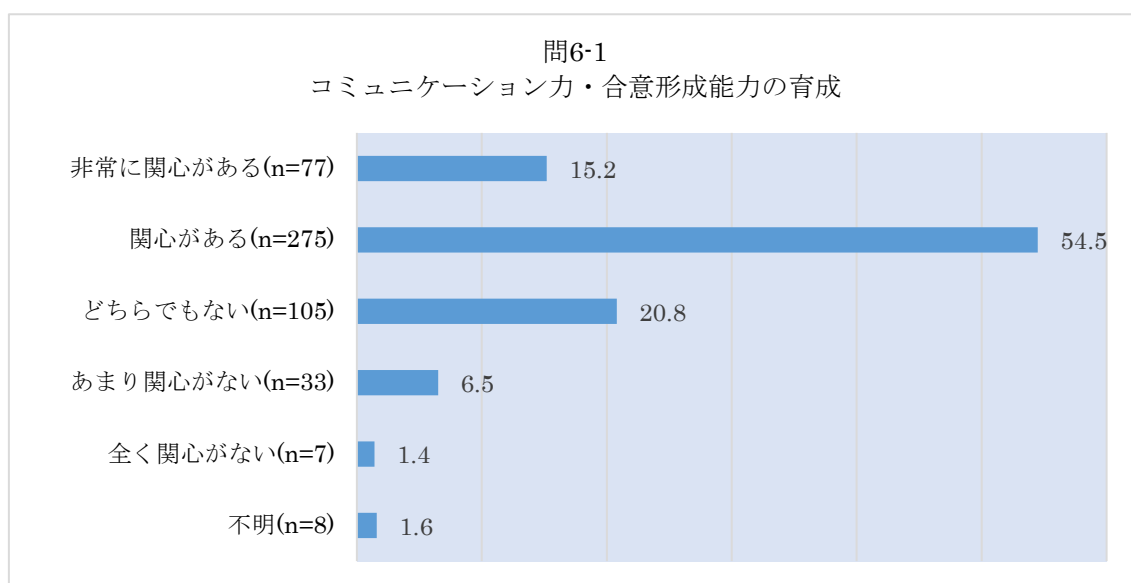
⑦ 「文化と観光を結ぶプロデューサーの育成」

「非常に関心がある」81人(16.0%)、「関心がある」267人(52.9%)
→合計348人(68.9%)

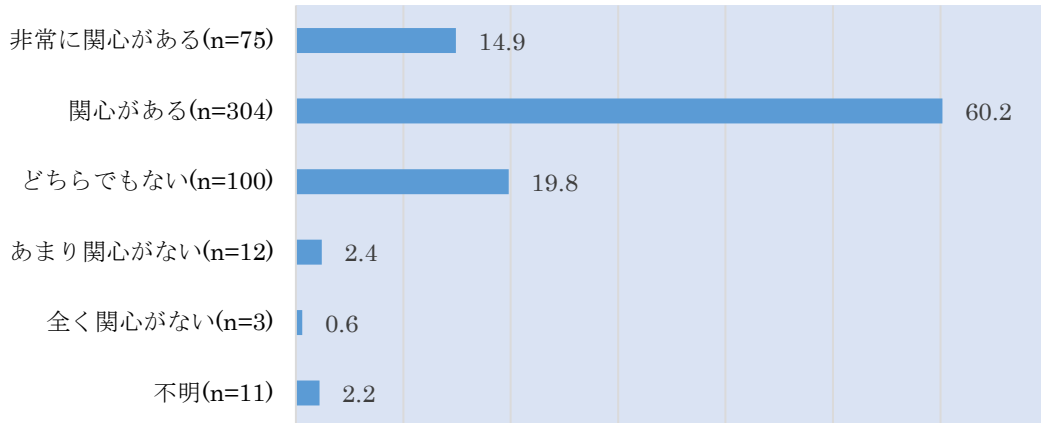
各項目について、5～7割程度の回答者が関心を示している。特に「実践的な課題設定・解決力の育成」への関心度が高い(75.1%)。

問6 特色に対する関心

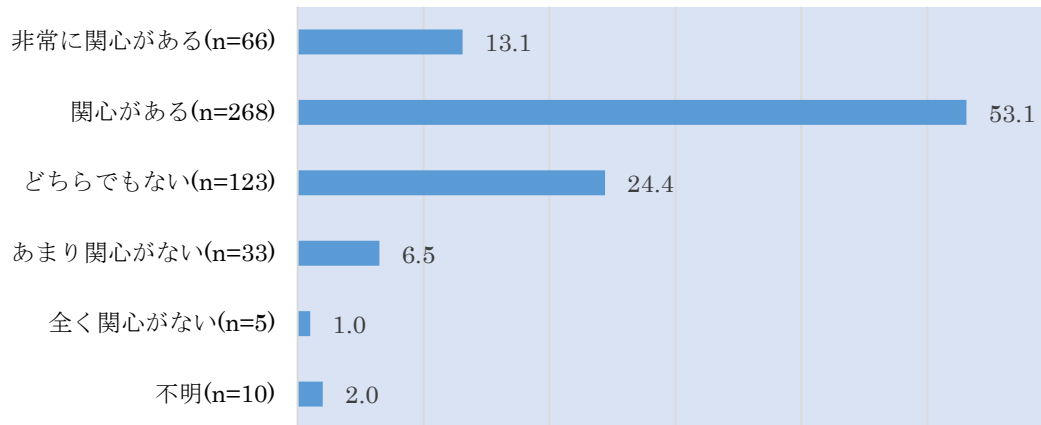
カテゴリ	上段：件数、下段：(全体)%						
	非常に 関心がある	関心がある	どちらで もない	あまり関 心がない	全く関心 がない	不明	合計
コミュニケーション力・合意形成能力の育成	77	275	105	33	7	8	505
	15.2	54.5	20.8	6.5	1.4	1.6	100
実践的な課題設定・解決力の育成	75	304	100	12	3	11	505
	14.9	60.2	19.8	2.4	0.6	2.2	100
グローバル人材の育成	66	268	123	33	5	10	505
	13.1	53.1	24.4	6.5	1.0	2.0	100
実務家教員による実践的な教育	66	272	124	30	2	11	505
	13.1	53.9	24.6	5.9	0.4	2.2	100
観光創造エキスパートの育成	85	238	121	45	7	9	505
	16.8	47.1	24.0	8.9	1.4	1.8	100
アートマネージャーの育成	78	190	156	58	12	11	505
	15.4	37.6	30.9	11.5	2.4	2.2	100
文化と観光を結ぶプロデューサーの育成	81	267	109	31	6	11	505
	16.0	52.9	21.6	6.1	1.2	2.2	100



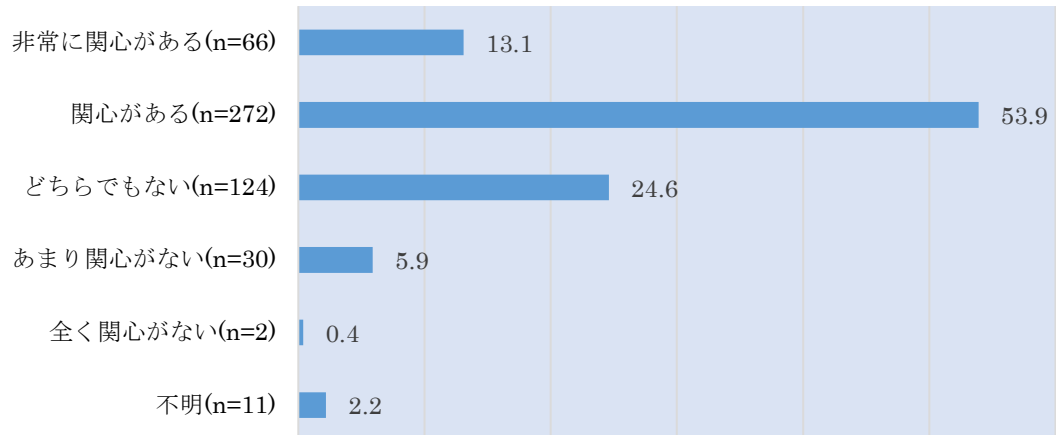
問6-2
実践的な課題設定・解決力の育成



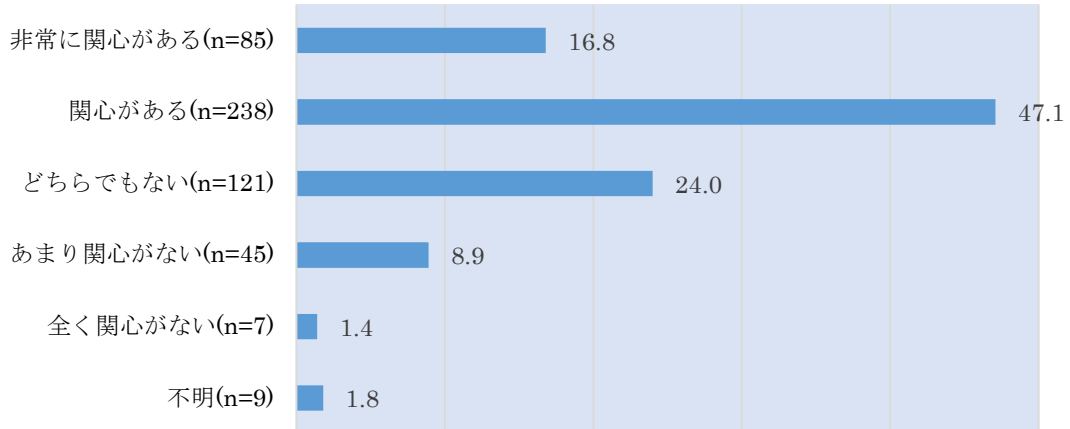
問6-3
グローバル人材の育成



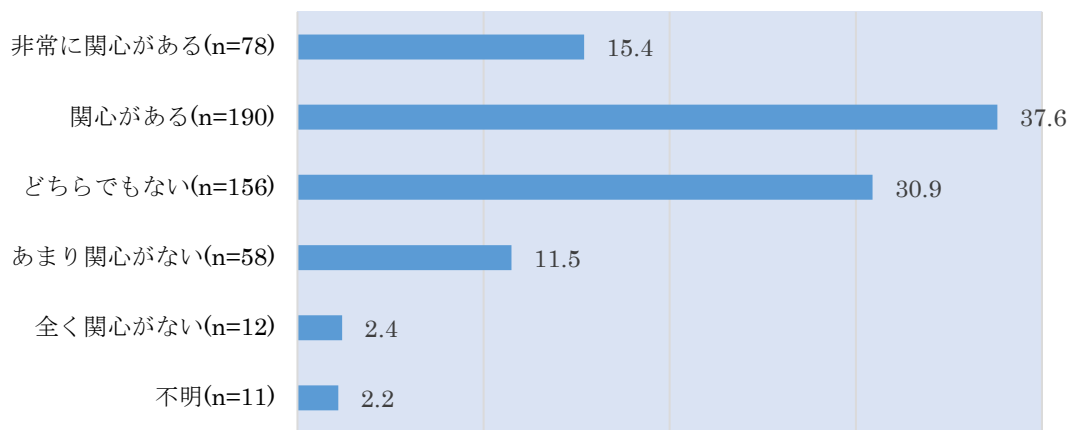
問6-4
実務家教員による実践的な教育



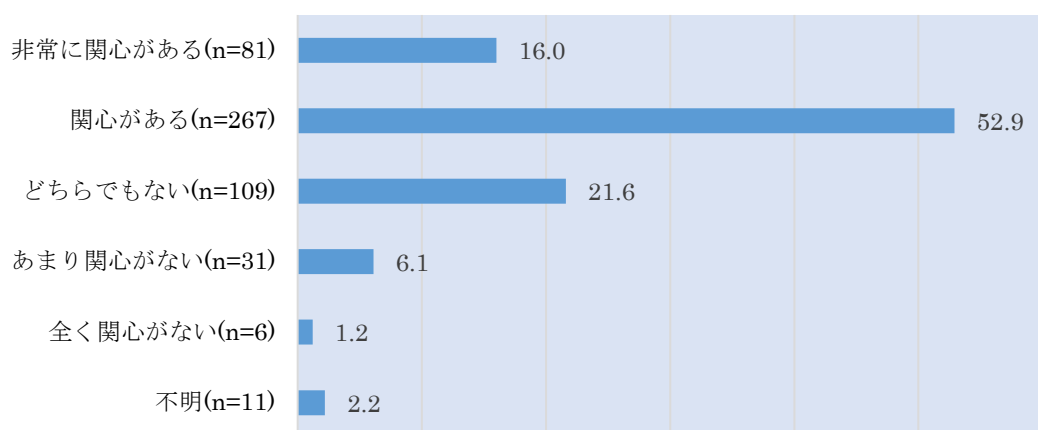
問6-5
観光創造エキスパートの育成



問6-6
アートマネージャーの育成



問6-7
文化と観光を結ぶプロデューサーの育成



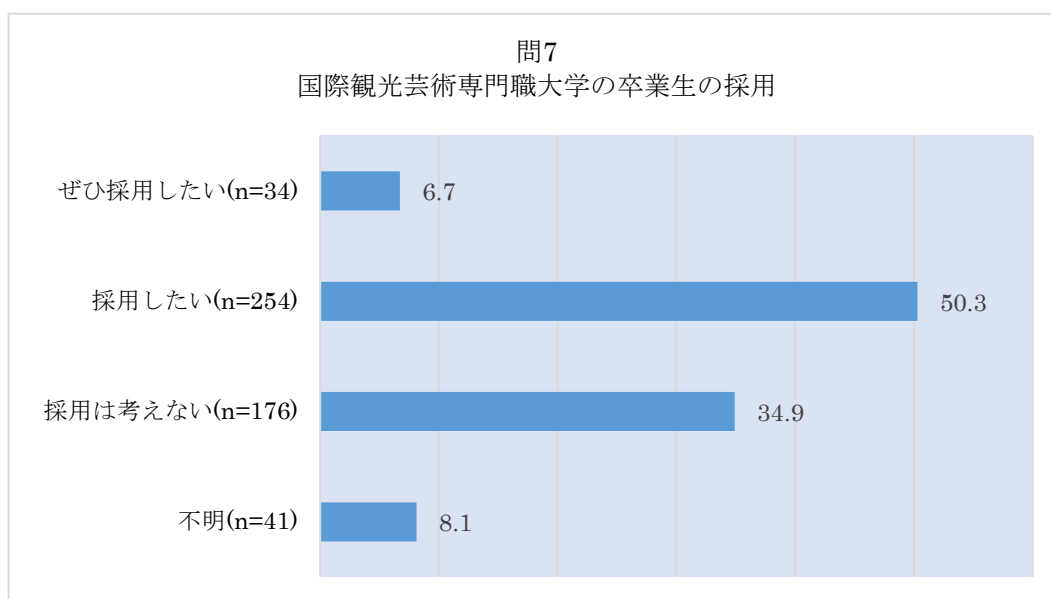
問7 貴社・貴団体では、「国際観光芸術専門職大学文化・観光創造学部文化・観光創造学科」（仮称）の卒業生の採用について、どのように思われますか。該当する番号1つに○をつけてください。

「ぜひ採用したい」34件(6.7%)、「採用したい」254件(50.3%)「採用は考えない」176件(34.9%)となっている。

「ぜひ採用したい」「採用したい」を合計すると、288事業所(57.0%)（入学定員80名の3.6倍）が国際観光芸術専門職大学（仮称）卒業生の採用に前向きな姿勢を示しているといえる。

問7 国際観光芸術専門職大学の卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	ぜひ採用したい	34	6.7
2	採用したい	254	50.3
3	採用は考えない	176	34.9
	不明	41	8.1
	合計	505	100

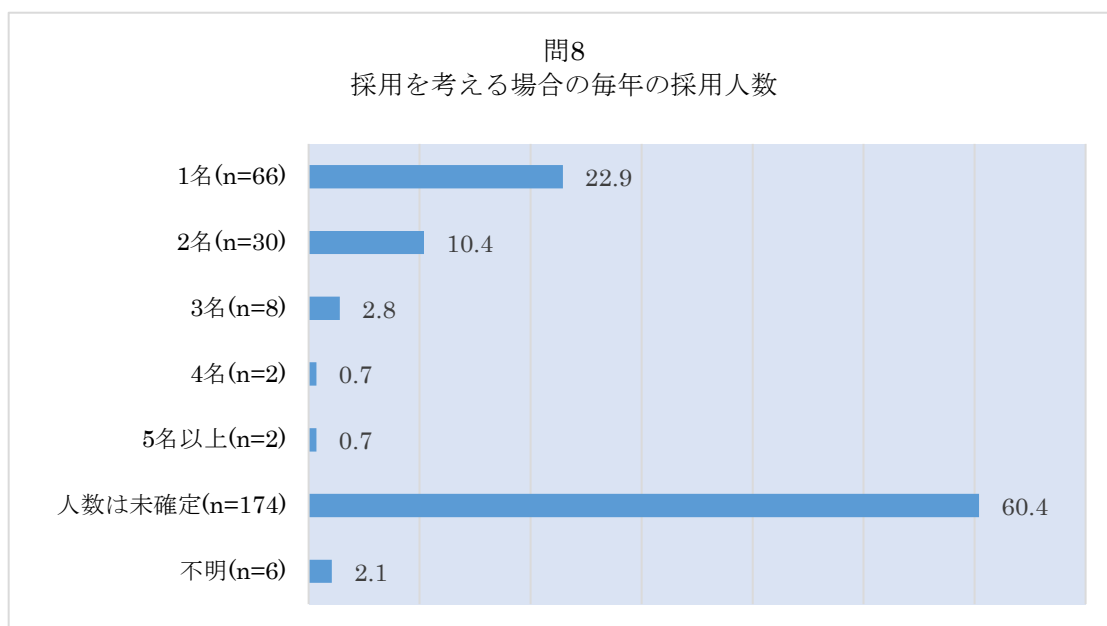


問8 問7で「1. ぜひ採用したい」「2. 採用したい」と選ばれた方におたずねします。採用を考える場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。現時点で該当する番号1つに○をつけてください。

「1名」66件(22.9%)、「2名」30件(10.4%)、「3名」8件(2.8%)、「4名」「5名以上」ともに2件(0.7%)、「人数は未確定」174件(60.4%)となっている。

問8 採用を考える場合の毎年の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1名	66	22.9
2	2名	30	10.4
3	3名	8	2.8
4	4名	2	0.7
5	5名以上	2	0.7
6	人数は未確定	174	60.4
	不明	6	2.1
	合計	288	100



問9 「国際観光芸術専門職大学文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称) への
ご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

問9に対する回答は以下の通りとなっている。

ご意見・ご要望
大いに期待しています。
グローバルな人材が必要になってきている時代なので、時代に合った大学ではないかと思います。期待しております。
接客は人を喜ばせることを考えて準備、連携、反省が必要であるが、学問を通じて業界を盛り上げ、地域を盛り上げて欲しいです。
即戦力アップとして良いと考えます。
雇入れ人数が少ない為、学部への強いこだわりはない。人間性をあくまでも重視したい。
地域に密着できる人材を育てて欲しいです。
今どきの方は、とりあえず一年という頑張り方なので、旅行業のように働き方改革が難しい会社にはなかなか人が根付かず困っています。良い意味淡々として、悪い意味根性が無い。
就職後は、予算や収益を想定しながらビジネスをすることになります。夢や理想だけが大きくなりがちで、社会に出ると、なかなか難しい面もあるので、学生のうちにそういった資金の面なども考えながら授業など取り組めていたらと思います。
文化と観光を結ぶプロデューサーの育成、演劇手法を用いたコミュニケーションに関心があり、成果をご期待申し上げます。
陰ながら開学されることを応援いたします。
コンセプトはとても良いと思えます。何かご協力出来る事がございましたらお知らせ下さい。
どんなことを学ぶ学校なのか、今ひとつピンときません。
期待しています。
日本における観光産業とそれに付随するサービス業について、現実的な利益状況やその構造上の問題点(業法など)の点からも是非イノベーションを考える学科であって欲しいです。
勉強もさることながら、一般常識のある人材育成に「力」を入れて欲しい。特に平成生まれの人達は親から教育されている人々が少なく、「気遣い、気を付ける、気にする」事がまず出来ない。
「演劇手法」という手法がどのようなものなのか、専門外でピンときませんでした。具体的な手法をPRされるとよいと思いました。特色があつて素晴らしいと思います。
ご多幸をお祈りします。早期の実現を望みます。
当社は親会社による一括採用からの出向社員が新規採用の大部分を占めております。
私共は地域の観光協会のため、退職者の補充の採用のみであり、定期的な採用を行っておらず、期待に応えられず申し訳ありません。
逆に現職員を入学させたいと思うのですが、大学院(1~2年、修士)は無いのですか?
地元の活性化のためにも大学開学は大賛成です。
ネーミングを読みやすく、覚えやすい大学名にして欲しいです。地元交流の“場”になって欲しいです。
優秀な人材の育成を期待しています。
当財団の事業係(イベントの企画・運営)が該当すると思われる。ただ、職員全員が嘱託職員で、女性であること。月額報酬が21~23万円程度であること。欠員が生じれば募集し雇用していること。
専門性を生かしたリクルートにどの程度有利か、卒業後のフォローにも注力すべき。
地域の活性化や文化の伝承を考える時、観光という外から人を呼べる分野との融合は非常に有効であると思えます。国内の需要が縮小していく日本で、国外の人々に関心を持っていただくための働きかけは

ご意見・ご要望
重要だと感じます。
芸術文化に関する理論やマネジメント、会計、ICT 等の技術・知識を学ぶことも大切ですが、多くの舞台芸術や地域に根差した文化に触れ、その素晴らしさを体感することで得られるもの（感性を磨くこと）も、芸術文化を提供する側には重要です。学生の皆さんが、1 回でも多くそのような機会に恵まれることを期待します。
少人数の会社の為、通常は採用自体を行っていない。退職等により空きが出た時のみ補充している状態の為、問 7. 問 8 は記入を省略させていただきました。
大分県立芸術文化短期大学の卒業生・在学生在が、インターンシップ、施設イベントのボランティアに来てくれています。
文化・観光のスペシャリスト養成のための学びの場の設定は、今後の日本の地域活性化のため必要と考えます。業界活性化に繋がる人材の育成をよろしく願います。
現在指定管理制度の為、採用は難しい状況です。
採用については不定期であり、特定の学校・部門は不問。幅広い人材を求めていることから、上記の設問についてはお答えすることができません。
問 7. 「貴大学の新卒者ということ」を理由に採用という事は考えないという意味です。
各地域により課題は様々の為、幅広く学んでいてもらいたいです。
現場の現実と乖離した内容にならないことをお祈り致します。
文化・芸術についてはこれからますます重要になってくると思っています。経済指標に表れない幸福度が求められる時代。特に地方においては尚更だと思っています。ご検討をお祈りします。
素晴らしい構想だと感じました。当事業団は予算の関係上採用は考えていませんが、一般企業であれば是非採用したいと考える会社がたくさんあるのではないかと想像します。
大学設置により新たな職域の構築及び大学建設等による地元地域の活性化等が期待されると思います。ご苦労様です。
アーティストと観光資源をどう活かすか、より輝かせるか。実践できる人材が増えると良いと思います。質が高くなり、人々の心が豊かになってゆくとと思います。
学歴、学科にこだわりなく採用しているので、特別な知識が必須という感覚は無いが、コミュニケーション力、課題設定からの解決力の育成を重視している点は大いに期待できると考えます。
貴大学を卒業後、実社会で経験を積んだ方には関心を持ちます。美術館のような小さな所帯ですと、即戦力を求めます。
特化はリスクもあると思いますが、多くの「何を学びたわけでもない」学生へ、「学びたい」ことを提供するところが増えることを期待します。
中途半端な表現者の創出で終わらず、表現者を支える裏方のスタッフについても学ぶ場と実技の提供をお願いします。
文化振興の人材育成は、公的機関ではそぐわないと考えます。(民間に任せたい方がよい)
文化芸術基本法が制定され、社会包摂の実践のためにアートマネジメントの考え方はこれから一層重要となり、人材のニーズも高まると思います。
当社では学部学科に特化した採用は行っておりません。そのためマッチ人材に選考に進んでいただければ採用したいと思いますが、貴校に限定してということではございませんのでご理解いただければと存じます。
なぜ兵庫で芸術系の大学を設置するのか。芸術に力を入れているのか。
採用は優秀か否かではなく、マッチングであります。海外的な長期インターンシップが良いのでは？公共やアートの思考が興行と合わない場合があります。アートや文化で利益を得ることについてしっかり教えていただきたいです。関西発というのが素晴らしいです。期待いたします。
「文化」「芸術」「観光」に「マーケット」と「福祉」を加えるべきだと考えます。唯一無二の存在であることを目指しましょう。
表現者としての技術技法より最低限のプレゼンスキルは身につけて卒業して欲しい(イラストレータ

ご意見・ご要望
ー・フォトショップ・パワーポイント) は必須で使えるようになっていて欲しい。
現時点では卒業生を即採用とのイメージは湧かないが、優秀な人材であればとても関心がある。当社は地域に密着した情報を発信する業種なので、町おこしのような働きかけを行政に提案し、共に町の発展を目指していくことを目指す意識が営業力に直結すれば心強い戦力になりうると思う。
大学（学歴）や専攻で採用の可否を決めておりません。北海道に興味のある方、個人的な魅力に溢れる方を求めています。
地元や地元企業に恩恵のない学校に地元資金が投入される事が情けない。ニーズが無い。特定の分野や人にとっての仕事（収入）となるだけで、学生の将来の為の目線が無い。
問8. 1名だが毎年必ず採用するという事にはならない。状況を見て判断。「専門職」という名前は無い方がイメージが良い。格式が上がると思う。
弊社代表が兵庫県但馬出身であり、何かと応援できれば。地域の活性化にも期待する。
問7への補足説明ですが、現時点で社業と観光の関連性が低い為、コミュニケーション力等を磨かれた点は魅力的に思えますが、未知数の面もあり、正確な回答を致しかねます。
兵庫県立大学に国際観光芸術学部を設置したらどうですか。費用の削減になります。
起業家精神あふれるイノベーション人材を育成し、社会に送り出してほしい。
但馬に若い学生が集うことはとても良いことだと思います。この大学の運営が上手くいくように協力したいと思います。
社会人経験3年以上ある学生さんなら前向きに採用を考えたい。弊会会員は一流企業の方々を相手にするため、一定水準以上の社会人としての基本を身につけている必要があるため。
実践も大事ですが大学だからこそ集中的に学べる部分を頑張ってもらいたいです。
貴校の学生様を採りたい、採りたくないではなく、沢山の様々な経験をされた学生様と働きたいと考えております。リーフレットの内容は少し分かりづらかったです。
観光・芸術が主体ではあるが、様々な職種に対応できる人材の育成を望みます。
どこを卒業したかには着目していません。
貴大学にて学んだ学生は行政において（特に観光・文化分野）知識・能力を活かす場があると思う。

<アンケート調査票>

国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関するアンケート

兵庫県では、2021年(令和3年)4月に、新たに県立の4年制大学「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)を設置することを構想しています。

このアンケートは、貴社・貴団体の人材採用意向、開設予定の「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)へのご意見等についてお聞きし、設置計画の基礎資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、目的以外に使用することはありません。つきましては、率直なご意見をお聞かせいただきますよう、アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。

◆大学名 : 国際観光芸術専門職大学(仮称)

◆学部学科名 : 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科(仮称)

◆設置時期 : 2021年(令和3年)4月予定

※第1期生は2025年(令和7年)3月に卒業する予定です。

◆場所 : 兵庫県豊岡市山王町17番10(JR豊岡駅から600m)

「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)の内容等につきましては、同封のリーフレットをご覧ください。

※アンケート調査票やリーフレットに記載されている内容は全て予定であり、変更する場合があります。

【貴社・貴団体についてお伺いたします】

問1 貴社・貴団体の所在地(本社、本部等)をご記入ください。

所在地

都・道・府・県

問2 貴社・貴団体の業種について、該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------------|------------------|---------------------|--------------|
| 1. 宿泊業 | 7. イベント企画 | 13. 情報通信業 | 19. サービス業 |
| 2. 旅行業 | 8. 出版・広告・マスコミ・印刷 | 14. 不動産業・物品賃貸業 | (他に分類されないもの) |
| 3. レジャーサービス | 9. 卸売業・小売業 | 15. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 20. 公務 |
| 4. 運輸業 | 10. 建設業 | 16. 生活関連サービス業、娯楽業 | 21. その他 |
| 5. DMO・観光協会 | 11. 製造業 | 17. 教育、学習支援業 | () |
| 6. 文化施設(劇場、ホール含む) | 12. 金融業・保険業 | 18. 学術研究、専門・技術サービス業 | |

問3 貴社・貴団体の正規社員について、該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 300名～1,000名未満 | 5. 3,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～300名未満 | 4. 1,000名～3,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

問4 貴社・貴団体の過去3年間の平均的な正規社員の採用人数をご記入ください。

平均

名 程度を採用

問5 貴社・貴団体では、大学等の新卒者の採用選考にあたり、どのような資質、能力、知識を重視されますか。

該当する番号に3つまで○をつけてください。

- | | | | |
|---------------|----------------|-------------|---------------|
| 1. コミュニケーション力 | 6. プロデュース能力 | 11. 語学力 | 16. 一般常識 |
| 2. 合意形成能力 | 7. 課題設定・解決力 | 12. 責任感 | 17. 履修履歴・学業成績 |
| 3. マネジメント力 | 8. 主体性 | 13. 実行力 | 18. 国際性 |
| 4. イノベーション力 | 9. 創造力 | 14. チャレンジ精神 | 19. ストレス耐性 |
| 5. ビジョン形成力 | 10. チームワーク・協調性 | 15. リーダーシップ | 20. その他() |

(裏面に続く)

【ここからは、アンケートに同封しているリーフレットをご覧の上でお答えください】

問6 「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)では、
以下のような特色のある人材を育成しようとしています。以下のそれぞれの特色について5段階の中から
該当する番号1つに○をつけてください。

①コミュニケーション力・合意形成能力の育成

演劇手法を用いたコミュニケーション教育や演習形式のアクティブラーニングが中心となる授業により、豊かな「コミュニケーション力」や高度な「合意形成能力」を身につけます。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

②実践的な課題設定・解決力の育成

ICTに係る知識・技能も駆使しながら、地域の諸課題の解決に必要な情報を適切に収集、分析し、イノベーションを創出することで、その課題の解決を図る実践力を身につけます。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

③グローバル人材の育成

少人数制の実践的な語学教育に加え、学生全員が体験できる海外留学プログラム、学生寮における留学生との交流促進等を通じて、国籍や文化、価値観の違いに興味・関心を持ち、それらに柔軟に対応できる適応力を身につけた「グローバル人材」を育成します。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

④実務家教員による実践的な教育

教員の約半数が社会の現場での経験豊富な実務家教員となります。原則40人以下の少人数授業のもと、ビジネスの場で活用できる実践的な教育を実施することで、実社会で活躍できる人材を育成します。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

⑤観光創造エキスパートの育成

観光業や宿泊産業等での現場実習において、課題解決・企画提案等を通じて高度な知識・技能を身につけ、多彩な地域資源の魅力を最大限に引き出した観光ビジネスモデルを創造できる人材を育成します。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

⑥アートマネジャーの育成

公共文化施設等のアートマネジメントやパフォーミングアーツの創造・実践活動にあたりながら、アートと地域をプロジェクトマネジメントでつなぎ、社会に新たな価値を創造できる人材を育成します。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

⑦文化と観光を結ぶプロデューサーの育成

文化と観光をマーケットで結びつけることを実践的に学ぶことにより、既存の文化資源の掘り起こしや新たな文化を創出し、それを多彩な観光資源と結びつけることで、新しい事業を創造する「文化観光プロデューサー」を育成します。

1. 非常に興味がある 2. 興味がある 3. どちらでもない 4. あまり興味がない 5. 全く興味がない

問7 貴社・貴団体では、「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)
の卒業生の採用について、どのように思われますか。該当する番号1つに○をつけてください。

1. ぜひ採用したい 2. 採用したい 3. 採用は考えない

問8 問7で「1. ぜひ採用したい」「2. 採用したい」と選ばれた方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。現時点で該当する番号1つに○をつけてください。

1. 1名 2. 2名 3. 3名 4. 4名 5. 5名以上 6. 人数は未確定

問9 「国際観光芸術専門職大学 文化・観光創造学部 文化・観光創造学科」(仮称)への
ご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

国際観光芸術専門職大学(仮称)設置に関する
追加アンケート調査報告書

【事業所対象】

令和2年8月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要>	1
<アンケート集計結果>	3
<アンケート調査票>	7

<アンケート調査概要>

1. アンケート調査の目的

兵庫県では、令和3年4月開学に向けて国際観光芸術専門職大学（仮称）の設置計画を進めている。新専門職大学卒業生の採用意向など人材需要の見通しについて把握するため、令和元年5～7月にかけて、事業所等を対象にアンケート調査を実施した。

当初の調査は、対象2,000事業所に対し、回答数は505事業所に止まっていたことから、今回、新たに芸術文化及び観光分野に関連する企業等を中心に、追加の調査を実施した。

2. 実施アンケート

「国際観光芸術専門職大学（仮称）の卒業生の採用に関するアンケート調査」

3. 調査対象

47 都道府県 333 事業所を選定。

4. 調査実施時期

令和2年8月に調査を実施。

5. 調査方法

兵庫県が郵送によりアンケート調査票を配付し、調査票の回収及び集計を一般財団法人日本開発構想研究所が行った。

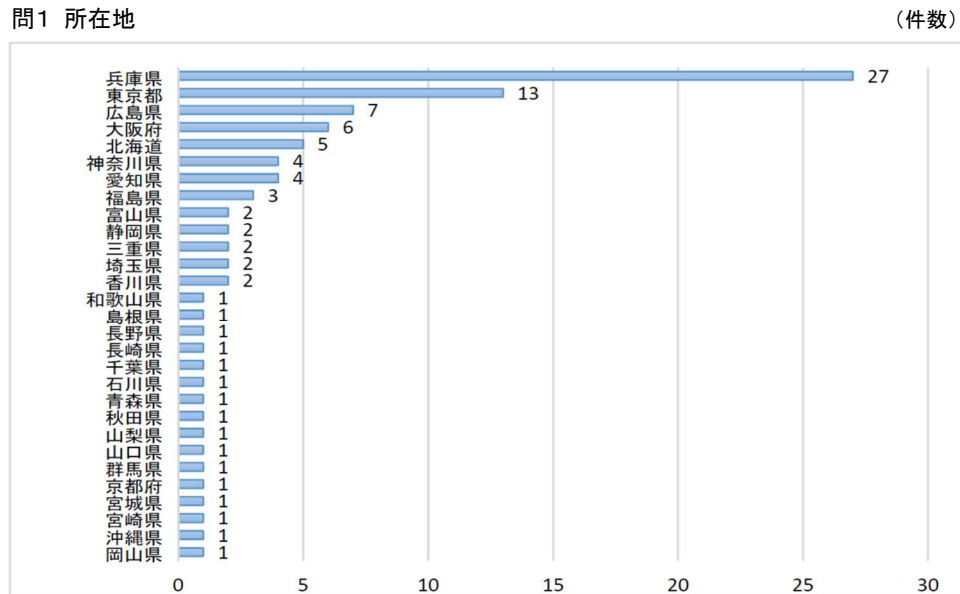
6. 回収状況

有効回答票 95 票 回収率 28.5%（有効回答票 95 票 ÷ 依頼票数 333 票 × 100）

<アンケート集計結果>

問1 貴社・貴団体の所在地(本社、本部等)をご記入ください。

「兵庫県」27 件(28.4%)が最も多く、次いで「東京都」13 件(13.7%)、「広島県」7 件(7.4%)、「大阪府」6 件(6.3%)、「北海道」5 件(5.3%)の順に続いている。



問2 貴社・貴団体の業種について、該当する番号1つに○をつけてください。

「公務」及び「文化施設(劇場、ホール含む)」18 件(18.9%)が最も多く、次いで「運輸業」13 件(13.7%)、「サービス業(他に分類されないもの)」7 件(7.4%)、「宿泊業」6 件(6.3%)となっている。

【問2 業種】

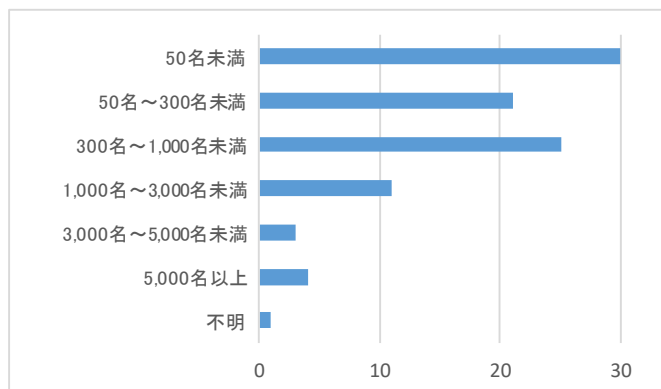
業 種	件数	割合
公務	18	18.9%
文化施設(劇場、ホール含む)	18	18.9%
運輸業	13	13.7%
サービス業(他に分類されないもの)	7	7.4%
宿泊業	6	6.3%
DMO・観光協会	4	4.2%
出版・広告・マスコミ・印刷	4	4.2%
金融業・保険業	4	4.2%
イベント企画	3	3.2%
旅行業	3	3.2%
卸売業・小売業	3	3.2%
レジャーサービス	2	2.1%
製造業	2	2.1%
情報通信業	2	2.1%
その他	2	2.1%
生活関連サービス業	1	1.1%
教育、学習支援業	1	1.1%
学術研究、専門・技術サービス業	1	1.1%
不明	1	1.1%
建設業	0	0.0%
不動産業・物品賃貸業	0	0.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%
計	95	100.0%

問3 貴社・貴団体の正規社員について、該当する番号1つに○をつけてください。

「50名未満」30件(31.6%)が最も多く、次いで「300名～1,000名未満」25件(26.3%)、「50名～300名未満」21件(22.1%)の順が続いている。

【問3 正規社員数】

区分	件数	割合
50名未満	30	31.6%
50名～300名未満	21	22.1%
300名～1,000名未満	25	26.3%
1,000名～3,000名未満	11	11.6%
3,000名～5,000名未満	3	3.2%
5,000名以上	4	4.2%
不明	1	1.1%
計	95	100.0%

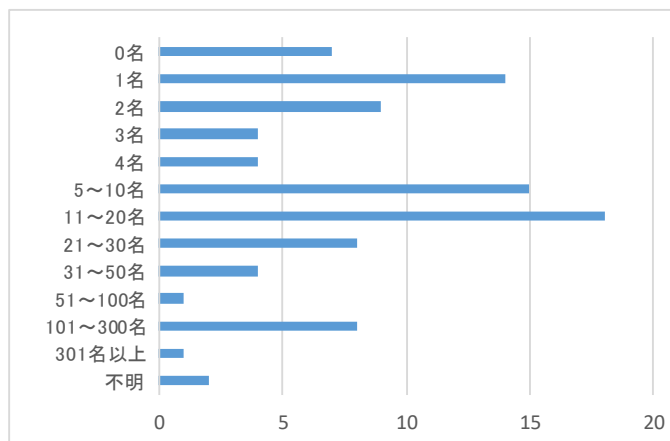


問4 貴社・貴団体の過去3年間の平均的な正規社員の採用人数をご記入ください。

「11～20名」18件(18.9%)が最も多く、次いで「5～10名」15件(15.8%)、「1名」14件(14.7%)となっている。

【問4 過去3年間の正規社員採用人数】

区分	件数	割合
0名	7	7.4%
1名	14	14.7%
2名	9	9.5%
3名	4	4.2%
4名	4	4.2%
5～10名	15	15.8%
11～20名	18	18.9%
21～30名	8	8.4%
31～50名	4	4.2%
51～100名	1	1.1%
101～300名	8	8.4%
301名以上	1	1.1%
不明	2	2.1%
計	95	100.0%



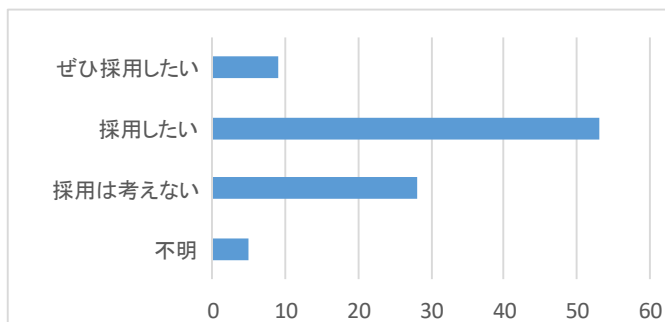
問5 貴社・貴団体では、「国際観光芸術専門職大学」(仮称)の卒業生の採用について、どのように思われますか。

「ぜひ採用したい」9件(9.5%)、「採用したい」53件(55.8%)「採用は考えない」28件(29.5%)となっている。

「ぜひ採用したい」「採用したい」を合計すると、62事業所(65.3%)が卒業生の採用に前向きな姿勢を示しているといえる。

【問5 専門職大学の卒業生の採用】

区分	件数	割合
ぜひ採用したい	9	9.5%
採用したい	53	55.8%
採用は考えない	28	29.5%
不明	5	5.3%
計	95	100.0%



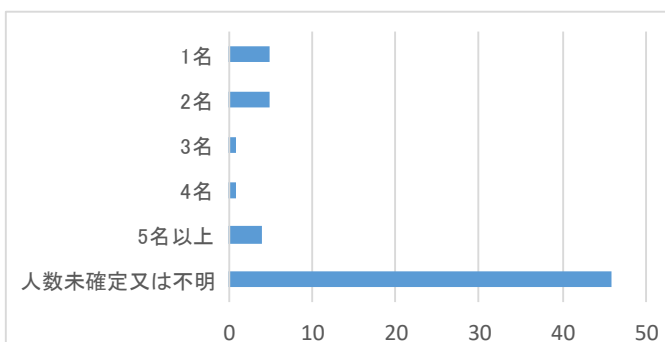
問6 問5で「1. ぜひ採用したい」「2. 採用したい」と選ばれた方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。現時点で該当する番号1つに○をつけてください。

「1名」及び「2名」が5件(8.1%)、「3名」及び「4名」が1件(1.6%)、「5名以上」4件(6.5%)、「人数は未確定又は不明」46件(74.2%)となっている。

【問6 採用を考える場合の毎年の採用人数】

区分	件数	割合
1名	5	8.1%
2名	5	8.1%
3名	1	1.6%
4名	1	1.6%
5名以上	4	6.5%
人数未確定又は不明	46	74.2%
計	62	100.0%



<アンケート調査票>

国際観光芸術専門職大学(仮称)の卒業生の採用に関するアンケート

兵庫県では、2021年(令和3年)4月に、新たに県立の4年制大学「国際観光芸術専門職大学 芸術文化観光学部 芸術文化観光学科」(仮称)を設置することとし、現在、設置認可申請を行っています。

このアンケートは、昨年6月にご協力いただいたアンケート調査に関連して、認可申請の関係で再度調査する必要が生じたため、追加で実施させていただくものです。アンケート結果は、上記の目的で統計資料としてのみ活用いたしますので、貴社・貴団体およびご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、ご協力賜りますようお願いいたします。

- ◆大学名 : 国際観光芸術専門職大学(仮称)
- ◆学部学科名 : 芸術文化観光学部 芸術文化観光学科(仮称)
- ◆設置時期 : 2021年(令和3年)4月予定 ※第1期生は2025年(令和7年)3月に卒業する予定です。
- ◆場所 : 兵庫県豊岡市山王町17番10(JR 豊岡駅から600m)

「国際観光芸術専門職大学」(仮称)の内容等につきましては、同封のリーフレットをご覧ください。

※アンケート調査票やリーフレットに記載されている内容は全て予定であり、変更する場合があります。

【貴社・貴団体についてお伺いいたします】

問1 貴社・貴団体の所在地(本社、本部等)をご記入ください。所在地 都・道・府・県

問2 貴社・貴団体の業種について、該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------------|------------------|--------------------|---------------------|
| 1. 宿泊業 | 7. イベント企画 | 13. 情報通信業 | 19. サービス業(他に分類されない) |
| 2. 旅行業 | 8. 出版・広告・マスコミ・印刷 | 14. 不動産業・物品賃貸業 | 20. 公務 |
| 3. レジャーサービス | 9. 卸売業・小売業 | 15. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 21. その他() |
| 4. 運輸業 | 10. 建設業 | 16. 生活関連サービス業、娯楽業 | |
| 5. DMO・観光協会 | 11. 製造業 | 17. 教育、学習支援業 | |
| 6. 文化施設(劇場、ホール含む) | 12. 金融業・保険業 | 18. 学術研究、専門・技術サービス | |

問3 貴社・貴団体の正規社員について、該当する番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|---------------|--------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 300名～1,000名未満 | 5. 3,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～300名未満 | 4. 1,000名～3,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

問4 貴社・貴団体の過去3年間の平均的な正規社員の採用人数をご記入ください。平均 名 程度を採用

問5 貴社・貴団体では、「国際観光芸術専門職大学」(仮称)の卒業生の採用について、どのように思われますか。

該当する番号1つに○をつけてください。

1. ぜひ採用したい 2. 採用したい 3. 採用は考えない

問6 問5で「1. ぜひ採用したい」「2. 採用したい」と選ばれた方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何人程度の採用を想定されますか。現時点で該当する番号1つに○をつけてください。

1. 1名程度 2. 2名程度 3. 3名程度 4. 4名程度 5. 5名以上
6. 人数は未確定(2～3年に1名程度) 7. 人数は未確定(欠員が出れば採用)
8. その他()

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

お手数ではございますが、同封の返信用封筒により、令和2年8月12日(水)までにご投函いただきますようお願いいたします。

採用意向等調査結果の集計【事業所対象】

(人材需要に関するアンケートのクロス集計①)

1. 卒業生の採用意向

(単位:件)

区 分	本学の卒業生の採用						
	合 計	ぜひ採用 したい	採用 したい	小 計	採用は 考えない	不 明	
芸術文化分野 (①+②)	230	9	117	126	79	25	
	100.0	3.9	50.9	54.8	34.3	10.9	
①アートマネジャー	文化施設 (劇場、ホール含む)	143	4	63	67	59	17
		100.0	2.8	44.1	46.9	41.3	11.9
	イベント企画	13	-	7	7	6	-
	100.0	-	53.8	53.8	46.2	-	
	計	156	4	70	74	65	17
	100.0	2.6	44.9	47.4	41.7	10.9	
②アーツカウンシル ・ディレクター	公務	74	5	47	52	14	8
	100.0	6.8	63.5	70.3	18.9	10.8	
観光分野 (③+④)	191	22	99	121	61	9	
	100.0	11.5	51.8	63.4	31.9	4.7	
③観光事業プランナー ・マネジャー	旅行業	58	4	31	35	17	6
		100.0	6.9	53.4	60.3	29.3	10.3
	レジャーサービス	13	2	7	9	3	1
		100.0	15.4	53.8	69.2	23.1	7.7
	運輸業	22	2	15	17	5	-
	100.0	9.1	68.2	77.3	22.7	-	
宿泊業	56	14	34	48	7	1	
	100.0	25.0	60.7	85.7	12.5	1.8	
	計	149	22	87	109	32	8
	100.0	14.8	58.4	73.2	21.5	5.4	
④DMOディレクター	DMO・観光協会	42	-	12	12	29	1
	100.0	-	28.6	28.6	69.0	2.4	
芸術文化及び観光分野 計 (①+②+③+④)	421	31	216	247	140	34	
	100.0	7.4	51.3	58.7	33.3	8.1	
⑤その他の業種	179	12	91	103	64	12	
	100.0	6.7	50.8	57.5	35.8	6.7	
出版・広告・マスコミ・印刷	18	-	11	11	7	-	
	100.0	-	61.1	61.1	38.9	-	
卸売業・小売業	14	1	6	7	5	2	
	100.0	7.1	42.9	50.0	35.7	14.3	
建設業	10	2	6	8	2	-	
	100.0	20.0	60.0	80.0	20.0	-	
製造業	19	1	8	9	9	1	
	100.0	5.3	42.1	47.4	47.4	5.3	
金融業・保険業	10	1	7	8	2	-	
	100.0	10.0	70.0	80.0	20.0	-	
情報通信業	6	-	5	5	1	-	
	100.0	-	83.3	83.3	16.7	-	
不動産業・物品賃貸業	3	-	1	1	1	1	
	100.0	-	33.3	33.3	33.3	33.3	
電気・ガス・熱供給・水道業	2	-	-	-	2	-	
	100.0	-	-	-	100.0	-	
生活関連サービス業	6	-	3	3	3	-	
	100.0	-	50.0	50.0	50.0	-	
教育、学習支援業	4	-	1	1	3	-	
	100.0	-	25.0	25.0	75.0	-	
学術研究、専門・技術サービス業	3	1	1	2	1	-	
	100.0	33.3	33.3	66.7	33.3	-	
サービス業(他に分類されないもの)	43	-	23	23	18	2	
	100.0	-	53.5	53.5	41.9	4.7	
その他	21	4	8	12	6	3	
	100.0	19.0	38.1	57.1	28.6	14.3	
不明	20	2	11	13	4	3	
	100.0	10.0	55.0	65.0	20.0	15.0	
合 計	600	43	307	350	204	46	
	100.0	7.2	51.2	58.3	34.0	7.7	

※ 上段は件数、中段()は定員80人に対する倍率、下段は割合(%)

(人材需要に関するアンケートのクロス集計②)

2. 採用を考える場合の毎年の採用人数

(単位:件)

区 分		採用を考える場合の毎年の採用人数					採用人数 合計(注)
		1名	2名	3名	4名	5名以上	
芸術文化分野 (①+②)		17	9	-	1	1	44人
①アートマネジャー	文化施設 (劇場、ホール含む)	11	5	-	-	1	26人
	イベント企画	2	4	-	-	-	10人
	計	13	9	-	-	1	36人
②アーツカウンシル ・ディレクター	公務	4	-	-	1	-	8人
観光分野 (③+④)		29	18	7	2	3	109人
③観光事業プランナー ・マネジャー	旅行業	11	6	1	-	-	26人
	レジャーサービス	2	1	1	-	-	7人
	運輸業	2	3	-	-	1	13人
	宿泊業	12	8	5	2	2	61人
	計	27	18	7	2	3	107人
④DMOディレクター	DMO・観光協会	2	-	-	-	-	2人
芸術文化及び観光分野 計 (①+②+③+④)		46	27	7	3	4	153人 (1.9)
⑤その他の業種		25	8	2	-	2	57人
出版・広告・マスコミ・印刷		4	-	1	-	-	7人
卸売業・小売業		1	2	-	-	-	5人
建設業		5	1	1	-	-	10人
製造業		1	1	-	-	-	3人
金融業・保険業		-	-	-	-	1	5人
情報通信業		-	1	-	-	-	2人
不動産業・物品賃貸業		-	-	-	-	-	0人
電気・ガス・熱供給・水道業		-	-	-	-	-	0人
生活関連サービス業		-	-	-	-	-	0人
教育、学習支援業		-	-	-	-	-	0人
学術研究、専門・技術サービス業		-	-	-	-	-	0人
サービス業(他に分類されないもの)		6	1	-	-	-	8人
その他		4	1	-	-	1	11人
不明		4	1	-	-	-	6人
合 計		71	35	9	3	6	210人 (2.6)

※ 下段()は定員80人に対する倍率

(注) 採用想定人数は、「5名以上」→5名、「未確定」「不明」→0名で算出